

下松市総合計画 後期基本計画策定のための

「まちづくり市民アンケート」

調査結果報告書

平成 27 年 1 月

下 松 市

目 次

I. 調査の概要	-----	1
1. 調査の目的	-----	1
2. 調査の方法	-----	1
3. 回収結果	-----	1
4. 留意事項	-----	1
II. 調査結果	-----	
1. 回答者の属性（問1）	-----	2
2. 日常生活の関心や地域との関わり	-----	1 1
(1) 社会経済状況への関心事項（問2）		1 1
(2) 地域活動への参加（問3）		1 4
(3) 協働のしくみづくりの重要点（問4）		1 7
3. 下松市の魅力や定住意向	-----	2 0
(1) 下松市の魅力・満足度（問5）		2 0
(2) 下松市への永住希望（問6）		2 4
4. 市の施策・事業の評価	-----	2 5
(1) まちづくり施策の満足度（問7）		2 5
(2) 今後重要な施策（問8）		2 9
(3) 主要事業・プロジェクトの認知と課題（問9）		3 3
(4) 市の行政全般への評価（問19）		3 6
5. 個別テーマ設問	-----	3 8
(1) 笠戸島の活性化方策（問10）		3 8
(2) 米川の活性化方策（問11）		4 0
(3) 産業育成の方向（問12）		4 2
(4) 人口動向への対応方向（問13）		4 4
(5) 今後の子育て支援方策（問14）		4 6
(6) 高齢化社会のまちづくりの重点（問15）		4 8
(7) 災害への日頃の備え（問16）		5 0
(8) 急ぐべき防災対策（問17）		5 2
(9) 効率的な都市づくりの方向（問18）		5 4
6. 自由意見	-----	5 6
(1) 市の行政全般への評価が良くない主な理由（問19）		5 6
(2) 今後のまちづくりや行政運営について自由な意見（問20）		5 7
アンケート調査票	-----	巻末

I. 調査の概要

1. 調査の目的

下松市総合計画は、市のまちづくり施策の総合的指針として、平成 23 年 3 月にそれまでの計画を改訂して、「都市と自然のバランスのとれた住みよさ日本一の星ふるまち」を将来都市像に掲げて策定したものである。このうち、前期基本計画が平成 27 年度で終了するため、平成 28 年度からの後期基本計画の策定にあたり、市民の意見、意向を計画に反映させることを目的として、本アンケート調査を実施したものである。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象者 : 下松市内に居住する 20 歳以上の男女
- (2) 標本数 : 2,000 人
- (3) 選定方法 : 住民基本台帳からの完全無作為抽出
- (4) 実施方法 : 郵送配布、郵送回収
(別に市ホームページに掲載し、市役所、出張所等でも受付)
- (5) 実施時期
 - 調査票の設計 : 平成 26 年 6～7 月
 - 調査票の配布 : 平成 26 年 8 月下旬
 - 調査票の回収 : 平成 26 年 9 月 (回収期限 9 月末日)
(実際は 10 月中旬まで受付)
 - 集計・分析 : 平成 26 年 10～11 月

3. 回収結果

有効回収数 928 票
有効回収率 46.4%

4. 留意事項

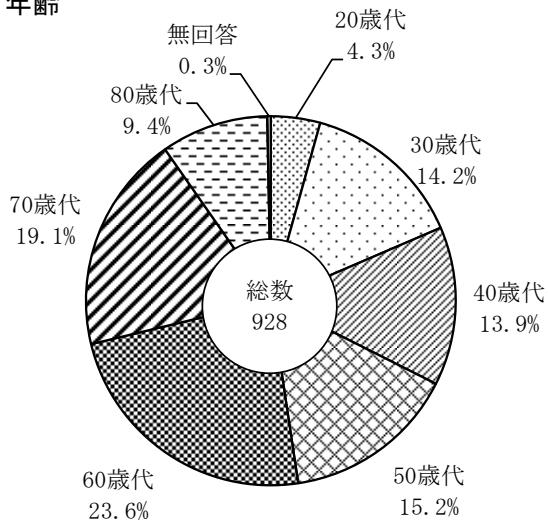
以下の報告内容においては、次の点に留意されたい。

- ・ 回答の選択肢別構成比 (%) は原則として小数点以下第二位を四捨五入して小数点以下第一位までを表示している。従って、各選択肢の構成比の合計が 100.0% に一致しない場合がある。
- ・ 複数回答の場合は、回答者数を母数とするため、各選択肢の構成比の合計が 100% を超えることとなる。
- ・ 年齢別や居住地区別などの属性別のクロス集計においては、サンプル数が少ない属性があるため、当該属性の結果が十分な精度を持たない場合があり得る。
- ・ 属性別のクロス集計では、属性の相違による目立った傾向の差異が認められるものを中心にそのグラフ等を掲載している。
- ・ 要所で、同じ設問を行っている過去の調査結果との比較を示している。「前回 (H21)」とあるのは、平成 21 年度に行った下松市総合計画 (基本構想及び前期基本計画)・下松市都市計画マスタープラン策定に際してのアンケート調査である。

II. 調査の結果

1. 回答者の属性

a. 年齢



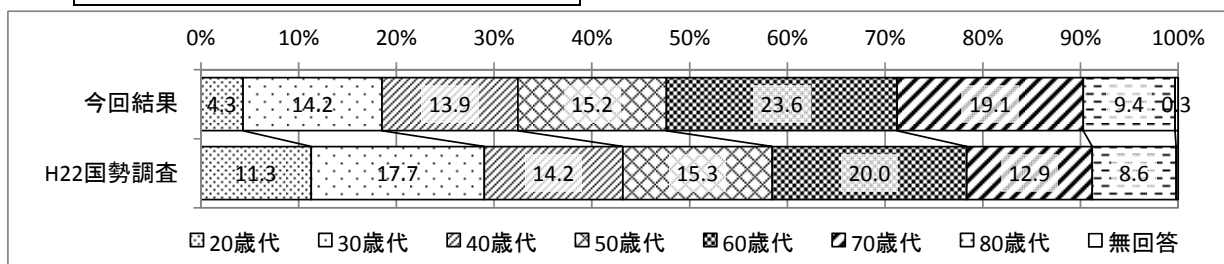
回答者の年齢構成は高齢層に偏っており、60歳代以上が半数以上を占める。逆に若年層のわり合いは少なく、20～30歳代は合わせても2割にも満たない。

平成 22 年国勢調査による市の年齢分布（20歳以上）と比較すると、回答者の高齢者層への偏りが歴然としており、無作為抽出で選定しているものの、若年層の回答率の低さ、高齢者層での高さが顕著に現れているといえる。

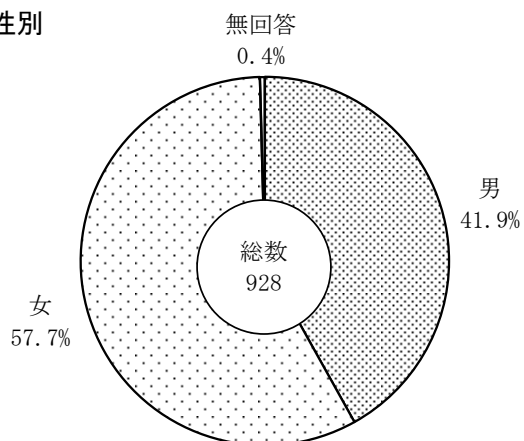
以後の分析結果の評価にはこの点に留意する必要がある。

市人口の年齢分布（国勢調査）との比較

(H22 国勢調査は 20 歳以上の中での割合)



b. 性別

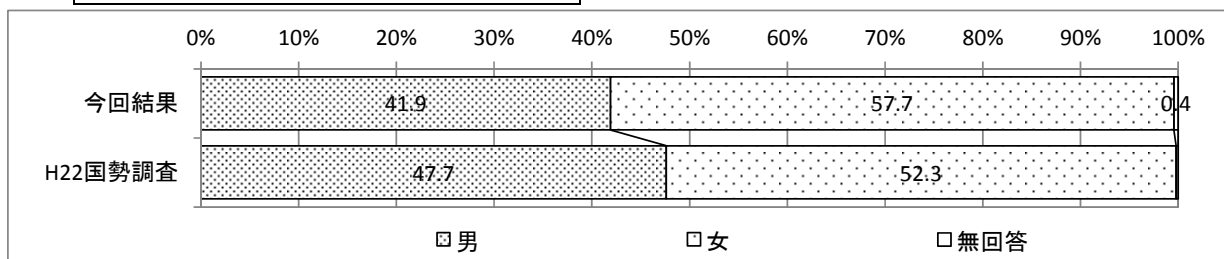


回答者の男女比率は、女性が 57.7%と多くなっており、平成 22 年国勢調査による市の実際の男女比率（20歳以上）と比較しても女性の比率がかなり高くなっている。

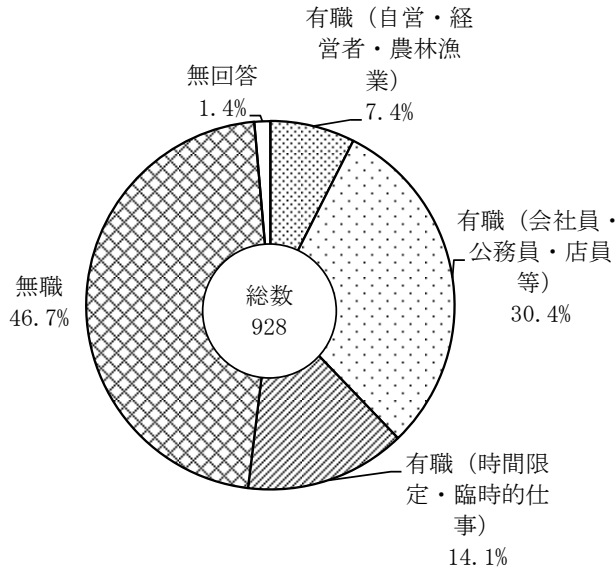
男性よりも女性の方が回答率が高いことを表しており、この点も、以後の分析結果の評価に際しては留意する必要がある。

市人口の性別分布（国勢調査）との比較

(H22 国勢調査は 20 歳以上の中での割合)



c. 職業の有無



「収入を得る仕事をしていない」の回答が46.7%を占めるが、30～50歳代ではその割合は少なく、高齢者層及び女性で特に高くなっている。

「収入を得る仕事をしている」の中では「会社員・公務員・店員など（常勤雇用）」が半数以上を占めるが、40～50歳代以上及び女性では「パート・アルバイト・非常勤など時間限定的、臨時的な仕事」の割合が比較的高く、それぞれの就業形態の相違を表している。

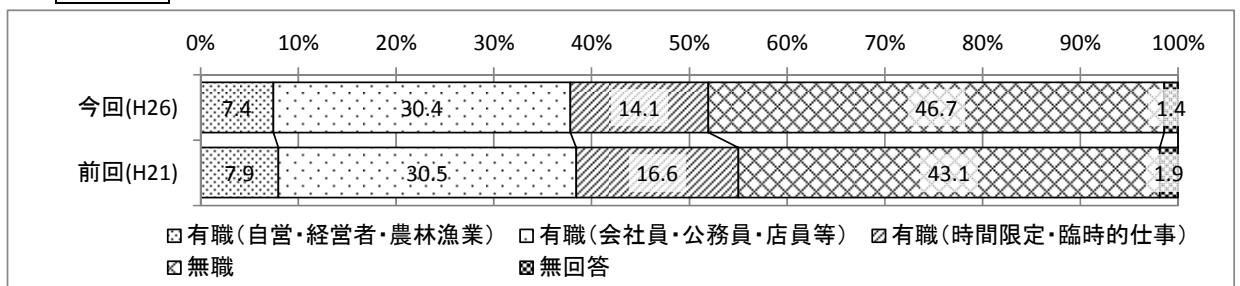
また、前回（平成21年）調査とはほぼ同様の結果であるが「無職」の割合がやや増加している。

- (選択肢)
1. 自営業者・会社経営者・農林漁業者
 2. 会社員・公務員・店員など（常勤で雇用されている）
 3. パート・アルバイト・非常勤など時間限定的・臨時的な仕事
 4. 収入を得る仕事はしていない
- } 有職
= 無職

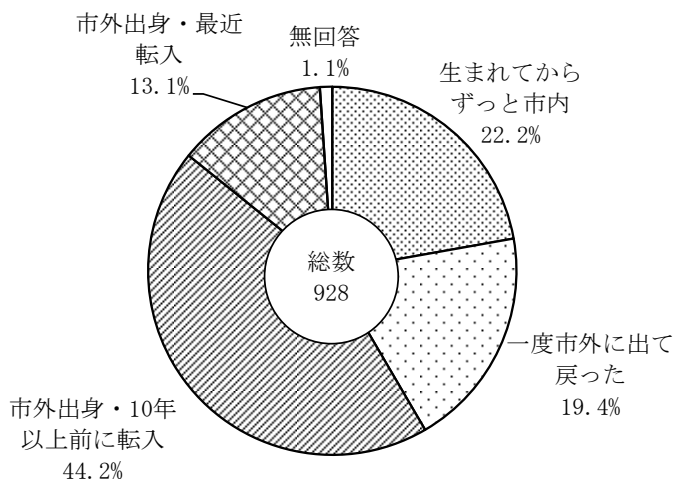
単位:% (5%未満非表示)

	有職 (自営・経営者・農林漁業)	有職 (会社員・公務員・店員等)	有職 (時間限定・臨時の仕事)	無職	無回答
全体 (928)	7.4	30.4	14.1	46.7	1.4
年齢別					
20歳代 (40)		52.5	7.5	37.5	
30歳代 (132)		56.8	12.1	25.8	
40歳代 (129)	7.0	49.6	20.2	22.5	
50歳代 (141)	7.8	51.1	21.3	19.9	
60歳代 (219)	9.1	21.0	16.0	53.9	
70歳代 (177)	8.5	11.3	76.3		
性別					
男 (389)	10.5	45.8	6.4	36.5	
女 (535)	5.0	19.4	19.8	54.4	

前回比較



d. 市内居住経緯



(選択肢)

1. 生まれてからずっと下松市に住んでいる
2. 下松市出身だが、一度市外に出て再び下松市に戻ってきた
3. 市外出身で、10年以上前に下松市に転入してきた
4. 市外出身で、最近（10年未満）に下松市に転入してきた

市外出身者が全体の半数以上を占め、「生まれてからずっと市内」の割合は2割強である。市外出身者の中では、「10年以上前に転入」が多くを占めるが、20～30歳代では最近（10年未満）に転入の割合が高い。

また、Uターン者の割合は全体では2割弱で、特に20～30歳代での割合が高い。

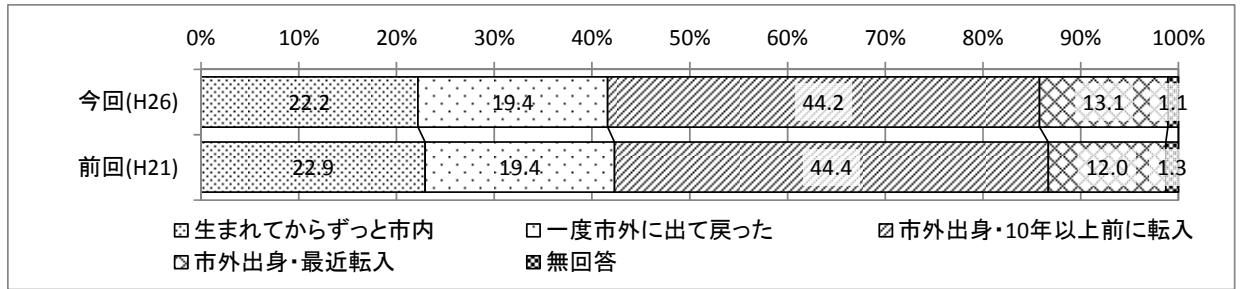
「生まれてからずっと市内」の割合は高齢者層ほど高く、また男性の方が高い。地区別では、笠戸島、米川地区で、サンプル数は少ないものの「生まれてからずっと」が特に多くなっている。

この結果は、前回（平成21年）調査とほぼ同様の傾向である。

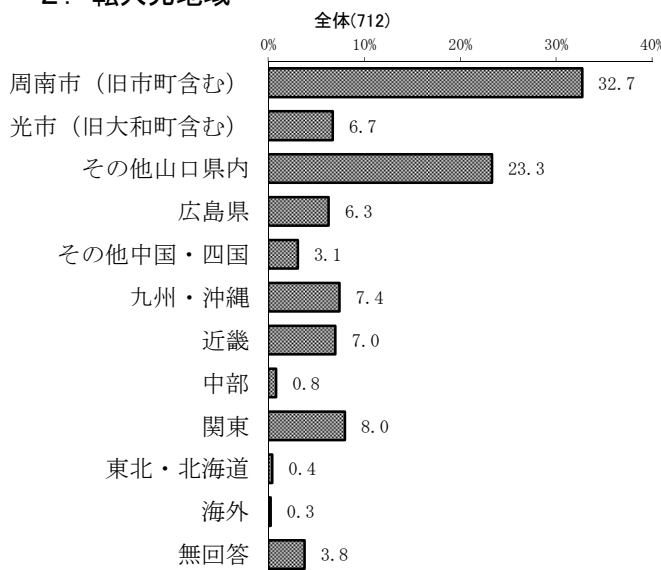
単位: % (5%未満非表示)

	生まれてからずっと市内	一度市外に出て戻った	市外出身・10年以上前に転入	市外出身・最近転入	無回答	
全体 (928)	22.2	19.4	44.2	13.1	1.1	
年齢別	20歳代 (40)	25.0	35.0	7.5	30.0	
	30歳代 (132)	15.2	27.3	18.9	38.6	
	40歳代 (129)	11.6	22.5	45.0	20.9	
	50歳代 (141)	19.9	24.1	45.4	9.2	
	60歳代 (219)	21.5	19.2	52.1	6.4	
	70歳代 (177)	29.9	10.2	57.6		
	80歳代 (87)	37.9	8.0	50.6		
	性別	男 (389)	27.2	19.8	40.6	11.8
女 (535)		18.7	19.3	46.9	14.2	
居住地区別	下松地区 (253)	21.3	20.2	45.1	13.0	
	未武地区 (274)	21.9	23.0	35.8	18.6	
	花岡・生野屋地区 (183)	22.4	15.3	50.8	10.4	
	久保・東陽地区 (184)	20.1	16.8	53.3	8.7	
	笠戸島地区 (12)	50.0	8.3	25.0	16.7	
	米川地区 (15)	40.0	33.3	26.7		

前回比較



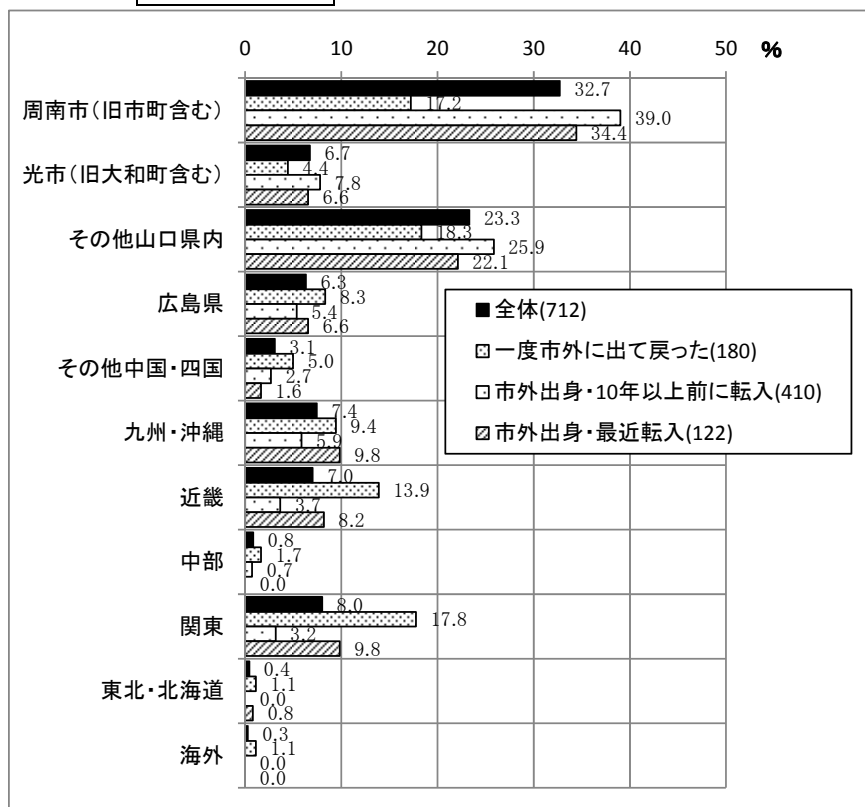
d-2. 転入元地域



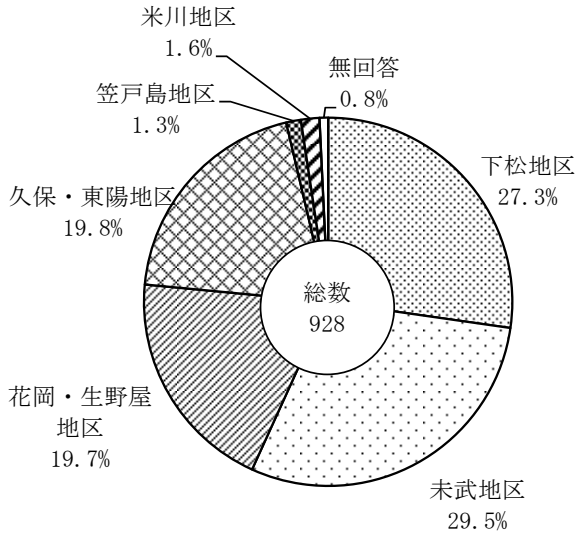
前問で、「一度市外に出て戻った」または「市外出身」と回答した人に、転入元の地域をたずねたところ、周南市（旧市町を含む）が最も多く、光市、その他山口県内を合わせて6割以上が県内である。

市内居住経緯別にみると、Uターン者は関東、近畿の割合が比較的高く、大都市部の大学等を卒業後の帰郷が一定数あることを示している。一方、市外出身者の転入元は、周南市はじめ県内が比較的多いのが特徴であり、県内から人口を吸引している状況がうかがえる。

市内居住経緯別



e. 居住地区

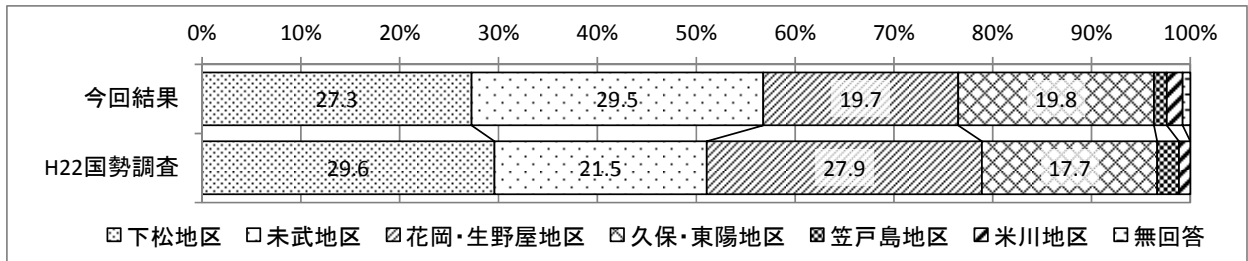


回答者の居住地区は、未武地区が最も多く約3割を占め、下松地区がこれに次いでいる。さらに、花岡・生野屋地区、久保・東陽地区がそれぞれ2割弱で続いている。

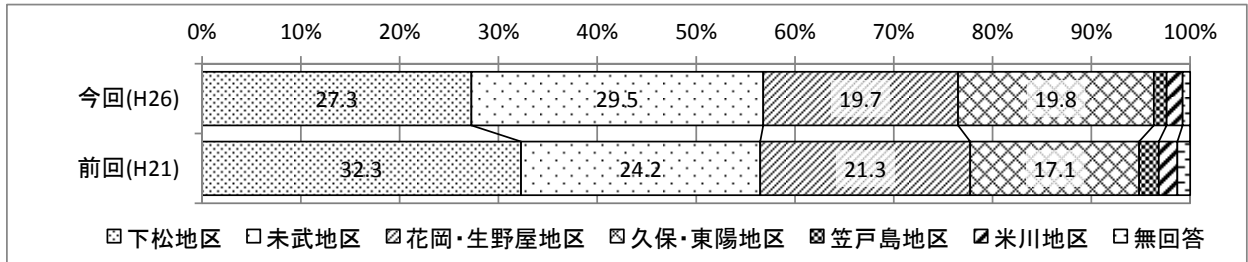
平成22年国勢調査による人口分布（全年齢）と比較すると、未武地区、久保地区の割合が比較的高く、花岡、下松地区の割合が比較的低くなっているが、回答者が自らの居住地区区分を正確に把握していない可能性もある。

前回（平成21年）調査との比較では、未武地区、久保地区の比重が増加している一方、下松地区の比重が目立って低下している。上記と合わせて、近年の市内地区間の人口比重の変化を反映している部分もあると考えられる。

市人口の地区別分布（国勢調査）との比較 (H22国勢調査は全年齢での地区別割合)



前回比較

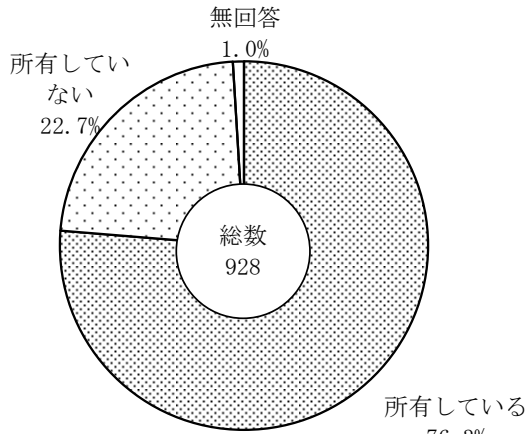


居住地区分布を市内居住経緯別にみると、最近の転入者及びUターン者は未武地区に居住する割合が目立って高いことがわかる。最近の転入者及びUターン者は若年層が多いことから、未武地区の年齢構成を若い層が多い方向に推移させるような人口流入があることを示している。

単位: % (5%未満非表示)

		下松地区	未武地区	花岡・生野屋地区	久保・東陽地区	笠戸島地区	米川地区	無回答
市内居住経緯別	全体(928)	27.3	29.5	19.7	19.8	1.3	1.6	0.8
	生まれてからずっと市内(206)	26.2	29.1	19.9	18.0	1.3	1.6	0.8
	一度市外に出て戻った(180)	28.3	35.0	15.6	17.2	1.3	1.6	0.8
	市外出身・10年以上前に転入(410)	27.8	23.9	22.7	23.9	1.3	1.6	0.8
	市外出身・最近転入(122)	27.0	41.8	15.6	13.1	1.3	1.6	0.8

f. 土地の所有



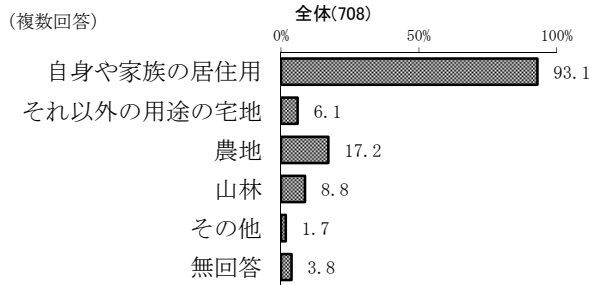
マンション等の区分所有を含め、世帯で土地を所有している回答者は 76.3%と全体の約 3 / 4 を占めている。

「所有している」割合は、年齢が高い層で高く、若年層（20～30 歳代）は半数程度にとどまっている。また、それら若年層の比重が高い末武地区や市街地の下松地区では「所有」の割合が比較的低い。また、市外から「最近転入」した人の「所有」割合も半数以下と低く、若年層を中心とした末武地区等に住む流入人口は、比較的流動性が高いことを想起させる。

単位: % (5%未満非表示)

	所有している	所有していない	無回答
全体 (928)	76.3		22.7
年齢別			
20歳代 (40)	52.5		47.5
30歳代 (132)	48.5		50.8
40歳代 (129)	69.8		29.5
50歳代 (141)	80.9		18.4
60歳代 (219)	85.4		13.7
70歳代 (177)	88.1		11.3
80歳代 (87)	87.4		12.6
居住地区別			
下松地区 (253)	71.5		27.3
末武地区 (274)	69.3		30.3
花岡・生野屋地区 (183)	81.4		18.6
久保・東陽地区 (184)	88.6		10.9
笠戸島地区 (12)	83.3		16.7
米川地区 (15)	86.7		13.3
市内居住経緯別			
生まれてからずっと市内 (206)	87.9		11.2
一度市外に出て戻った (180)	73.9		26.1
市外出身・10年以上前に転入 (410)	82.4		16.8
市外出身・最近転入 (122)	41.8		57.4

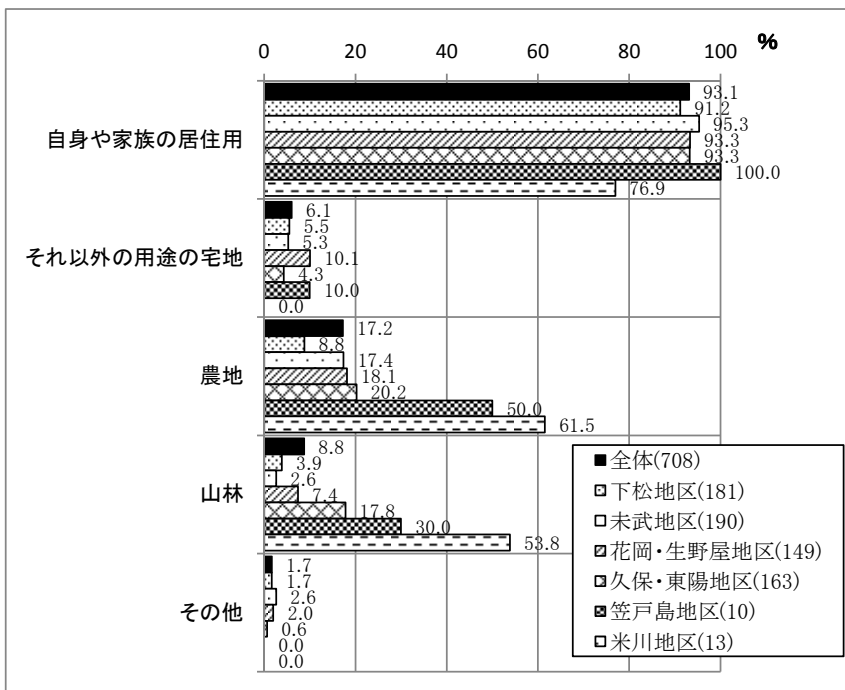
f-2. 所有する土地の用途



前問で、世帯で土地を「所有している」と回答した人に、その用途を複数回答でたずねた結果、「自身や家族の居住用」が大半を占めるが、「農地」や「山林」の回答もある。

地区別にみると、「農地」や「山林」の割合が高いのは、笠戸島、米川地区であり、下松地区では「農地」の割合が目立って低く、「山林」の割合は下松及び末武地区で特に低いなど、各地区の土地利用の状況を反映した結果となっている。

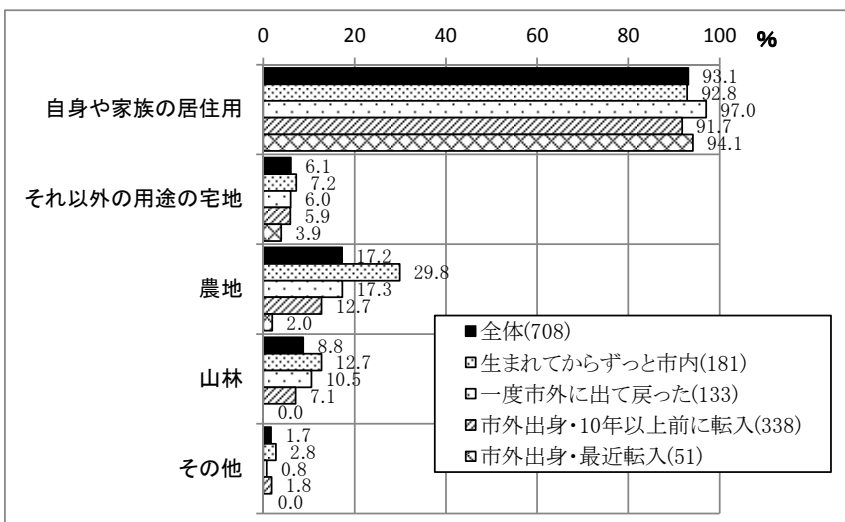
居住地区別



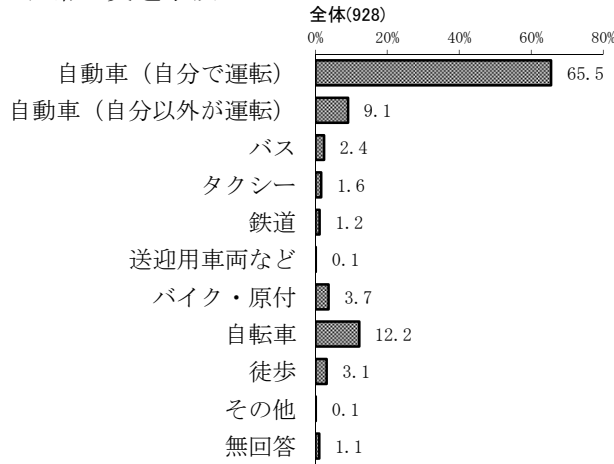
「居住用の宅地」の割合は、市内居住経緯の如何にかかわらず9割程度の値を示しているが、「農地」や「山林」の割合は、「生まれてからずっと市内」の人やUターン者で比較的高い値を示している。

また、市外出身者でも10年以上前の転入者で農地、山林の所有者がいることが興味深い。結婚等で転入した人が含まれると思われる。

市内居住経緯別



g. 日常の交通手段

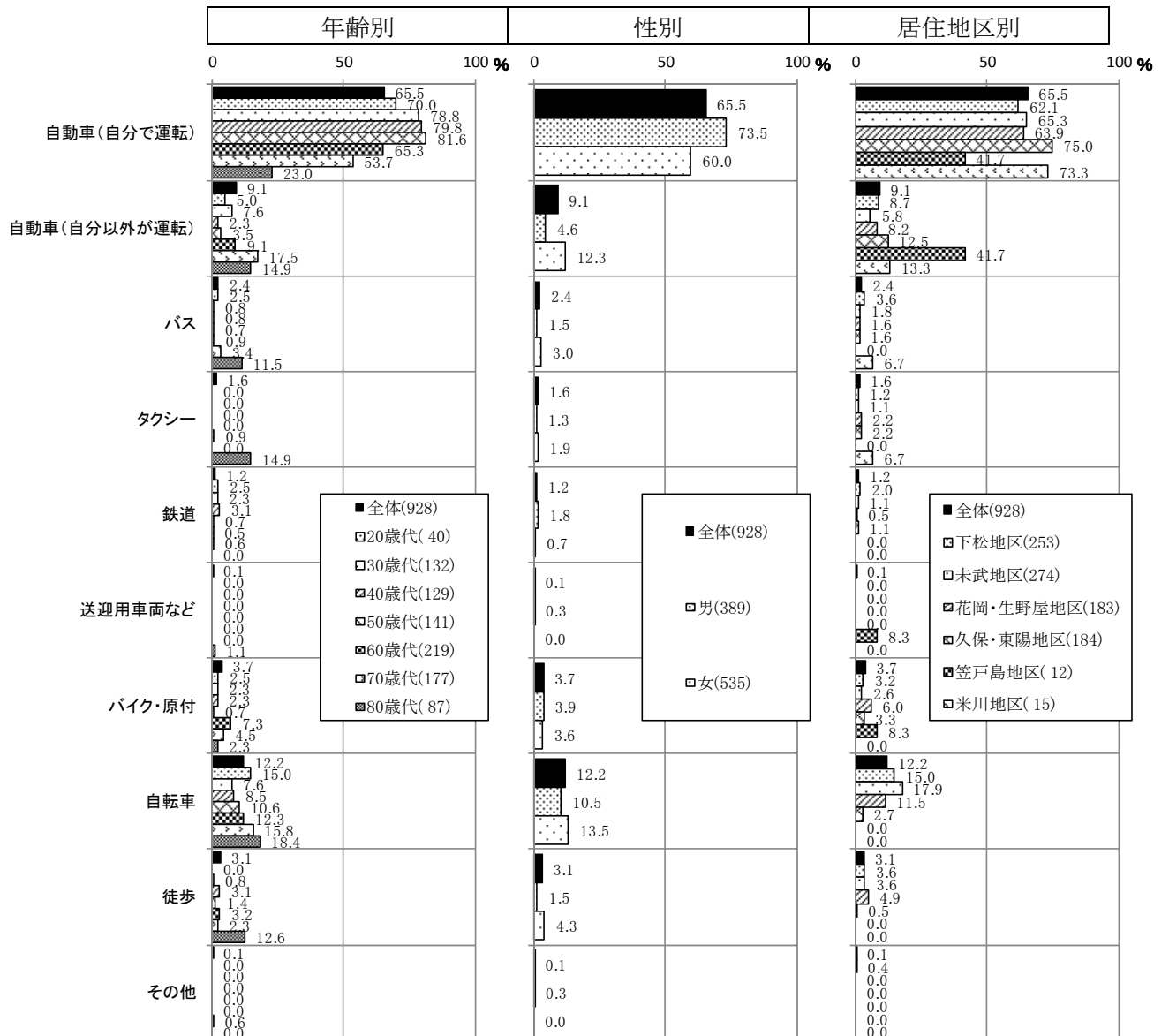


通勤通学や買物、通院等の日常生活での主な交通手段は、「自分で運転の自動車」の回答が **65.5%**と全体の2/3近くを占める。

「自分以外が運転の自動車」を合わせると全体の約3/4が日常生活での移動を自動車に依存していることになる。

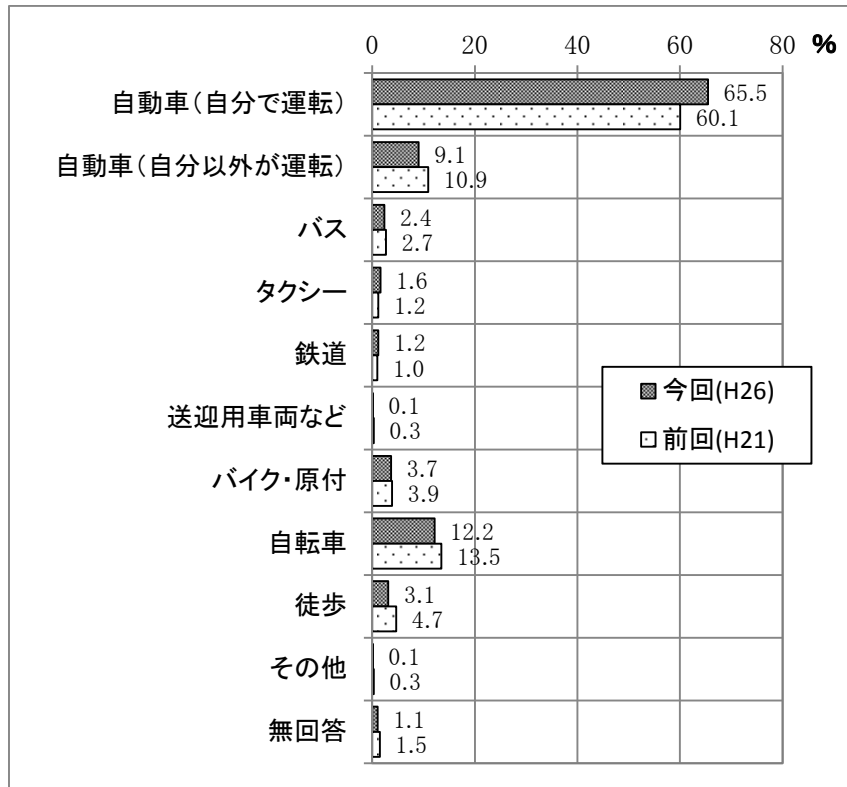
自動車以外では、「自転車」の **12.2%**が目立つところで、「バス」、「鉄道」といった公共交通機関の割合はわずかである。

「自分で運転の自動車」の割合が特に高いのは30~50歳代で、高齢者ではその割合が低下し、「自分以外の運転の自動車」や「バス」、「タクシー」、「自転車」などの割合が増す。また、女性では「自分以外の運転の自動車」や「自転車」の割合が比較的高いことや、地区別では笠戸島地区で「自分以外の運転の自動車」、下松、末武地区で「自転車」の利用割合が相対的に高いなどの特徴が見られる。



前回（平成 21 年）調査でも同じ設問をしているが、「自分で運転の自動車」の割合が 5 ポイントほど増加し、その分、他の機関の割合が概ね低下しているように見える。市民生活の自動車依存度は増大を続けていると見ることができるが、前述のように、高齢者等で自動車を運転できない層が増加することから、自動車以外の移動手段も求められるところである。

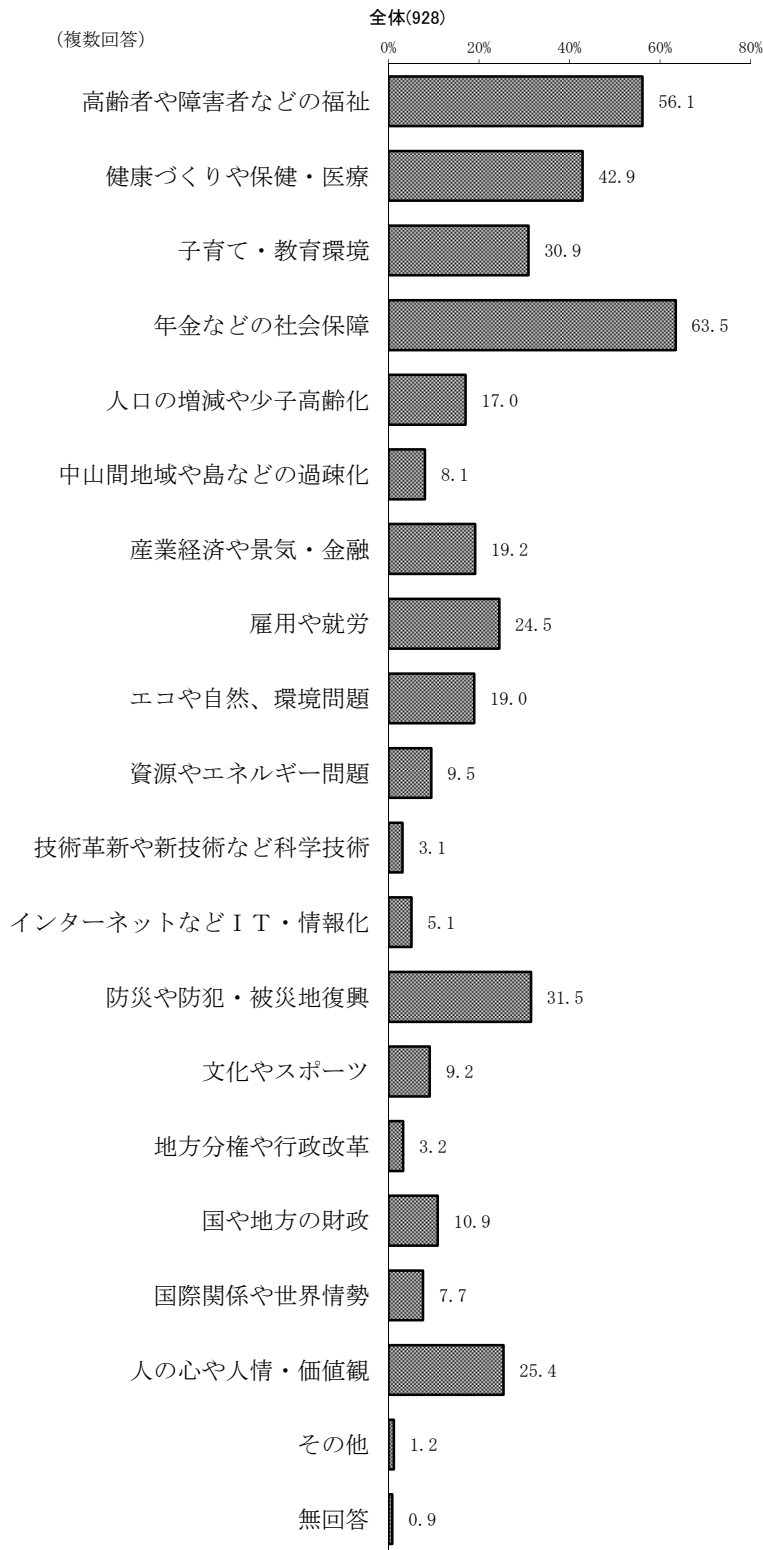
前回との比較



2. 日常生活の関心や地域との関わり

(1) 社会経済状況への関心事項 (問2)

市民生活を取り巻く社会や経済の状況に対する関心の状況を、複数の項目から4つまで選択する方式でたずねた。



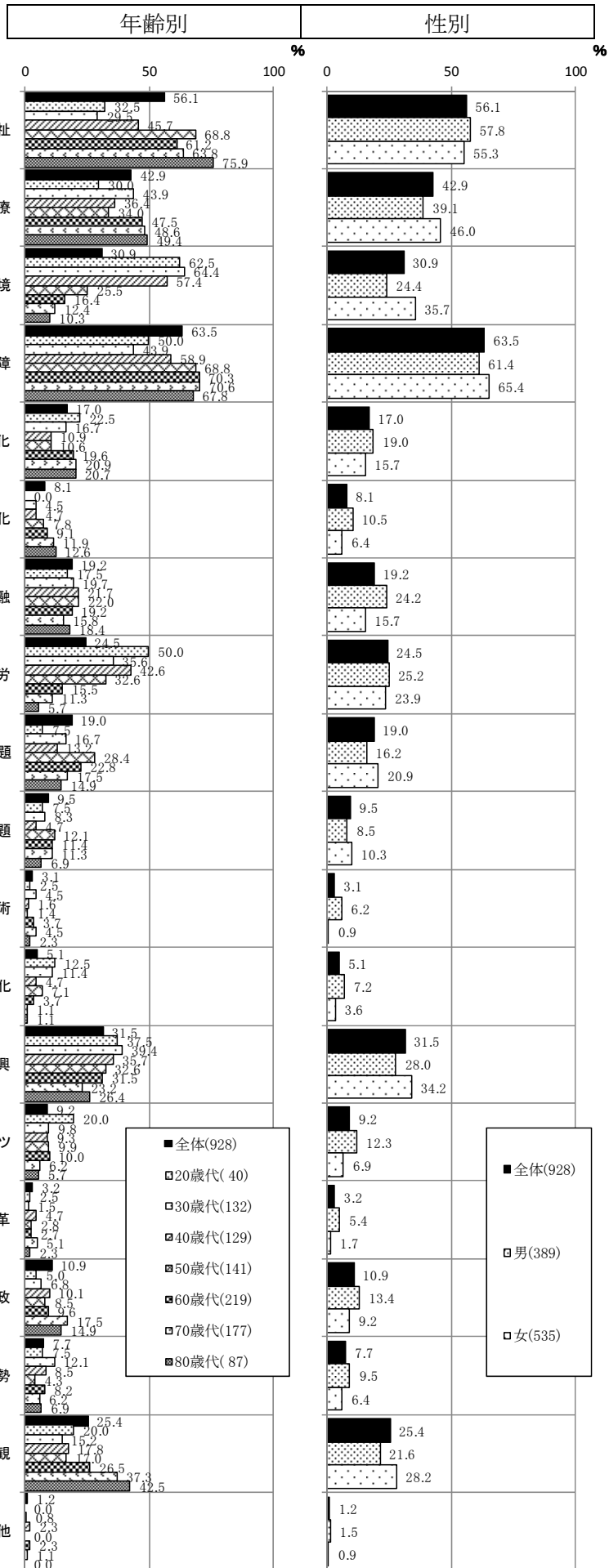
上位を占めたのは、「年金などの社会保障」、「高齢者や障害者などの福祉」、「健康づくりや保健・医療」といった、高齢化社会を反映した項目である。

また、「防災や防犯・被災地復興」、「子育て・教育環境」がこれに次いでいるのは、近年多発する災害への不安や、少子化による次世代育成への関心の現れとも読み取られる。

さらに、「人の心や人情・価値観」への関心度がこれに次いでいることが注目される一方で、「雇用や就労」、「産業経済や景気・金融」の割合が続くことは、地方の景気回復への期待の現れともみられる。

「年金などの社会保障」、「高齢者や障害者などの福祉」は高齢者で特に関心割合が高く、「人の心や人情・価値観」も同様である。逆に、「子育て・教育環境」、「雇用や就労」、「防災や防犯・被災地復興」などは比較的若い層で関心割合が高いなど、世代による特徴が現れている。

性別では、「健康づくりや保健・医療」、「子育て・教育環境」、「防災や防犯・被災地復興」、「人の心や人情・価値観」などで女性の方が比較的関心割合が高く、逆に、「産業経済や景気・金融」、「文化やスポーツ」では男性の方が割合が高いのが興味深い。

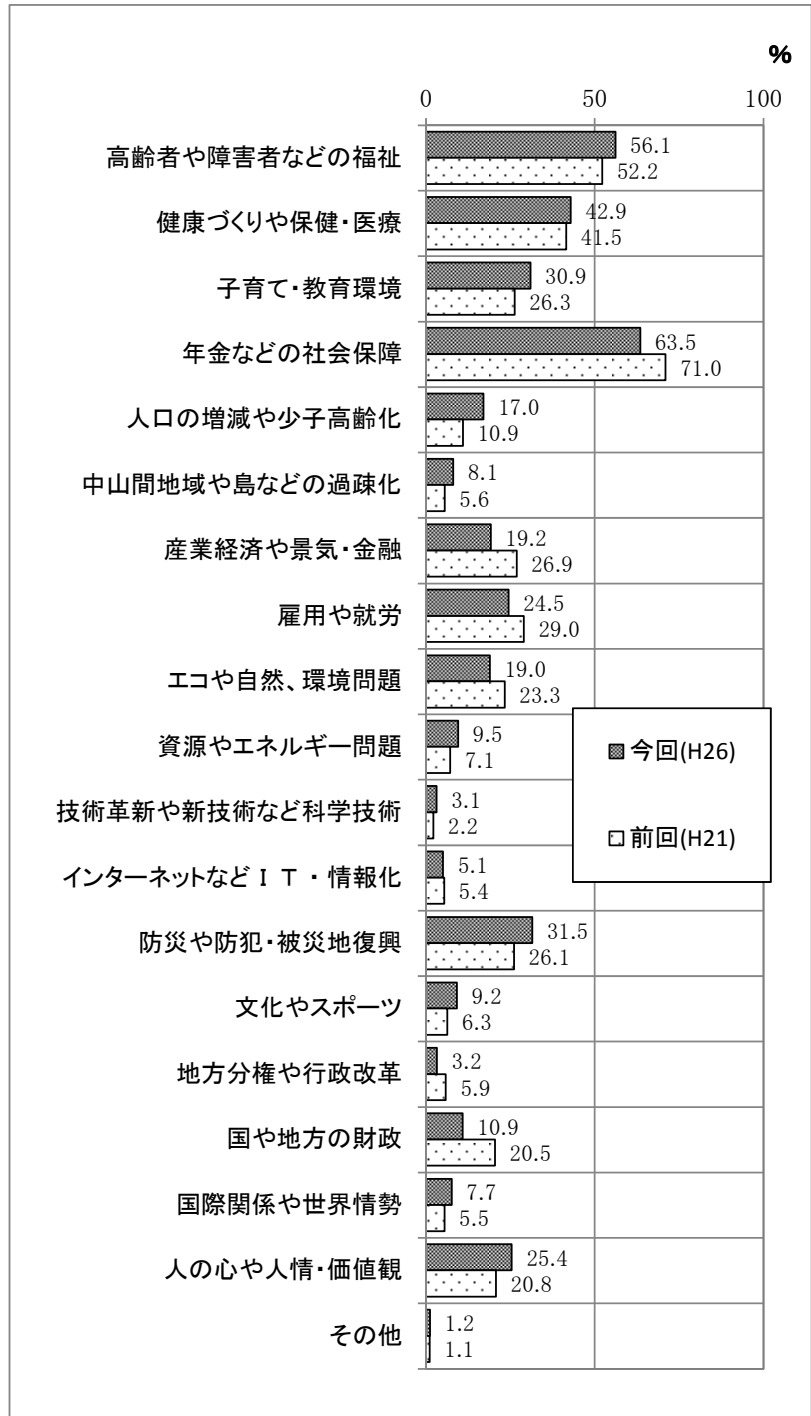


前回比較

前回（平成 21 年）調査でも同じ設問をしており、全体集計結果を比較すると、前回に比べて関心割合の値が最も増加したのは「防災や防犯・被災地復興」（5.4 ポイント増）であり、東日本大震災や広島市での土砂災害などを通じて災害やそれに対する備えへの関心が高まっていることが伺える。

このほか、「人の心や人情・価値観」、「高齢者や障害者などの福祉」、「健康づくりや保健・医療」、「人口の増減や少子高齢化」に加え、「資源やエネルギー問題」、「文化やスポーツ」などへの関心割合も上昇を示している。

それぞれ、日本や世界の様々な動向を背景として、市民の期待と不安の対象が微妙に変化していることの現れと見られよう。

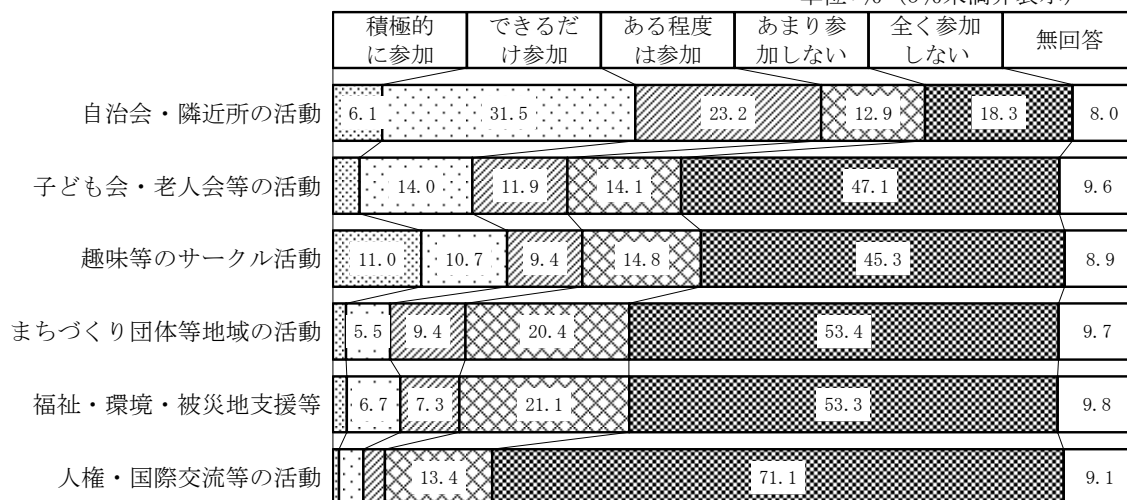


(2) 地域活動への参加（問3）

現在の参加程度

総数=928

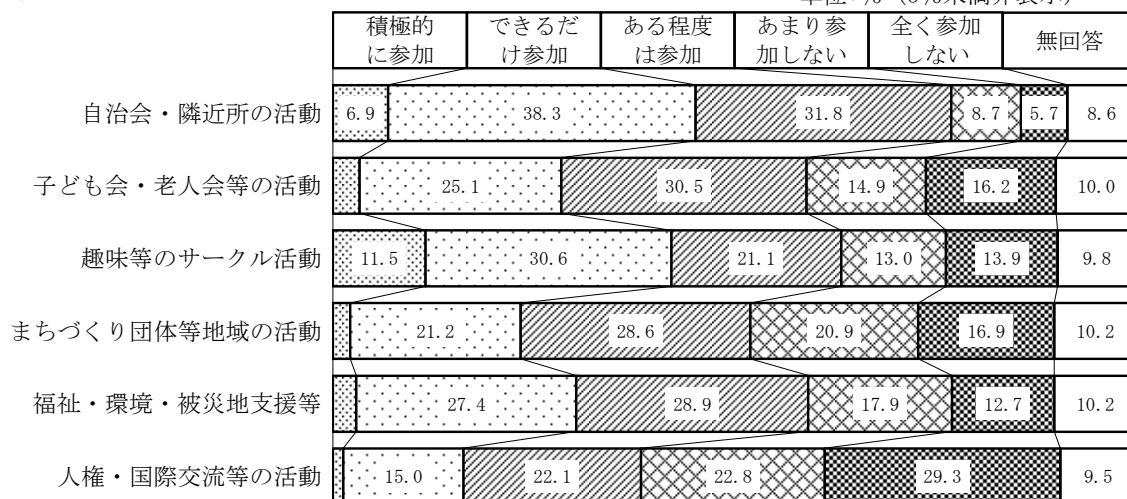
単位:% (5%未満非表示)



今後の参加希望

総数=928

単位:% (5%未満非表示)



様々な地域活動に対して、現在の参加状況と今後の参加希望をたずねている。

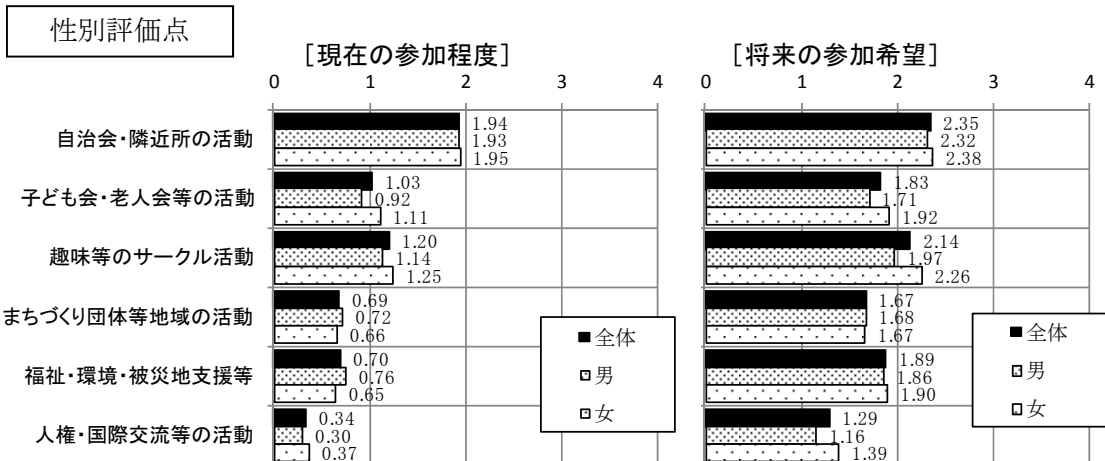
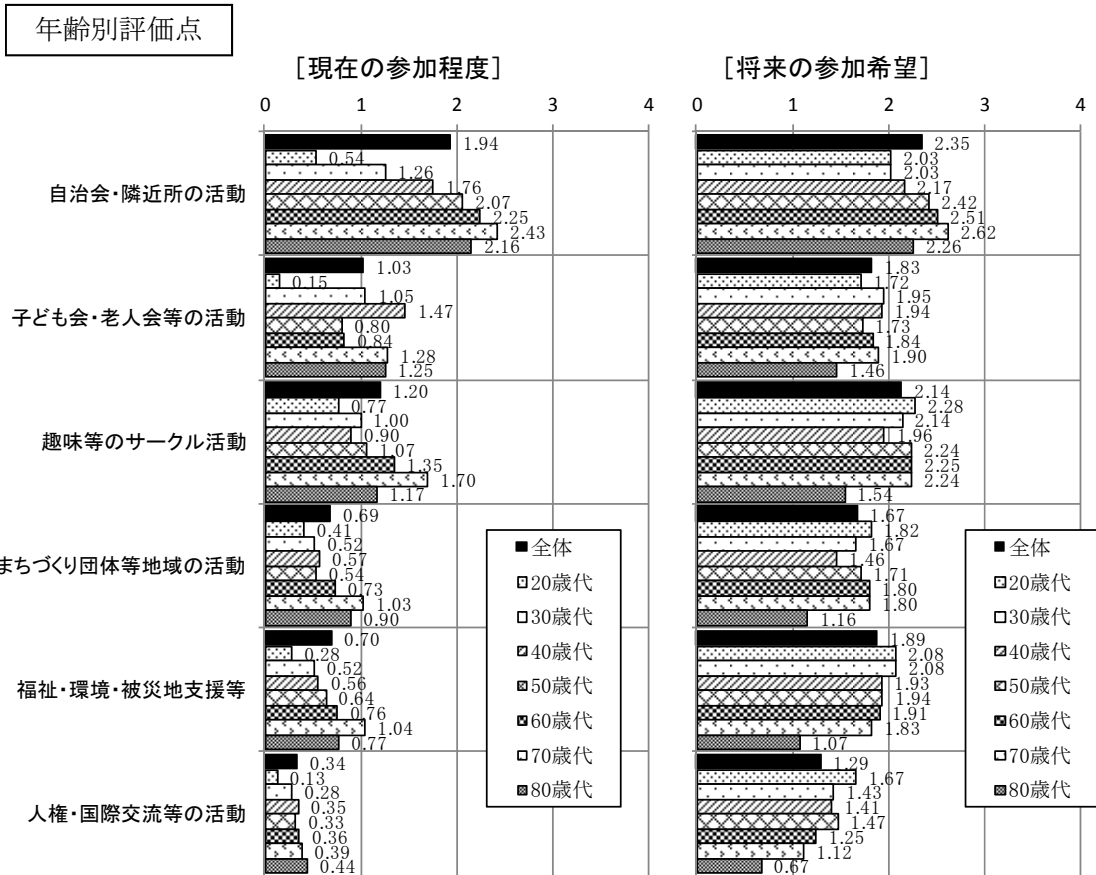
比較的身近な住区単位の「自治会・隣近所などの活動」では、現状でも「ある程度」以上の参加が半数を超えているが、それ以外の活動ではその割合が2～3割程度となり、「全く参加しない」の割合が約半数またはそれ以上を占めている。

しかし、今後の参加希望では、いずれの活動も積極性が増し、「人権・国際交流などの活動」を除いて、各活動とも「ある程度」以上の参加希望割合が半数を超えるようになる。多くの市民は、地域活動に対して潜在意識としては参加意欲は持っているが、現実には様々な事情で参加できていないケースが多いと考えられる。

ここで、各項目について、「積極的に参加」＝4点、「できるだけ参加」＝3点、「ある程度は参加」＝2点、「あまり参加しない」＝1点、「全く参加しない」＝0点として、その回答数による加重平均値を評価点として算出し、それによる属性別の比較を行う（無回答は計算に含めない）。

年齢別には、現状では「子ども会・老人会等の活動」を除いて各活動とも概ね年齢が高くなるほど参加程度が向上する傾向にあり、身近な「自治会・隣近所の活動」ではその傾向が特に顕著である。これが、将来の参加希望となると、現状の参加程度が低かった若い年齢層でも評価点が大きく上昇し、年齢による差があまり目立たなくなる。「人権・国際交流等の活動」では逆転現象さえ見られるようになる。

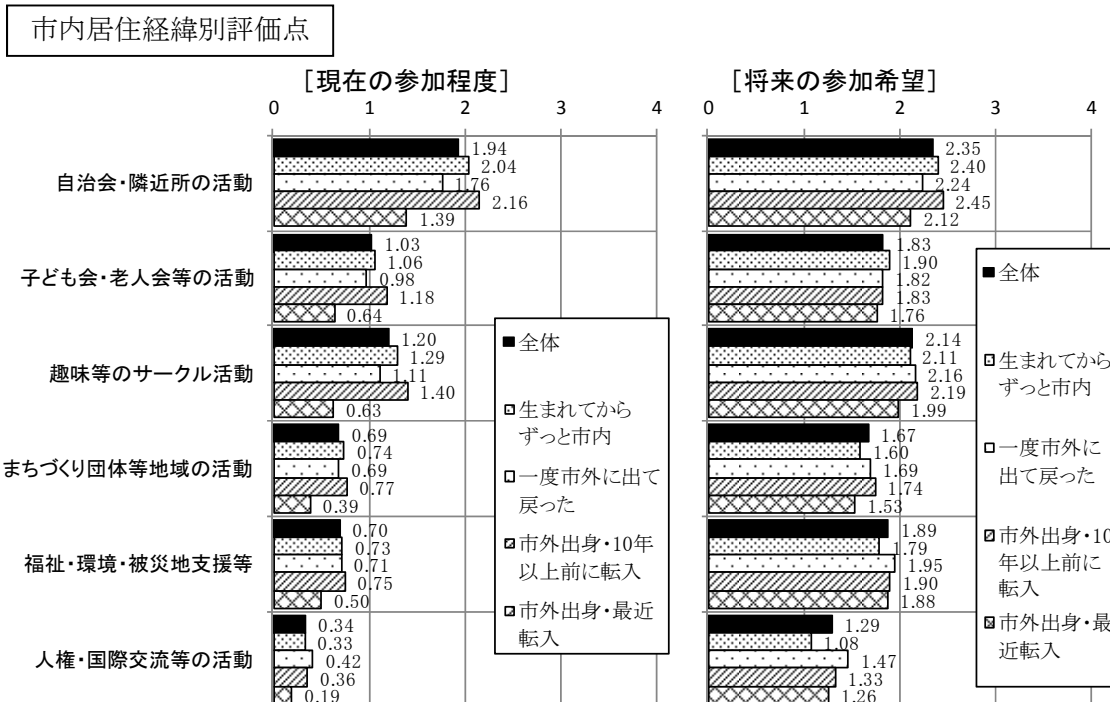
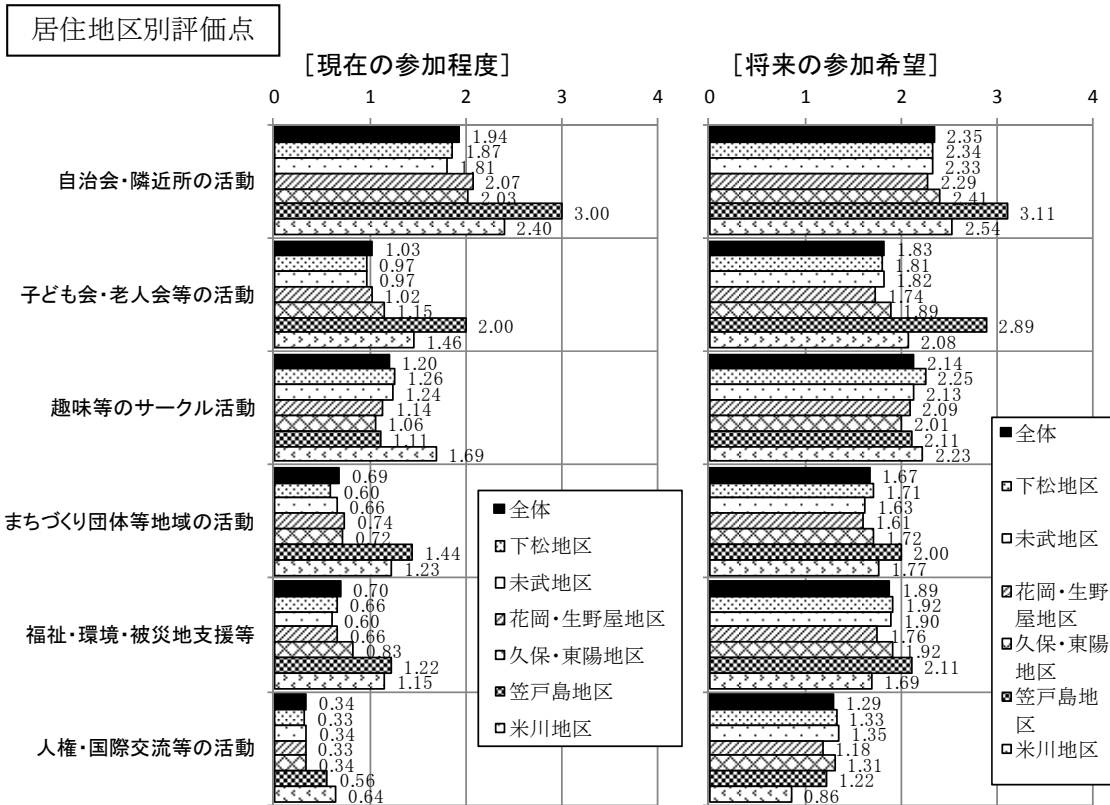
性別では大きな差異は見られないが、「子ども・老人会等の活動」や「趣味等のサークル活動」で女性の方が現在の参加程度の評価点が高く、これは全体が上昇する将来の参加希望においても踏襲されている。



居住地区別では、各活動とも現状の参加程度において、（サンプル数は少ないながら）笠戸島地区、米川地区での高評価点が目立っており、これは将来の参加希望においても踏襲されている。

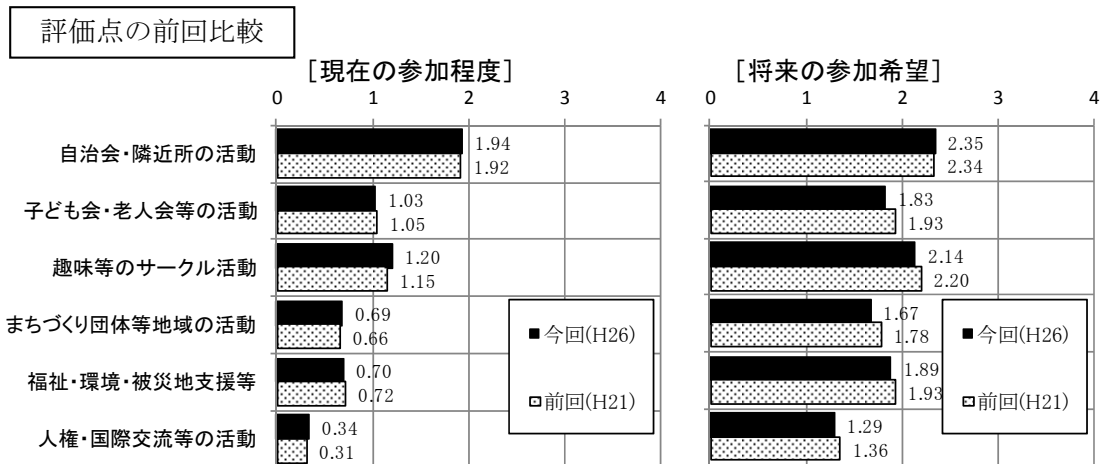
この両地区以外の4地区では、各活動ともに大きな差は見られない。

市内居住経緯別では、最近10年以内の転入者で、各活動とも現状の参加程度が低いのが目立つが、将来の希望になると他の層と大きな差がなくなる点が注目される。転入者も地域活動への参加を潜在的には望んでいることがわかる。

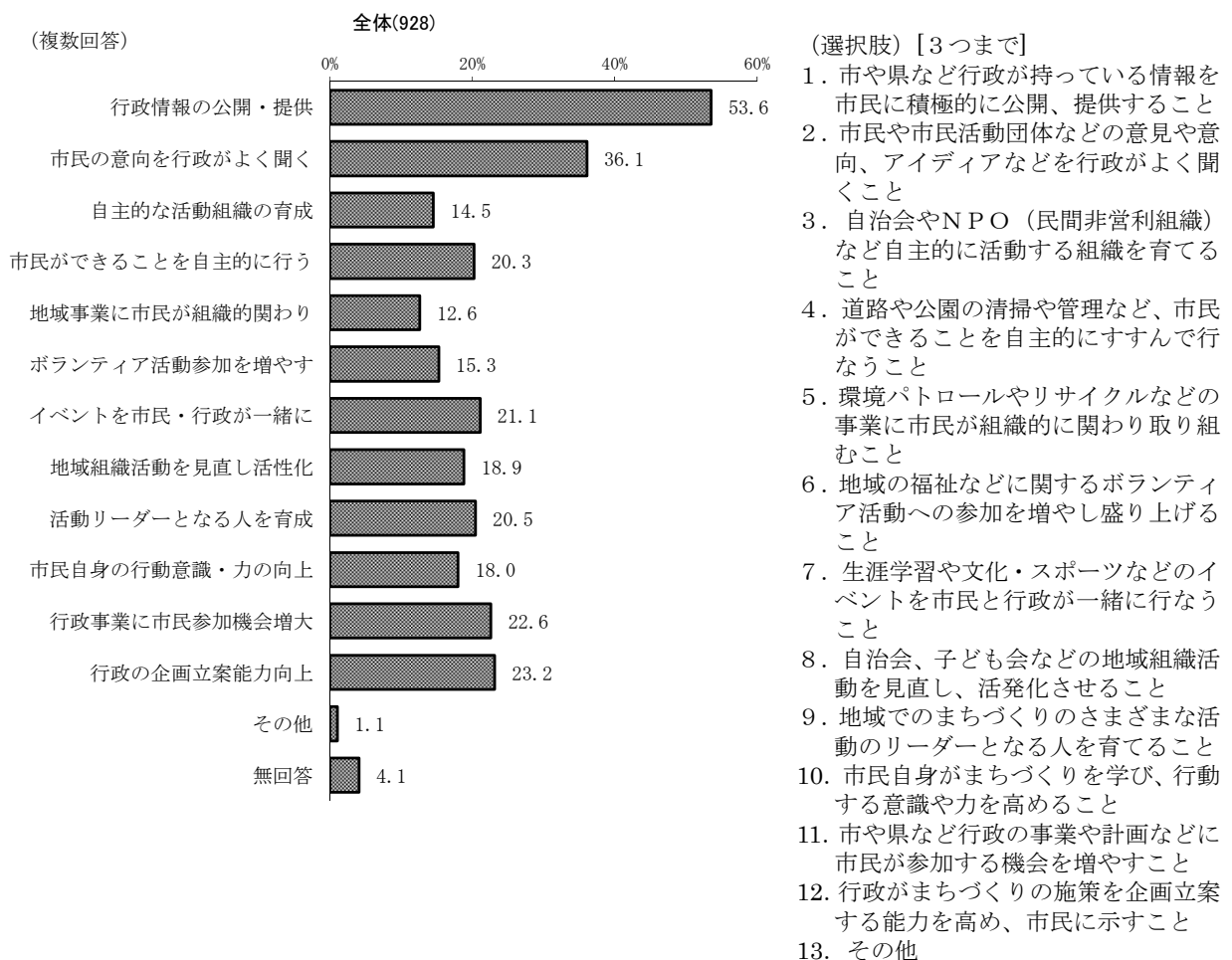


なお、この設問は前回（平成 21 年）調査でもほぼ同じ項目と選択肢で実施しており、同様に評価点を算出して比較してみると以下ようになる。

現在の参加程度は前回とほとんど変わらないが、将来の参加希望では、「自治会・隣近所などの活動」以外では若干であるが評価点が低下している。問 2 でみたような様々な不安の増大等から、地域活動に参加しようとする精神的なゆとりが少なくなっているためとも考えられる。

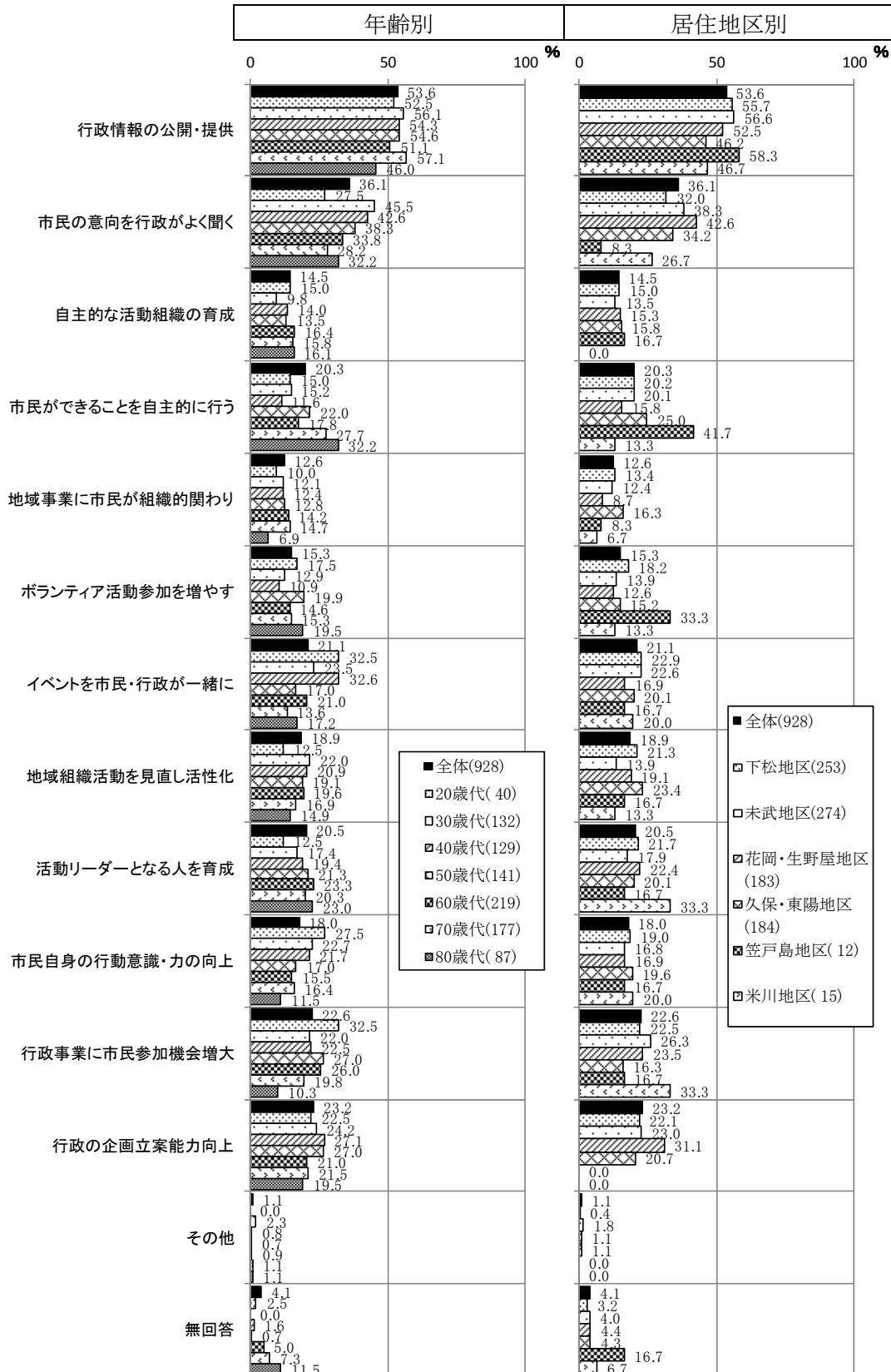


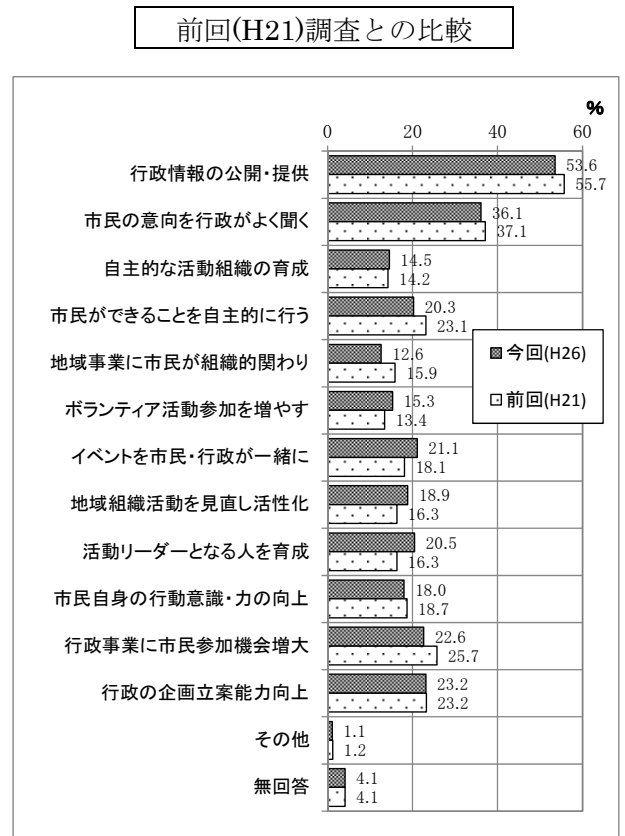
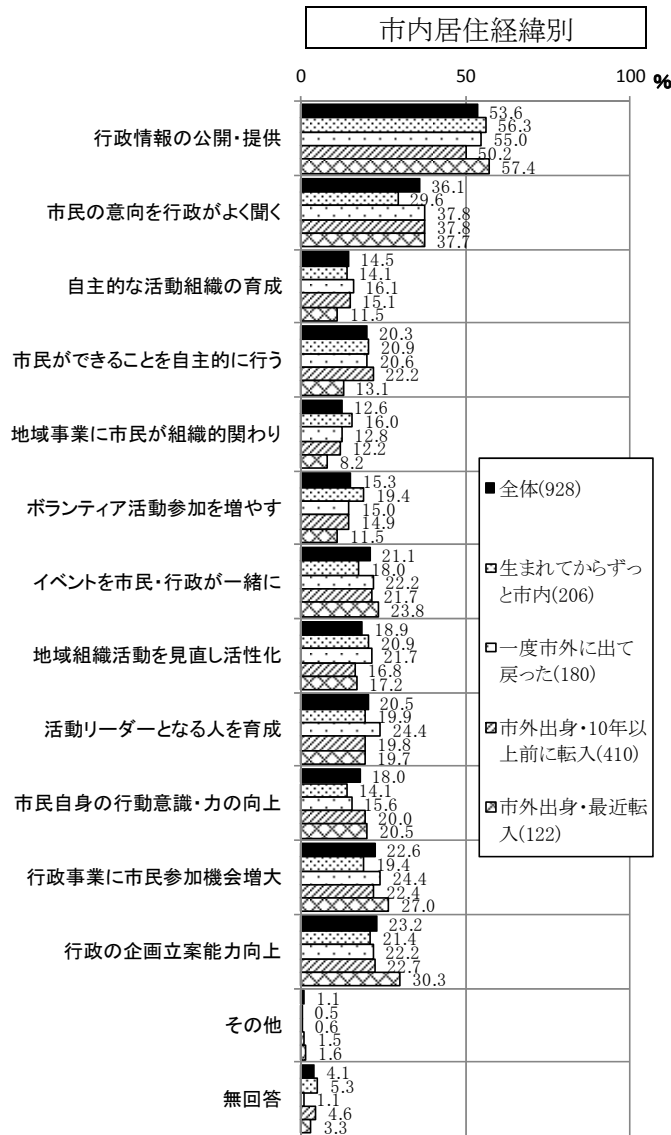
(3) 協働のしくみづくりの重要点（問 4）



市民と行政が「協働」でまちづくりを進める上で重要なことを3つまで選択の形でたずねたところ、「行政情報の公開・提供」が首位であり、「市民の意向を行政がよく聞く」がこれに次いでいる。情報の共有化が協働の前提条件であることを良く表している。

このほかでは各項目に指示が分散しており、あらゆる観点からのアプローチが有効であることも示唆している。





「行政情報の公開・提供」は多くの世代、全地区で多く指摘されているほか、「市民の意向を行政がよく聞く」は、30～40歳代で指摘率が高い。このほかでは、「市民自身の行動意識・力の向上」が若い世代ほど高い支持率であるほか、「イベントを市民・行政と一緒に」が比較的若い世代に多く支持されるのに対し、「市民ができることを自主的に行う」や「活動リーダーとなる人を育成」は高齢者層ほど比較的高い値であるなど、世代による考え方の相違をうかがわせている。

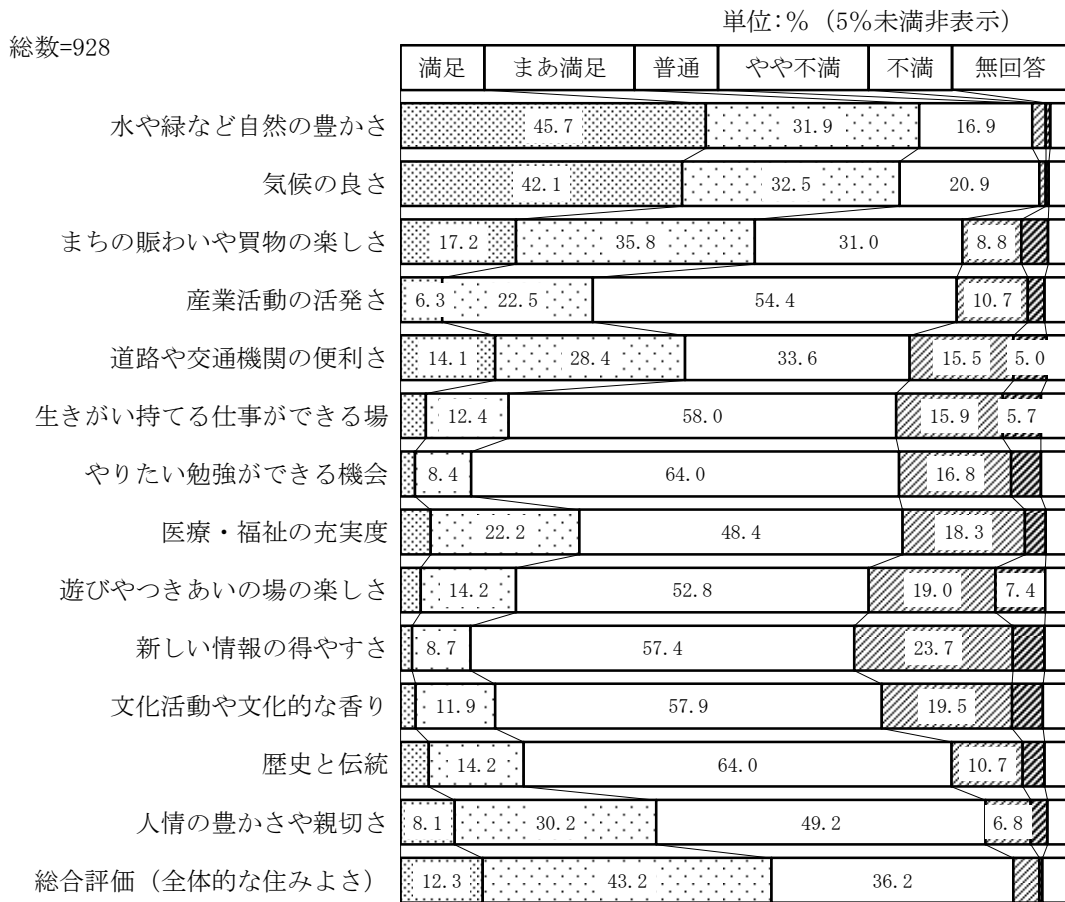
地区別では、サンプル数が少ないが、笠戸島、米川地区で他地区と異なる傾向が見られる。

市内居住経緯別にみると、最近10年以内の転入者層が、他の層とやや異なる傾向を見せており、「市民ができることを自主的に行う」や「地域事業に市民が組織的に関わり」といった選択肢の支持率が比較的低く、行政に求める項目への傾斜がやや強いように見える。

前回（平成21年度）調査でも同じ設問をしており、全体の傾向は類似しているが、指摘率をわずかに減少させている項目が多い中で、「活動リーダーとなる人を育成」や「地域組織活動を見直し活性化」の支持率がやや上昇しているのが注目される場所である。

3. 下松市の魅力や定住意向

(1) 下松市の魅力・満足度（問5）



下松市の魅力・満足度の要素別評価を、5段階の選択肢から求める設問である。

「水や緑など自然の豊かさ」や「気候の良さ」は、「満足」と「まあ満足」を合わせて7割台に達するなど、良好な評価であり、このほかでは、「まちの賑わいや買物の楽しさ」、「道路や交通機関の便利さ」、「人情の豊かさや親切さ」などで満足の割合が高い結果となっている。

一方、「やりたい勉強ができる機会」や「生きがいを持てる仕事ができる場」、「新しい情報の得やすさ」などは満足の割合が低く、都市的な刺激に類する項目は比較的评价が低いといえる。

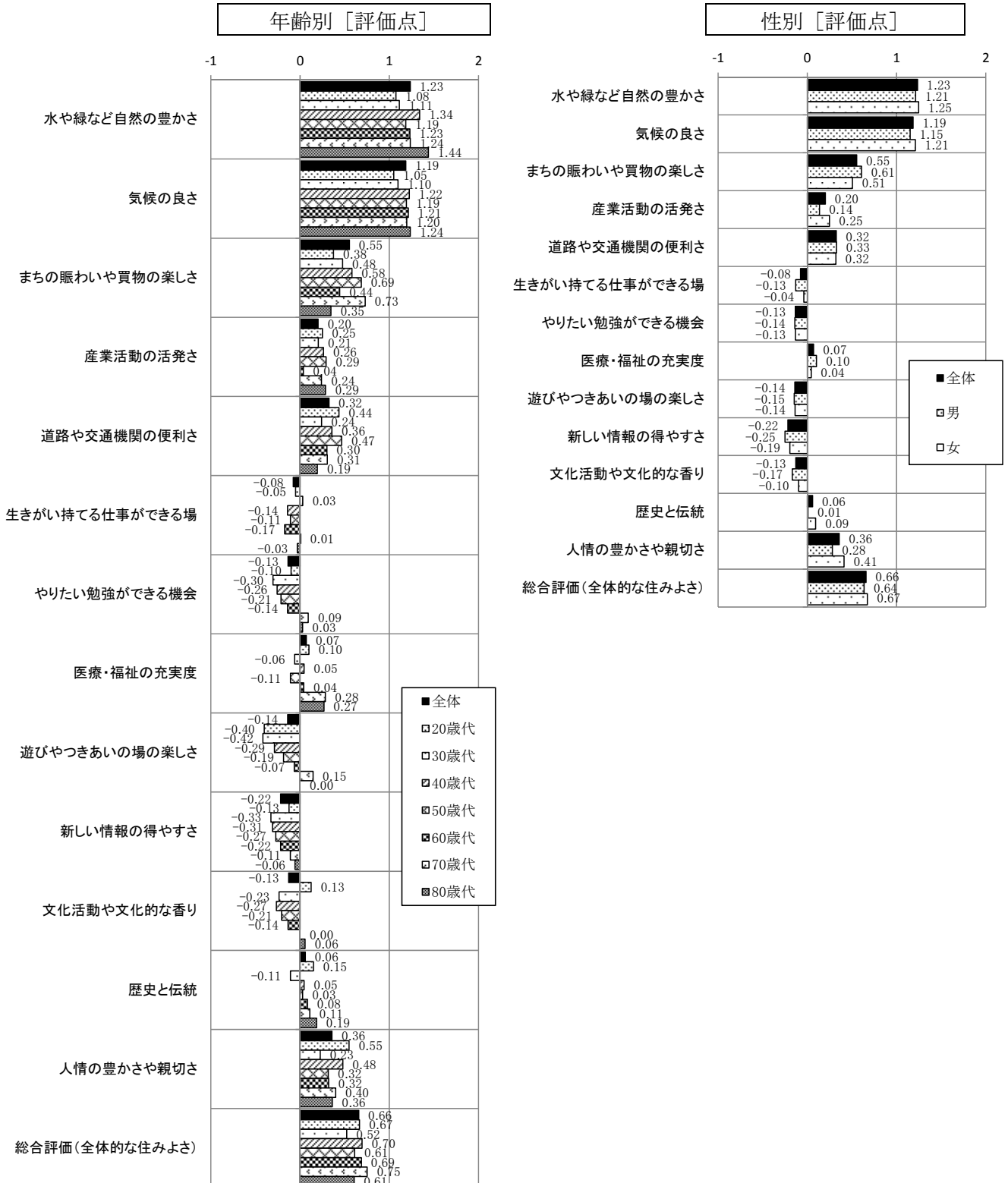
ただ、これらを総合した全体的な「住みよさ」の評価は、全体の半数以上が「満足」または「まあ満足」としており、相対的には魅力あるまちとして認識されているといえる。

要素ごとに、「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点として、回答数による加重平均を算出したものを「評価点」として、これを属性別に比較してみた。

この結果を以下に示す。

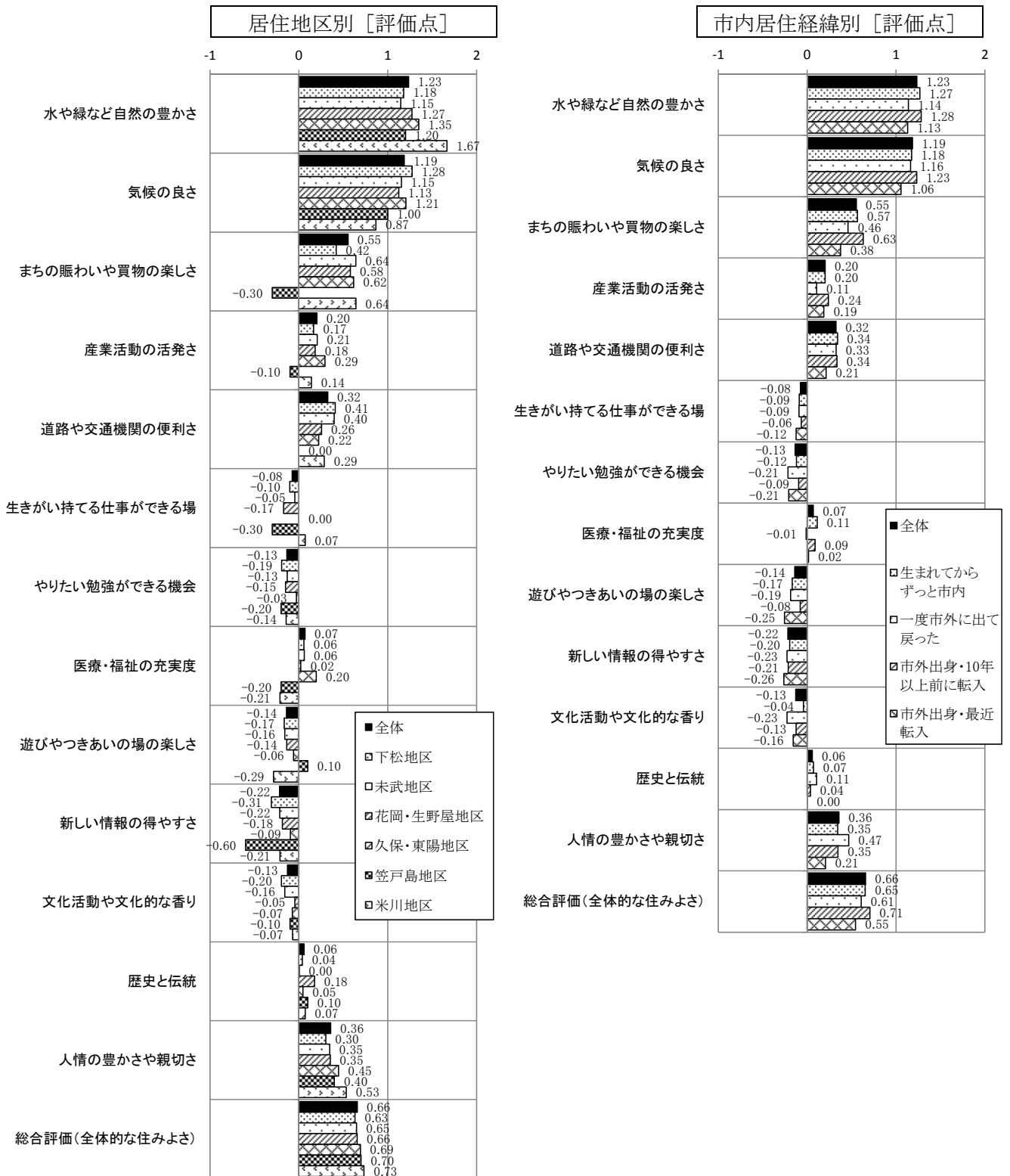
年齢別では、全体で低位の評価であった項目で、特に若年層の評価が厳しいのが特徴である。「遊びやつきあいの場の楽しさ」は20～30歳台では最低の評価点となっている。全体では比較的高評価であった「まちの賑わいや買物の楽しさ」も、若年層では比較的低評価点である。このほかの全体で高評価だった項目は、各世代を通じて良好な水準である。

性別では、大きな傾向差はないものの、「人情の豊かさや親切さ」を女性が相対的に高く評価している点などが注目される。



地区別では、サンプル数が少ない笠戸島、米川地区で、他地区と異なる傾向を見せている部分が多く、「水や緑など自然の豊かさ」が米川地区での評価が特に高く、「まちの賑わいや買物の楽しさ」、「新しい情報の得やすさ」が笠戸島地区で特に低い評価であるなど、地域性を反映した結果となっている。

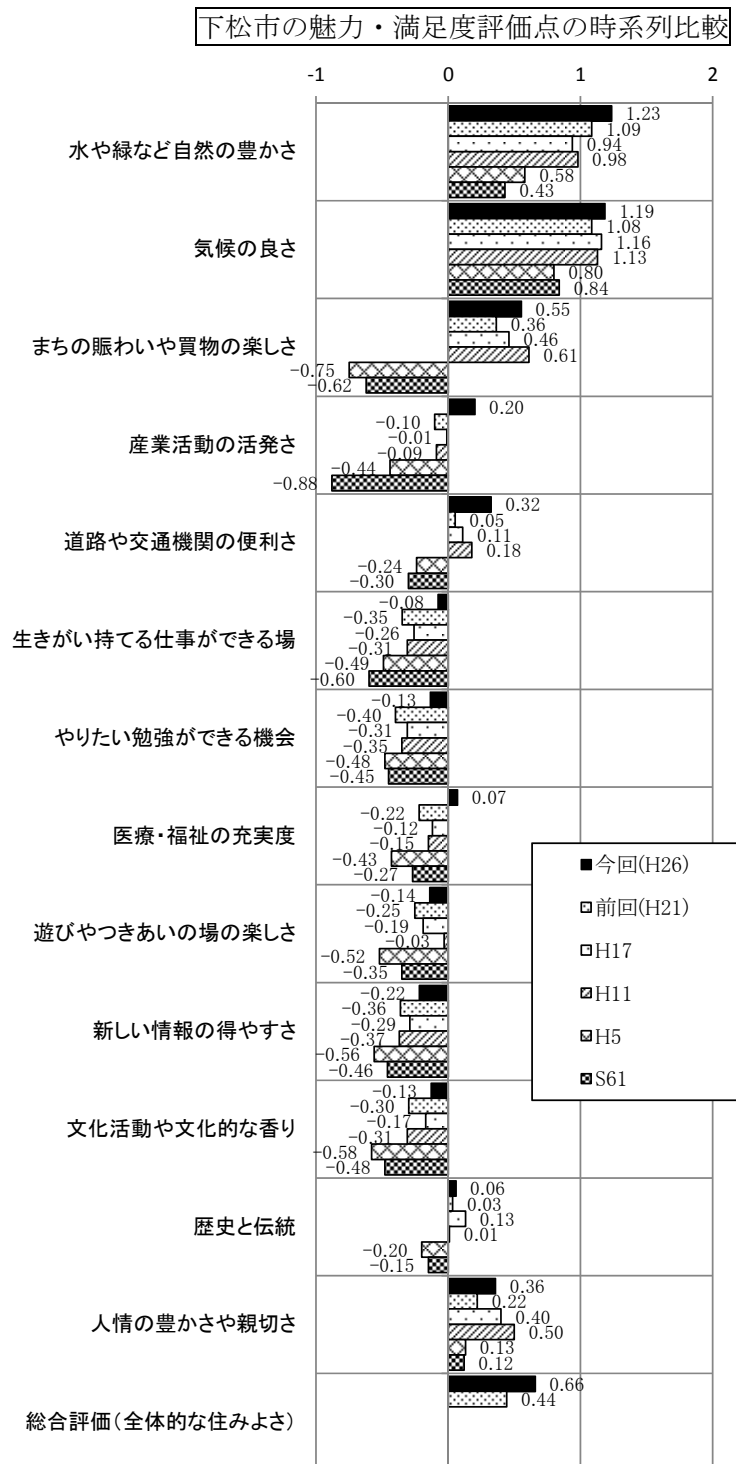
市内居住経緯別では、最近10年以内の転入者層で、大半の項目で他の層と比較して評価がいくぶん低くなっている。「人情の豊かさや親切さ」もこの層は特に評価点が低く、コミュニティに溶け込みきれていない一面もうかがわせる。



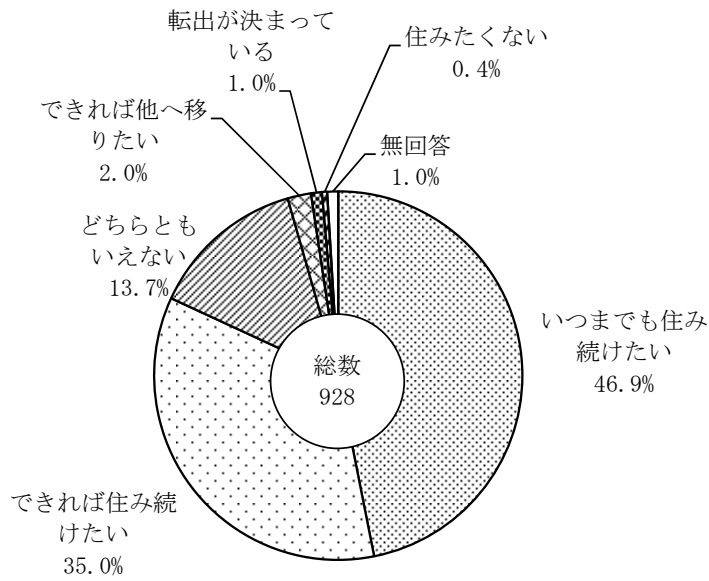
この設問は、過去の総合計画策定時の市民アンケート調査で一貫して同じ形で繰り返してきており、市民の市の魅力評価の推移を時系列でみることができる。

これによると、総じて各項目とも評価点は上昇傾向にあり、総合評価を除く 13 項目中 11 項目で、今回の評価点が過去最高値となっている。「産業活動の活発さ」、「医療・福祉の充実度」は、全体の中では相対的に評価点は低いが、前回までマイナスであった評価点が今回はプラスに転じている。

総合評価（全体的な下松市の住みよさ）は前回（平成 21 年）調査から取り入れているが、今回は 0.22 ポイント上昇して 0.66 点となっている。



(2) 下松市への永住希望 (問6)



下松市への永住意向については、「いつまでも住みたい」が半数近くの46.9%を占め、「できれば住みたい」を合わせると8割以上に達している。

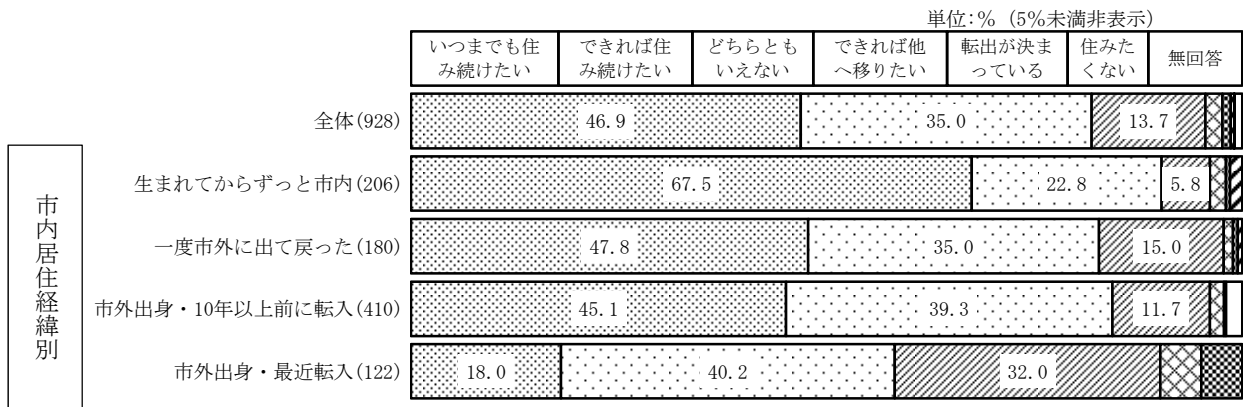
「できれば他へ移りたい」、「転出が決まっている」、「住みたくない」の割合は合わせても3.4%で、下松市が永住の場として高く評価されているといえる。

ただし、年齢別にみると、永住意向が特に強いのは高齢者層であり、若年層は「住みたい」の割合が比較的低くなる。しかしそれでも、「どちらともいえない」が2割台に増える程度で、「移りたい」や「住みたくない」が多いわけではない。

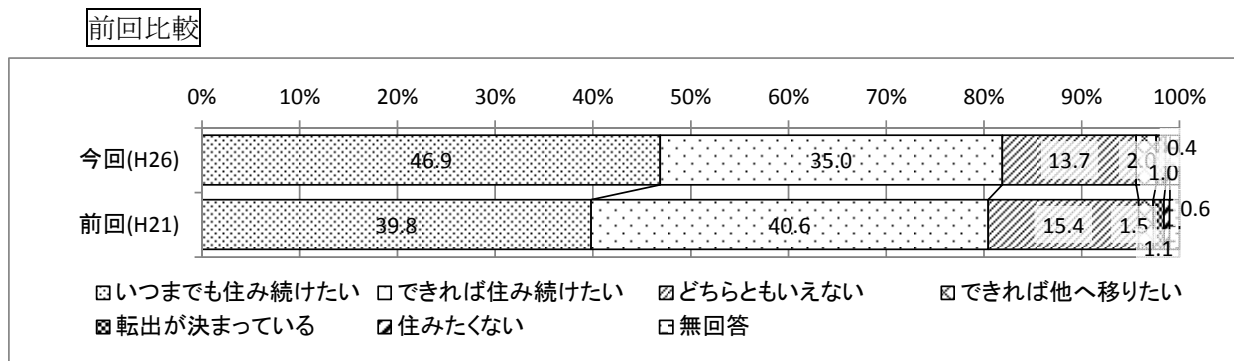
地区別では米川地区で特に「いつまでも住みたい」の割合が高いのが目立ち、総じて市民の市への愛着は強いようである。

単位: % (5%未満非表示)

	いつまでも住みたい	できれば住みたい	どちらともいえない	できれば他へ移りたい	転出が決まっている	住みたくない	無回答
全体 (928)	46.9	35.0	13.7				
年齢別							
20歳代 (40)	25.0	45.0	20.0	5.0			
30歳代 (132)	22.7	46.2	26.5				
40歳代 (129)	34.1	40.3	18.6				
50歳代 (141)	46.8	40.4	11.3				
60歳代 (219)	50.2	35.6	10.5				
70歳代 (177)	62.7	25.4	9.0				
80歳代 (87)	73.6	13.8	6.9				
居住地区別							
下松地区 (253)	46.6	36.0	13.0				
未武地区 (274)	43.8	35.8	16.4				
花岡・生野屋地区 (183)	46.4	34.4	12.6				
久保・東陽地区 (184)	51.6	34.2	10.9				
笠戸島地区 (12)	50.0	33.3	8.3	8.3			
米川地区 (15)	66.7	20.0	13.3				



この設問も前回(平成21年)調査で同じ形ではたずねており、前回の結果と比較してみると、「いつまでも住み続けたい」の割合が約7ポイント増加し、市内への定住意向は強まっていると見られる。



4. 市の施策・事業の評価

(1) まちづくり施策の満足度(問7)

様々な分野のまちづくり施策について、26の項目別にその満足度をたずねたものである。5段階の選択肢を用意したが、評価にあたって、項目ごとに、「満足」=2点、「まあ満足」=1点、「普通」=0点、「やや不満」=-1点、「不満」=-2点として、回答数による加重平均を算出したものを「評価点」として、属性別の比較検討もこの評価点によって行った。

評価点が高いのは、「ゴミ収集処理とリサイクルの推進」、「上水道整備や水質維持向上」、「道路、交通網の整備」の順であり、逆に評価点が高いのは、「雇用確保や企業誘致」、「観光資源開発や施設整備」、「中小企業の保護・育成」、「公共交通の充実」、「農林業の振興」の順となっている。

総じて、産業経済系の施策と福祉・医療系の施策で評価が低い項目が多いが目立つ。

評価点を年齢別にみると、概して年齢が若い層ほど評価が厳しい傾向があり、性別では一部項目を除いて女性の方が相対的に高い評価となっている。居住地区別では、米川地区で「農林業の

振興」や「公共交通の充実」の評価点が特に低く、笠戸島地区で「地域商業の活性化」の評価点の低さが目立つなど、各地区の特性を反映した評価内容となっている。

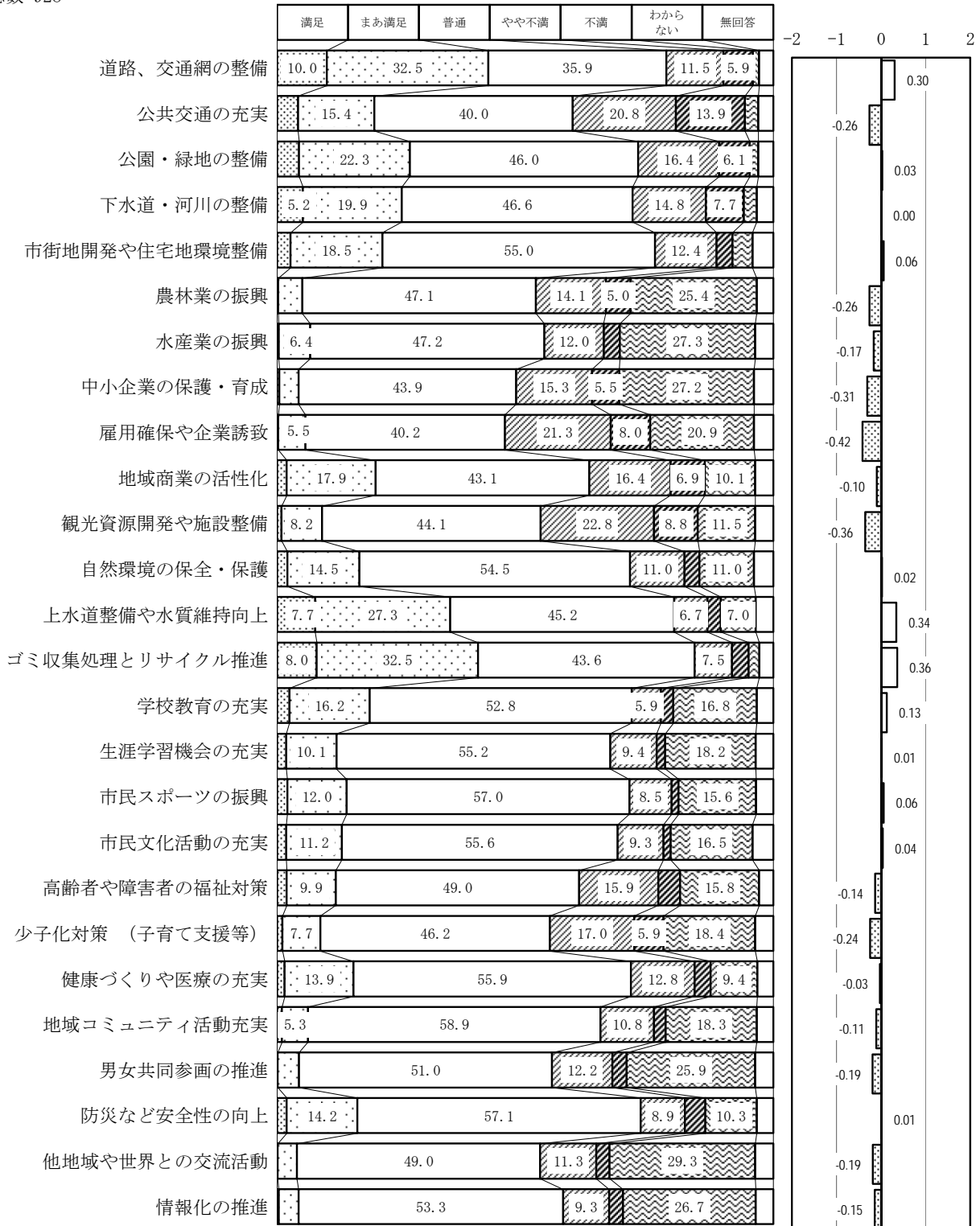
前回（平成 21 年）調査でも同じ設問を用いているが、前回との比較では、全項目で評価点が上昇している。前は評価点がプラスの項目は 4 項目しかなかったが、今回は 12 項目に増加している。

(まちづくり施策の満足度)

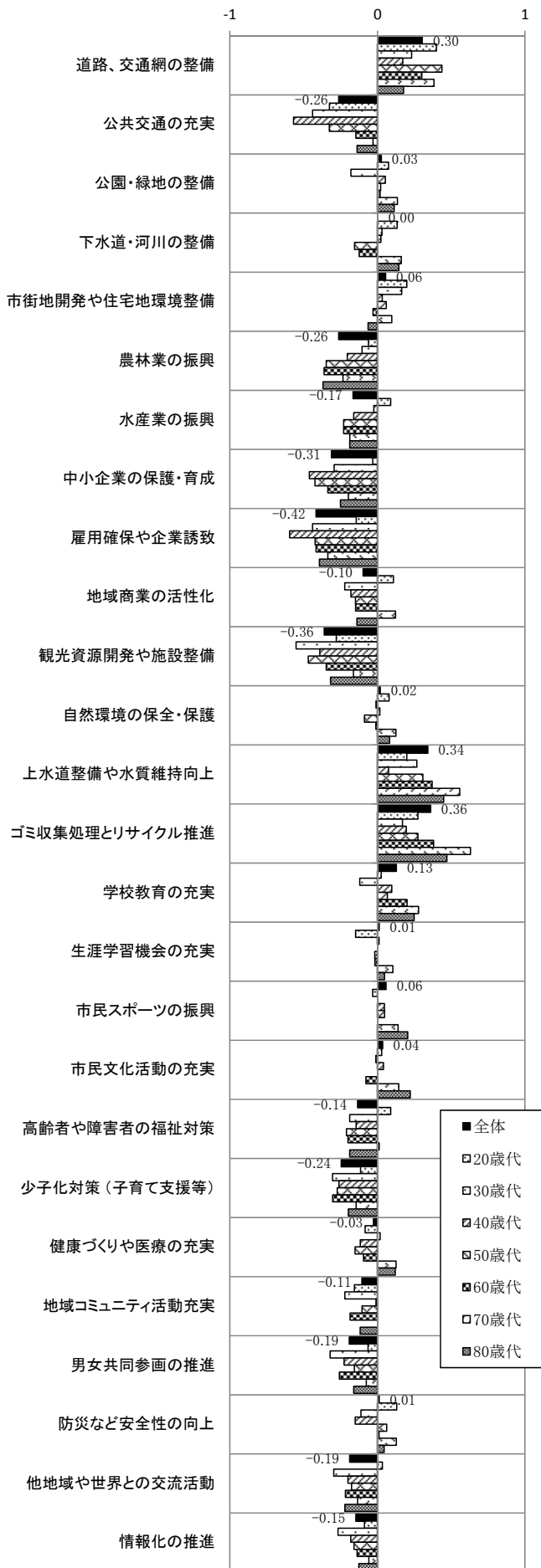
総数=928

単位:% (5%未満非表示)

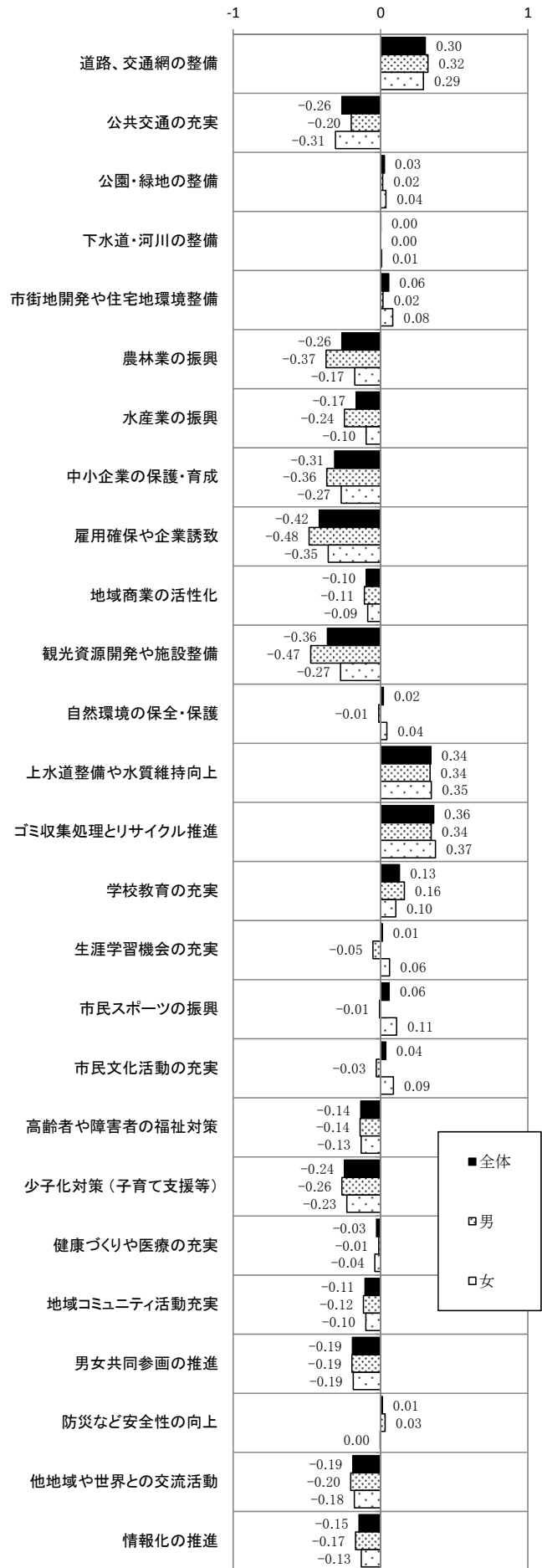
<評価点>



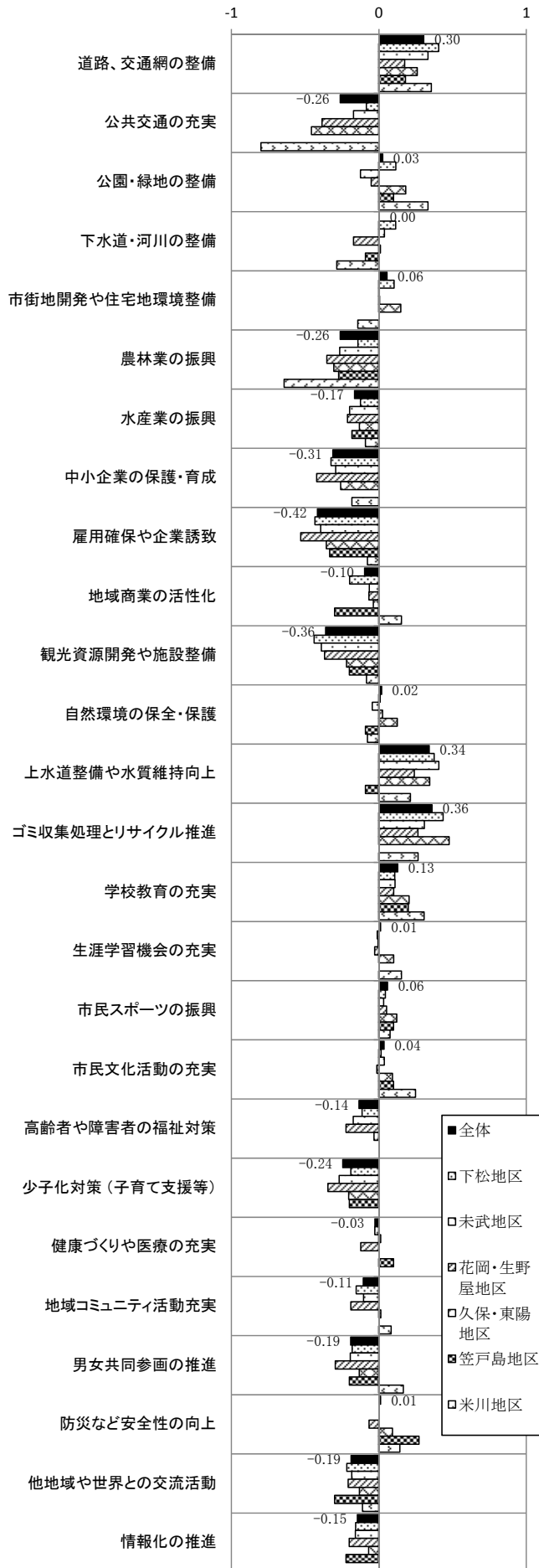
年齢別 [評価点]



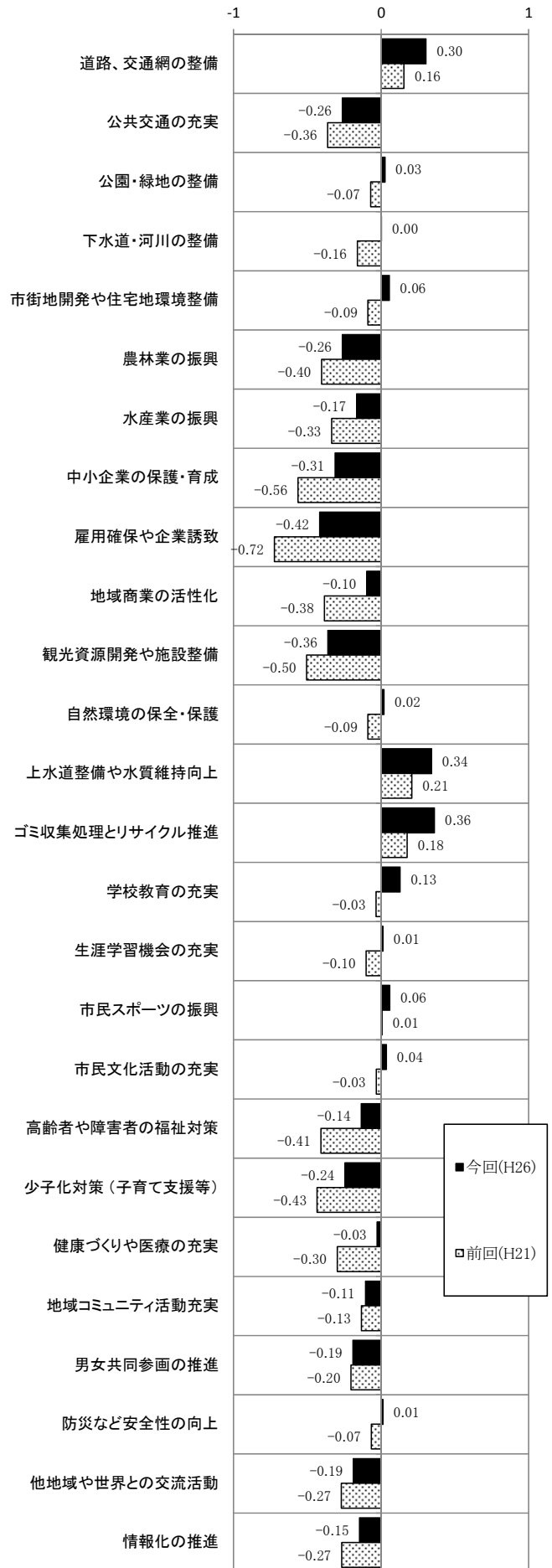
性別 [評価点]



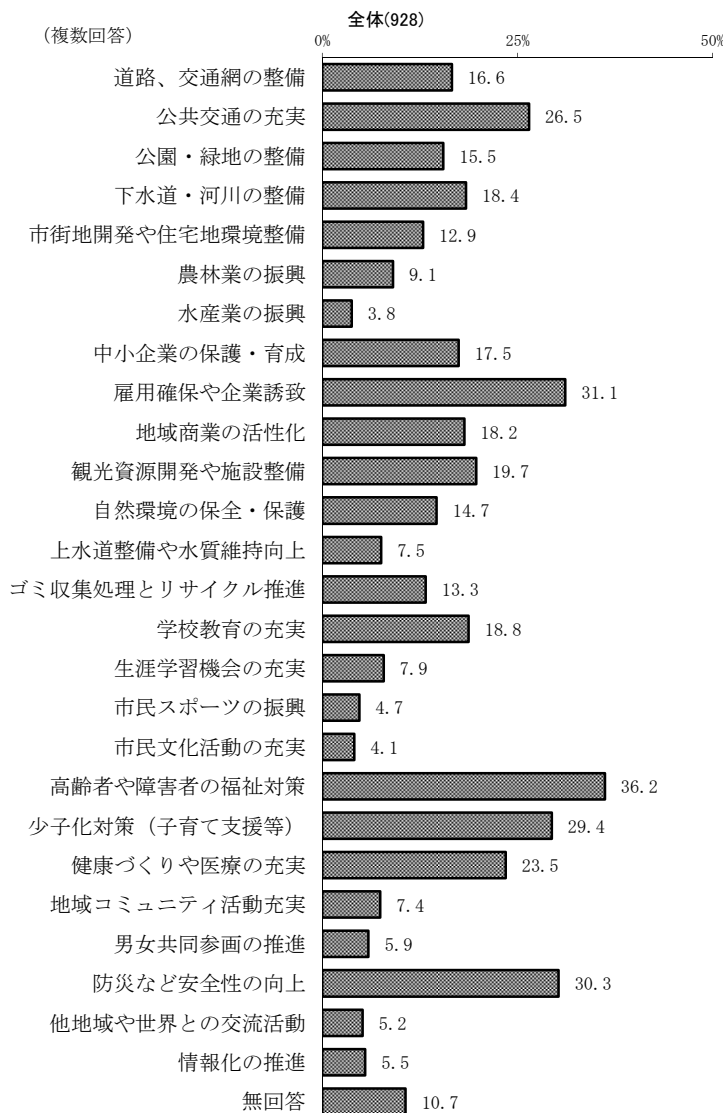
居住地区別 [評価点]



前回比較 [評価点]



(2) 今後重要な施策（問8）



前問で満足度評価をたずねた26の施策項目の中で、今後特に進めることが重要と思うものを5つまで選ぶ設問である。

最も回答が多かったのは「高齢者や障害者の福祉対策」であり、これに、「雇用確保や企業誘致」、「防災など安全性の向上」、「少子化対策（子育て支援等）」、「公共交通の充実」、「健康づくりや医療の充実」の順で続いている。

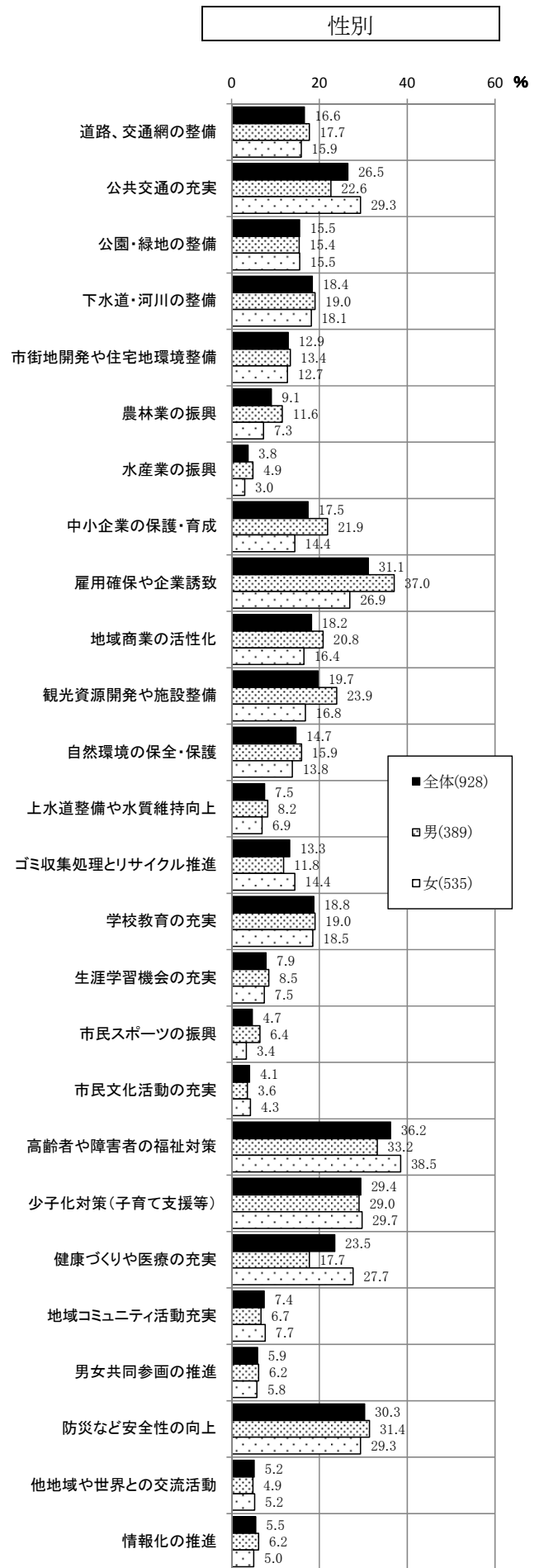
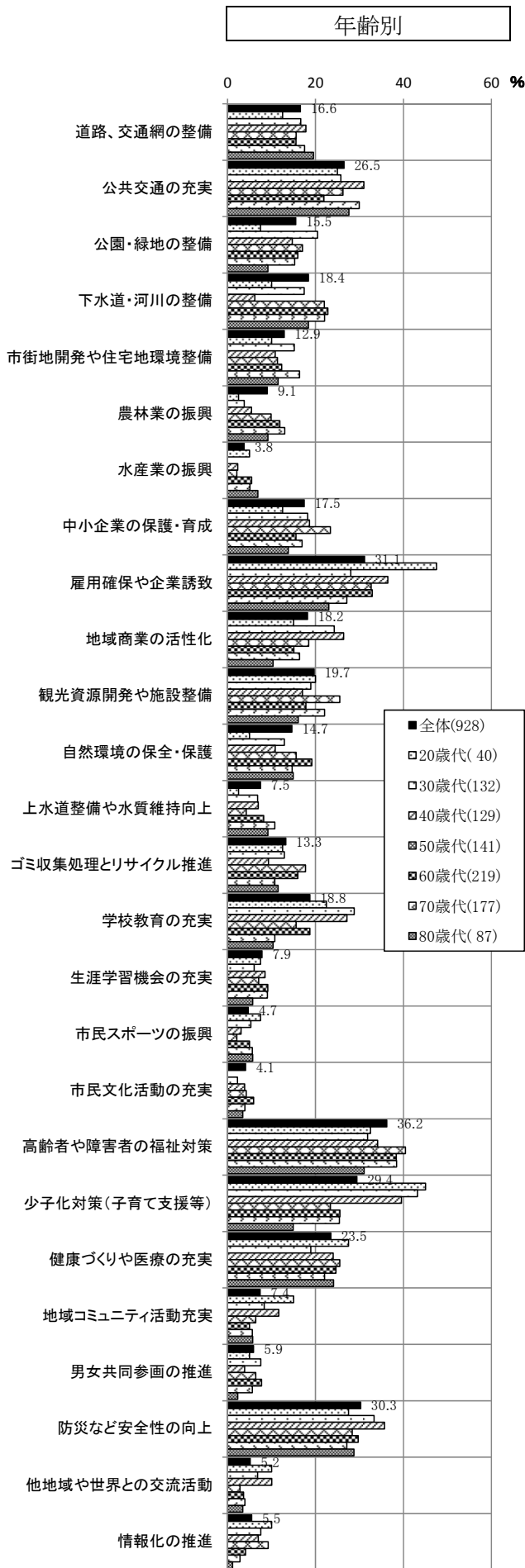
これらは一部を除き概ね前問で現状の満足度評価が比較的低かった項目であり、現状で不満な部分の底上げが求められているともいえよう。

年齢別にみると、20～30歳代の比較的若い層で「雇用確保や企業誘致」、「少子化対策（子育て支援等）」、「学校教育の充実」、「地域商業の活性化」などが比較的強く求められ、逆に「高齢者や障害者の福祉対策」などは高齢者層で比較的指摘割合が高いなど、各ライフステージのニーズを反映した結果となっている。

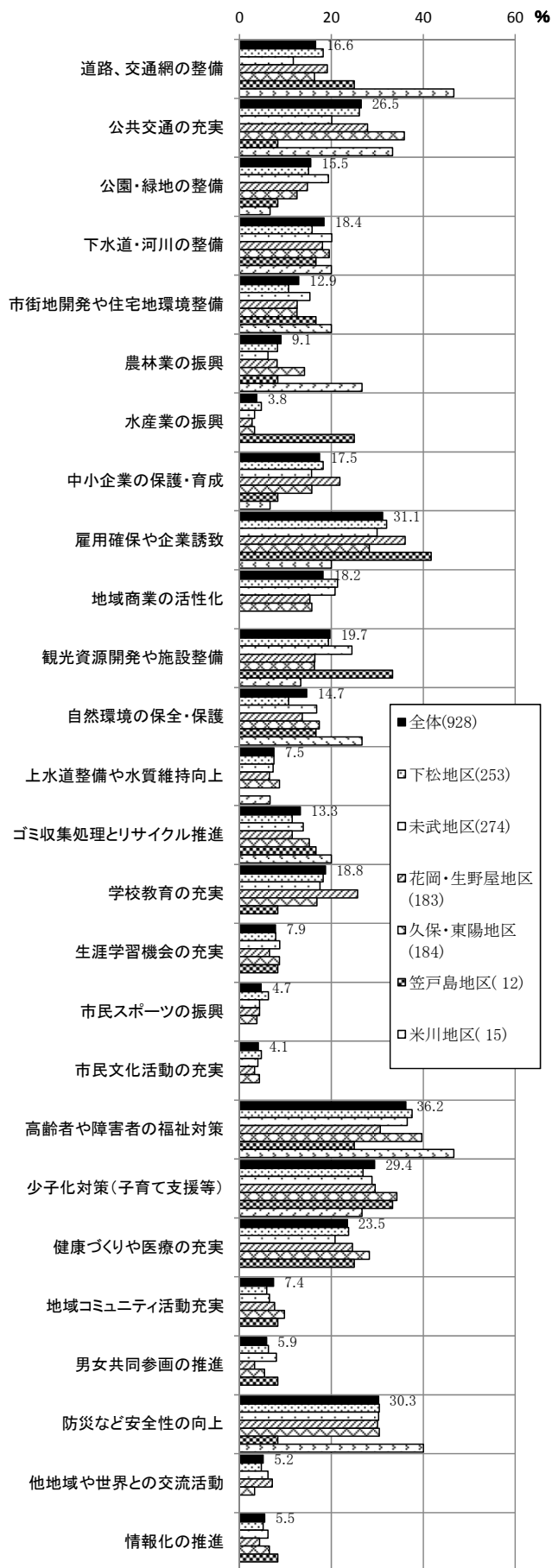
性別では、多くの項目で男性の方が指摘割合が高い中で、「公共交通の充実」、「高齢者や障害者の福祉対策」、「健康づくりや医療の充実」、「少子化対策（子育て支援等）」で女性の方が高い割合となっている点が注目される。

地区別にはばらつきがあるが、サンプル数は少ないものの笠戸島地区で「雇用確保や企業誘致」、「観光資源開発や施設整備」の指摘率が際立って高いことや、米川地区で「農林業の振興」や「自然環境の保全・保護」の指摘率が高いなど、地域の課題が反映された結果とみられる。

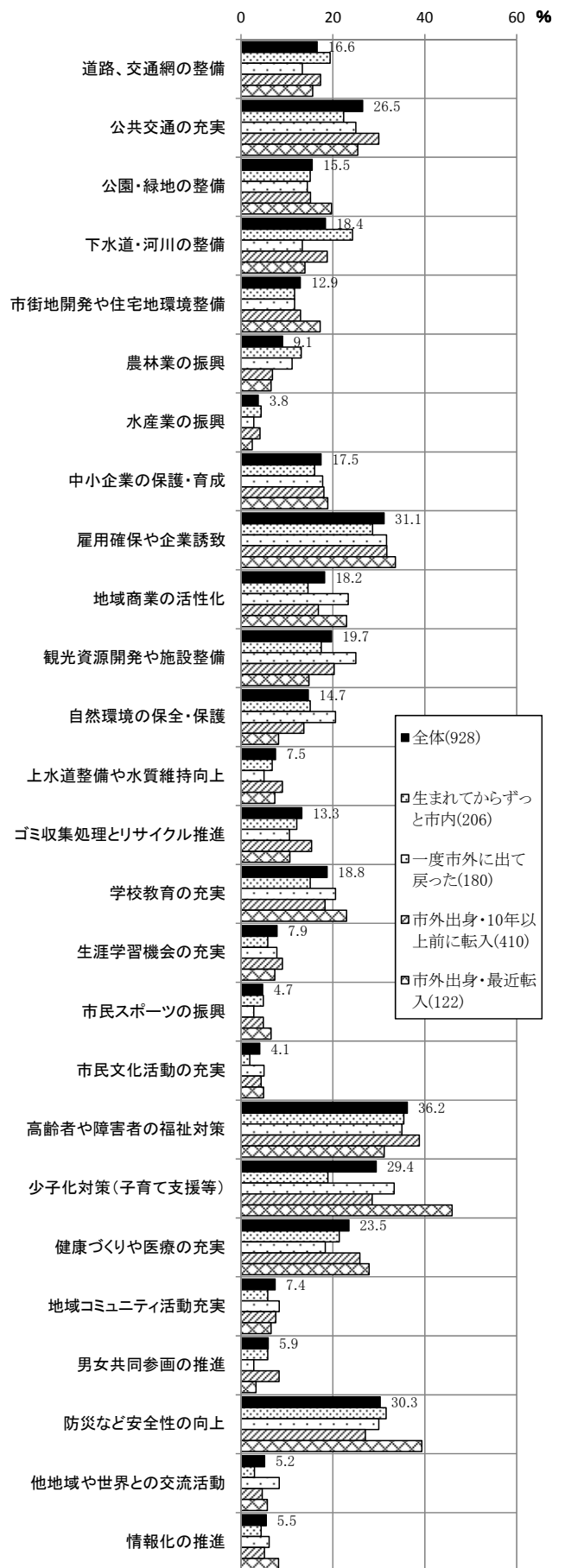
市内居住経緯別では、最近10年以内の転入者層で、「少子化対策（子育て支援等）」や「防災など安全性の向上」、「学校教育の充実」を求める割合が相対的に高いことが注目される。



居住地区別

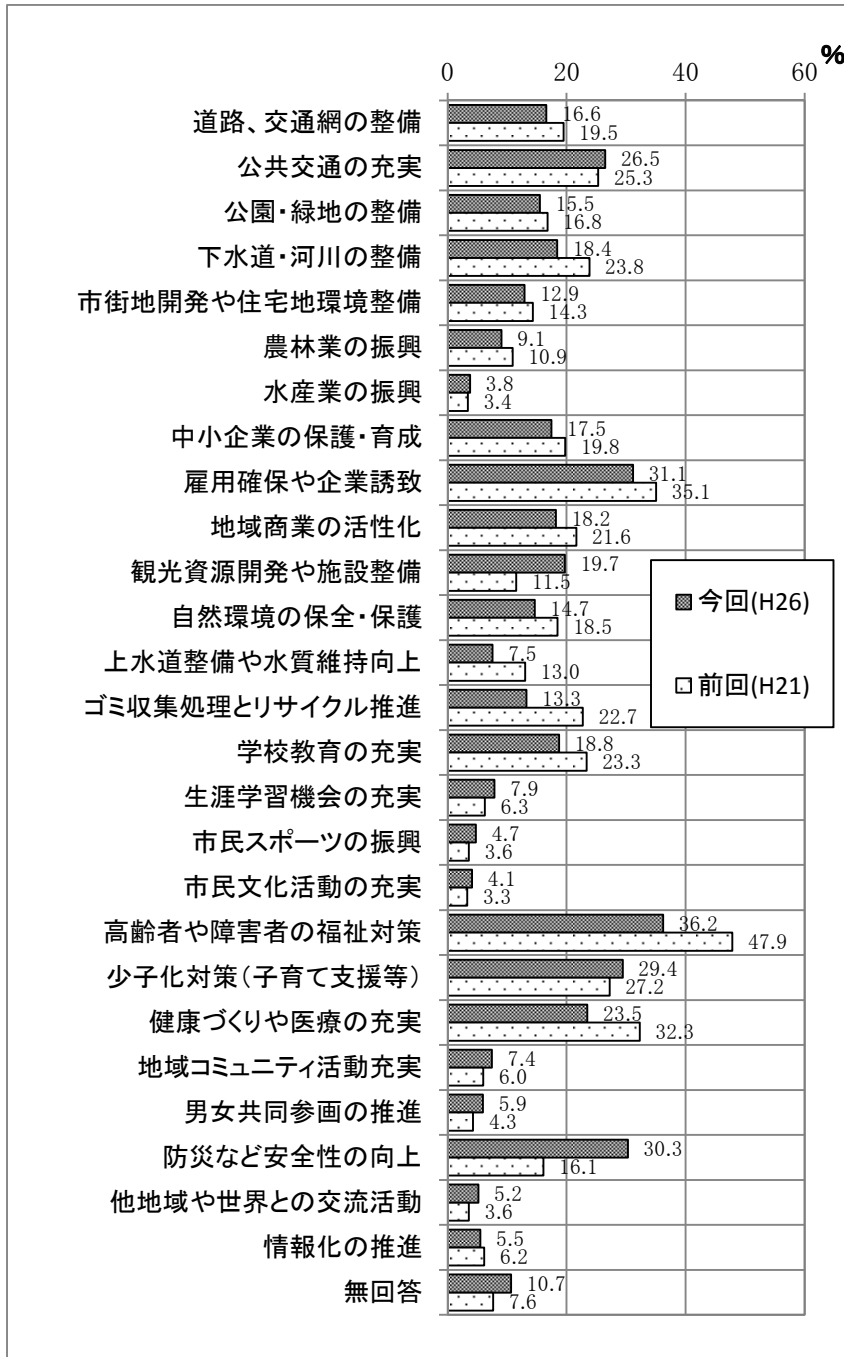


市内居住経緯別



前回（平成 21 年）調査の結果と比較してみると、「防災など安全性の向上」で前回よりも指摘割合が際立って上昇しており、東日本大震災など各地で災害が頻発する中で、安全への関心が急激に高まっていることを示している。そのほか、「少子化対策（子育て支援など）」や「観光資源開発や施設整備」、「公共交通の充実」などで指摘割合が上昇しており、これらの部分で近年特に市民ニーズが高まっていることの現れとも考えられる。

前回比較



(3) 主要事業・プロジェクトの認知と課題 (問9)

市が現在進めている主な事業・プロジェクトについて、その認知度（どの程度知っているか）、期待度（どの程度成果を期待するか）をたずねたものである。

とりあげた7つの事業のうち、「消防署の移転・新築」と「大城の建替え」は認知度が比較的高く、「良く知っている」、「少しは知っている」を合わせて6～7割に達しているが、「中部土地地区画整理事業」、「都市計画道路の整備」は「全く知らない」が半数以上を占めるなど認知度が低い。

これは、事業自体は日頃見たり接したりしていても、それが土地地区画整理事業、都市計画道路事業という認識が持てていないということかと考えられる。

このように、事業によって認知度にばらつきがあるものの、成果の期待度では「とても期待」と「まあ期待」を合わせていずれも6割以上と、高い期待感を持って受け止められている。特に「小中学校校舎整備・耐震化」は、前問の結果のように防災への関心の高まりを反映してか、「とても期待」と「まあ期待」の合計が85.7%と高い値となっている。

認知度

総数=928

単位:% (5%未満非表示)

	良く知っている	少しは知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答
消防署の移転・新築	29.2	35.2	12.1	20.4	
国民宿舎「大城」建替え	29.2	43.1	9.9	14.8	
小学校給食センター新設	13.0	28.4	23.0	32.3	
小中学校校舎整備・耐震化	16.2	39.7	22.2	18.8	
中部土地地区画整理事業	8.0	30.4	54.4		
都市計画道路の整備	12.4	30.8	50.2		
笑い・花・童謡のまちづくり	22.4	27.2	22.2	25.4	

期待度

総数=928

単位:% (5%未満非表示)

	とても期待する	まあ期待する	あまり期待しない	全く期待しない	無回答
消防署の移転・新築	35.7	45.2	10.2	6.6	
国民宿舎「大城」建替え	33.0	40.9	14.8	5.5	5.8
小学校給食センター新設	22.8	49.4	17.0	6.9	
小中学校校舎整備・耐震化	46.0	39.7	7.0	6.5	
中部土地地区画整理事業	11.6	47.1	26.8	5.9	8.5
都市計画道路の整備	17.0	48.0	21.8	5.4	7.9
笑い・花・童謡のまちづくり	24.0	43.8	20.4	6.0	5.8

この結果を属性別に比較するために、各項目で、便宜上次のように得点を与え、回答数による加重平均を「評価点」として算出した。

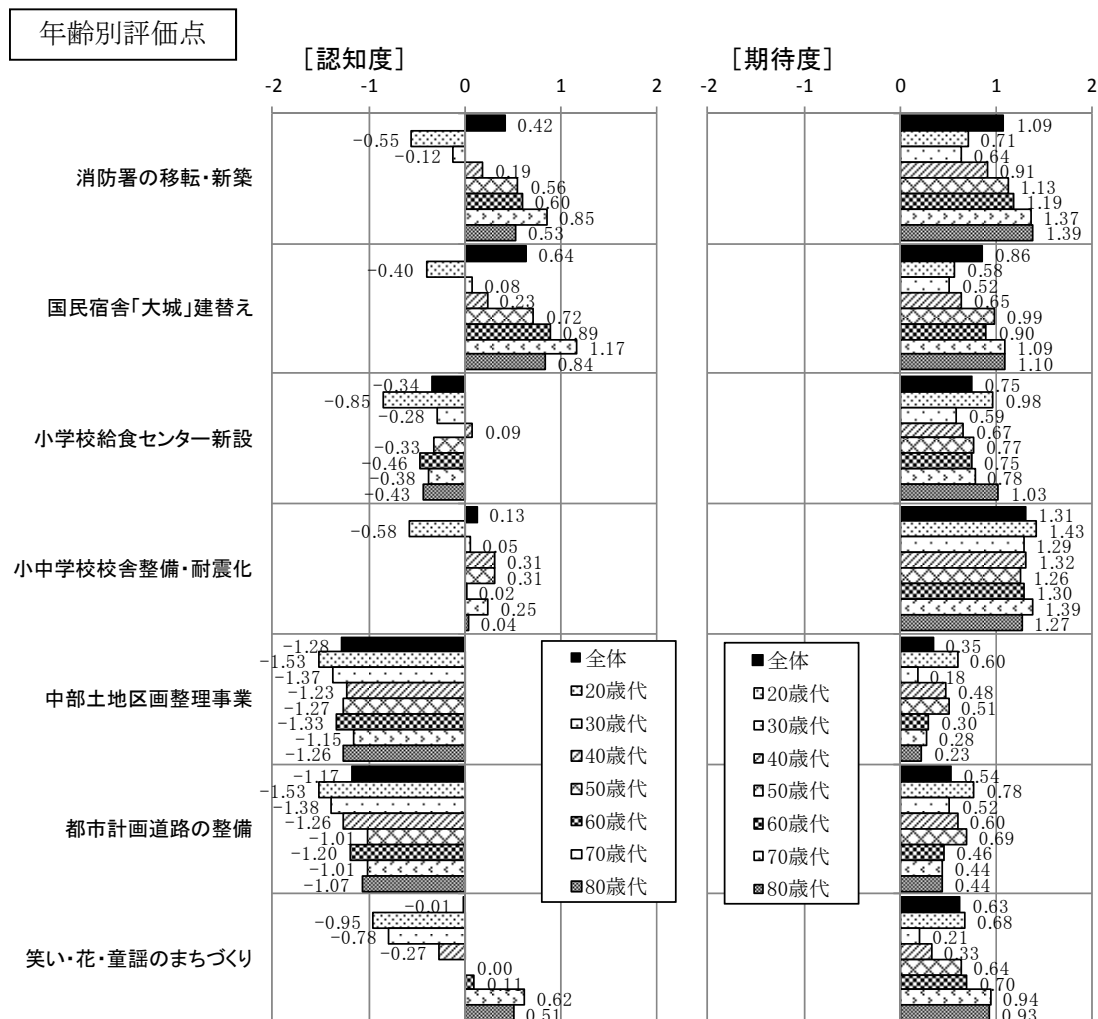
認知度		期待度	
「良く知っている」	= 2点	「とても期待する」	= 2点
「少しは知っている」	= 1点	「まあ期待する」	= 1点
「あまり知らない」	= -1点	「あまり期待しない」	= -1点
「全く知らない」	= -2点	「全く期待しない」	= -2点

年齢によって認知度に大きな差異があるのは「消防署の移転・新築」、「国民宿舎大城建替え」、「笑い・花・童謡のまちづくり」で、いずれも若年世代ほど認知度が低くなっている。期待度は全体にプラスとなるが、年齢層により同様の差異が見られる。

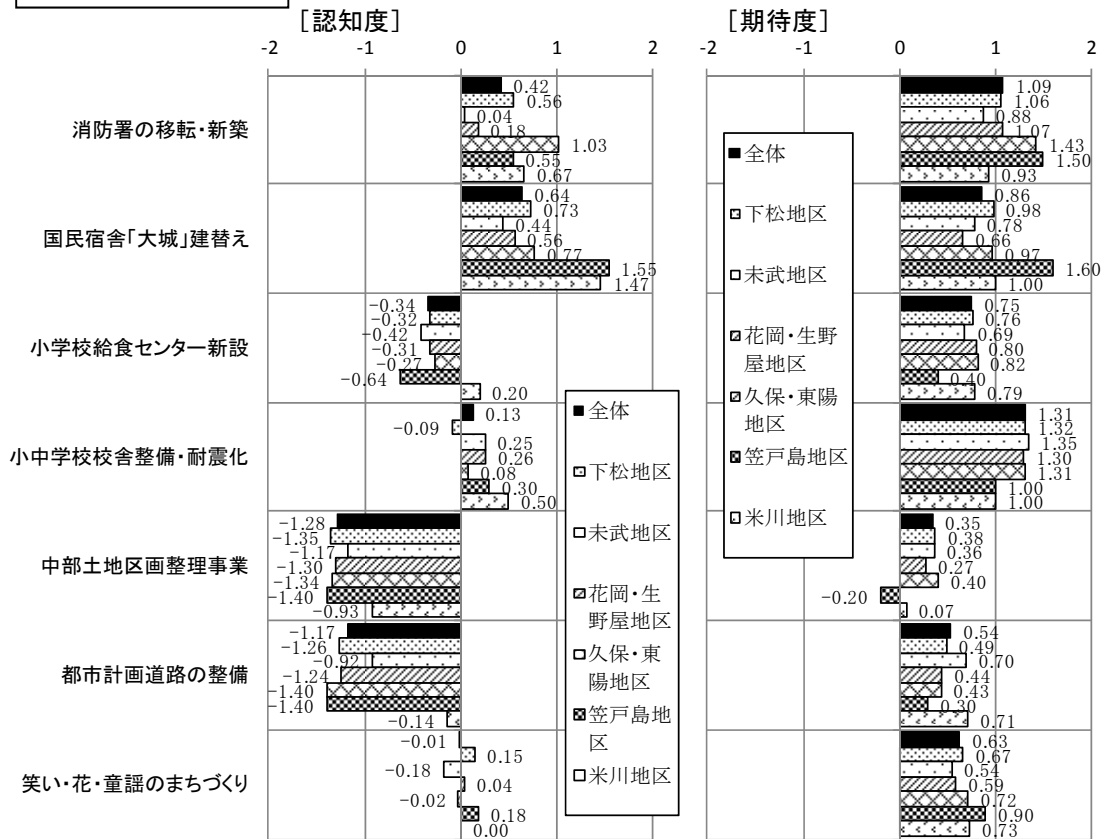
居住地区別では、久保地区で「消防署の移転・新築」、笠戸島地区で「大城建替え」の認知度が比較的高いなど、事業の地元地区では認知が特に進んでいるが、一方、中部土地地区画整理事業は地元の末武地区でも低い認知度、期待度にとどまっている点が興味深い。

市内居住経緯区分別では、最近10年以内の転入者層で、各事業の認知度、期待度が相対的に低い傾向があり、市民としての市内事業等への関心がいまひとつ持たれていない状況がうかがえる。

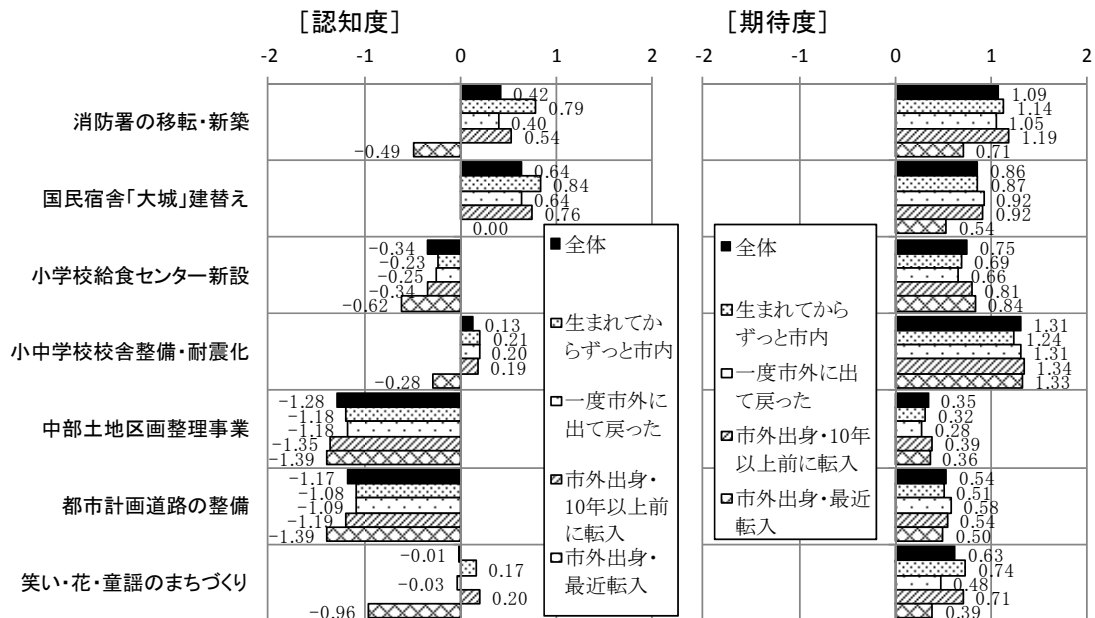
なお、「小中学校校舎整備・耐震化」は、年齢層、市内居住経緯の如何にかかわらず高い期待を持たれていることがわかる。



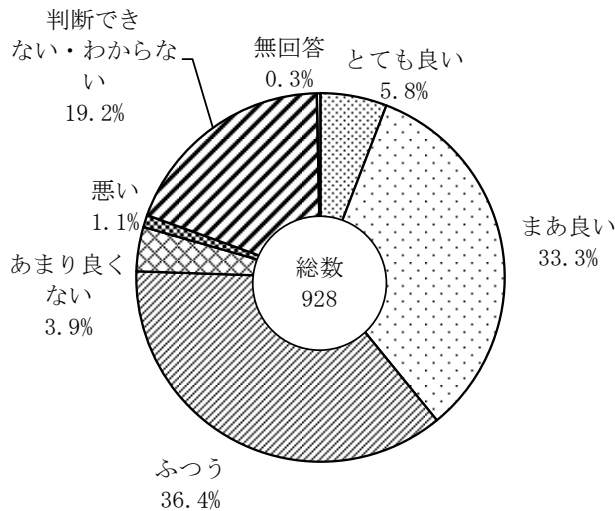
居住地区別評価点



市内居住経緯別評価点



(4) 市の行政全般への評価 (問 19)



今回調査では、様々な市民の評価を総合して、下松市のまちづくり全般（行政の運営や税金の使い方など）への評価を求める設問を置いている。

この結果は、「ふつう」が 36.4%を占め最も多いが、「まあ良い」と「とても良い」の合計が 39.1%、「あまり良くない」と「悪い」の合計が 5.0%と、平均的にはややプラスの評価となっている。

ただし、「判断できない、わからない」の回答が 2 割弱あることに注意を要する。

この結果は、年齢別にはそれほど大きな差異が見られない。ただし、30 歳代及び 80 歳代で「判断できない、わからない」の割合が比較的多く、特に 30 歳代は、最近の転入者も多いことから、まちづくりへの無関心の度合いも大きいのではないかとと思われる。

性別では、女性よりも男性の方がプラス側の評価の割合が多くなっているが、これは女性で「判断できない、わからない」の割合が比較的多いことによるものである。

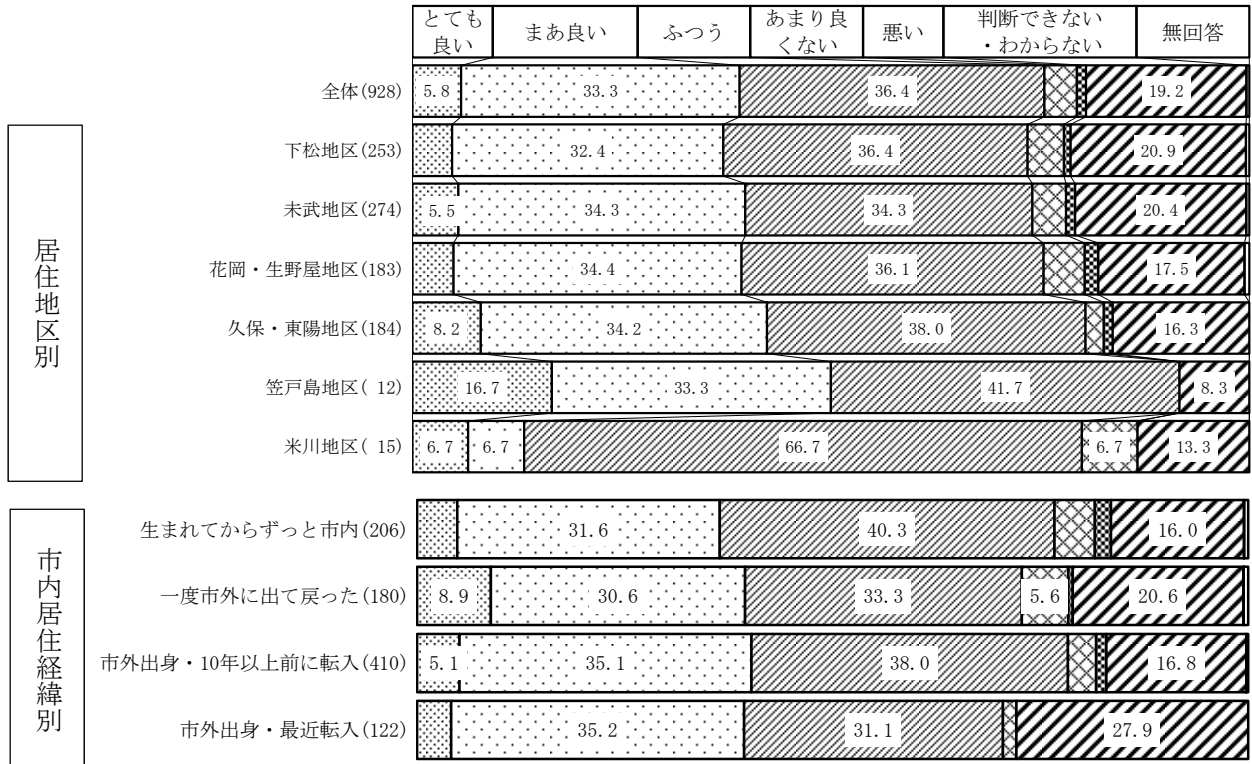
居住地区別では、サンプル数の少ない笠戸島、米川地区を除いて、地区間の大きな傾向の差異は見受けられない。

市内居住経緯別では、最近 10 年以内の転入者層で「判断できない、わからない」の割合が比較的高く、まちづくりへの関心度がいまひとつ高まっていない状況がうかがえる。

単位:% (5%未満非表示)

	とても良い	まあ良い	ふつう	あまり良くない	悪い	判断できない・わからない	無回答
全体 (928)	5.8	33.3			36.4		19.2
20歳代 (40)	7.5	30.0			40.0		22.5
30歳代 (132)	6.1	30.3			31.1	5.3	26.5
40歳代 (129)		31.0			39.5		17.8
50歳代 (141)	5.7	31.2			39.0		19.1
60歳代 (219)	5.5	34.2			37.9		18.3
70歳代 (177)	7.3	38.4			36.7		12.4
80歳代 (87)		33.3			31.0		23.0
性別							
男 (389)	6.9	37.0			33.9		15.4
女 (535)	5.0	30.7			38.3		21.7

単位：%（5%未満非表示）

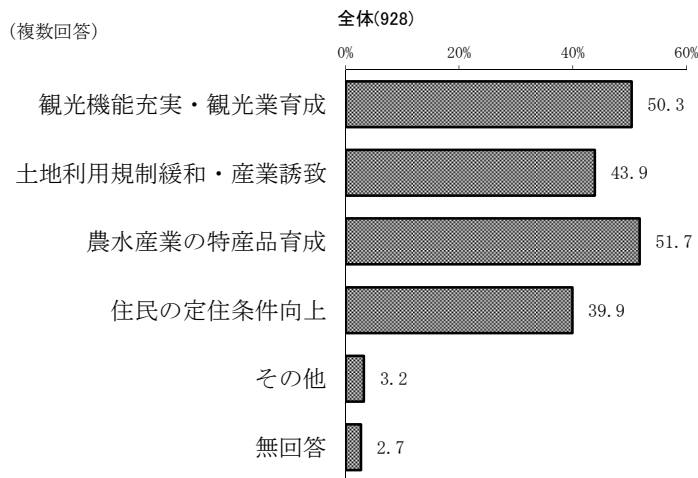


なお、この設問では、「あまり良くない」、「悪い」と回答した場合にその主な理由を記述式でたずねている。

そこで寄せられた回答としては、「メリハリに欠ける」や「中途半端」など施策全般のあり方への指摘のほか、生活環境の悪化、道路環境の悪さ、安全・安心の不足、高齢者への配慮や子育て支援策の不十分さなど、生活に関連した不満に関する記述も多く見られた。

5. 個別テーマ設問

(1) 笠戸島の活性化方策（問10）



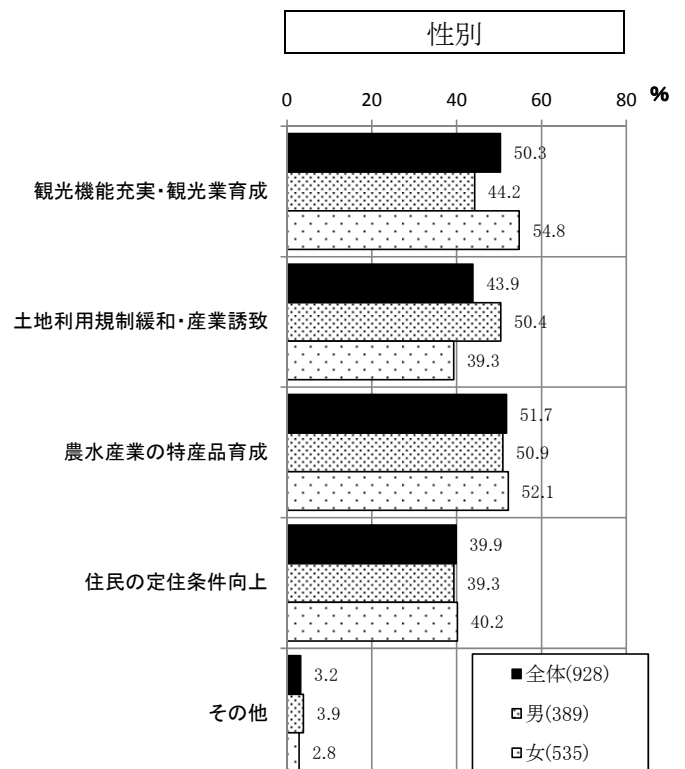
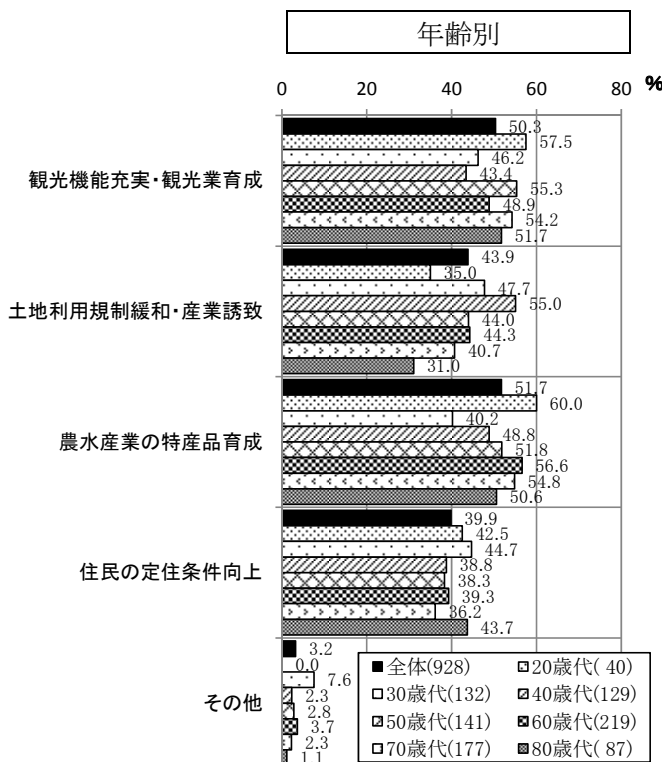
(選択肢)

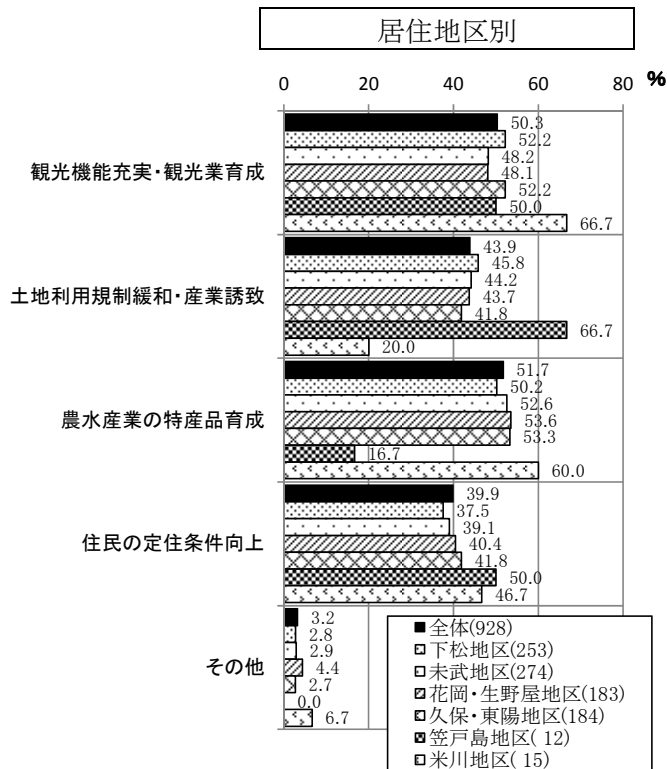
1. 観光地としてのPRや既存施設の機能充実に力を注ぎ、広域的な集客力を向上させ、観光業を育成する。
2. 新たな集客施設や産業施設の立地を可能とするように、土地利用規制を緩和し、観光や多様な産業施設を誘致、整備する。
3. 温暖な気候や栽培漁業センターの存在などを活かし、農業、水産業の振興により魅力ある特産品を育てる。
4. 島内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を進め、現在の住民の定住条件を向上させ、人口流出を抑制する。
5. その他

人口が減少し、小中学校の廃校などが進んでいる笠戸島について、その活性化に必要なことを2つまでの複数回答でたずねるものである。

「その他」を除いて用意した4つの選択肢への回答はかなり分散した結果となった。最も多いのは「農水産業の特産品育成」であるが、他の選択肢も大きな差ではない。

いわば「どれも必要」との考えの現れとみられ、総合的な施策投入の必要性を示唆している。



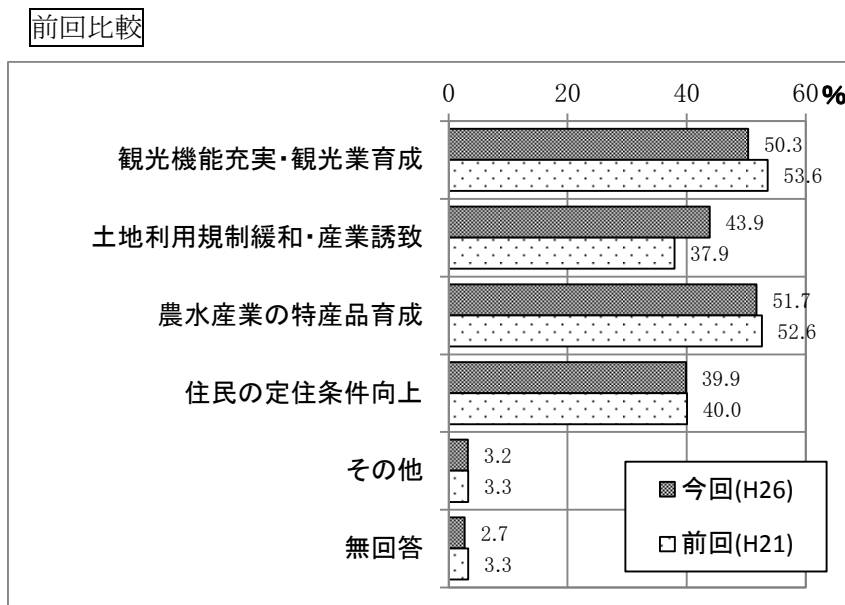


年齢別にみると、項目によって高い支持を集める年齢層に微妙な相違が見られる。「農水産業の特産品育成」は20歳代、60歳代で比較的高い支持率なのに対し、「土地利用規制緩和・産業誘致」は40歳代で最大の支持率となっている。

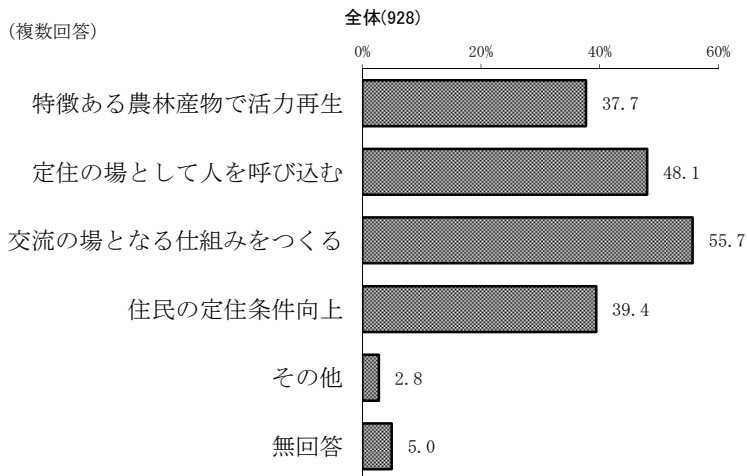
性別では、「土地利用規制緩和・産業誘致」で男性の方が、「観光機能充実・観光業育成」では女性の方が指摘する割合が高いのが目立つ。

居住地区別にみると、サンプル数が少ないながら、地元の笠戸島地区では「土地利用規制緩和・産業誘致」への回答率が突出し、逆に「農水産業の特産品育成」の割合が少ないのが特徴である。

前回（平成21年）調査でも同じ設問をしており、今回の結果は前回とほぼ同様の結果となっているが、「土地利用規制緩和・産業誘致」の割合がやや増えたように見える。



(2) 米川の活性化方策 (問 11)



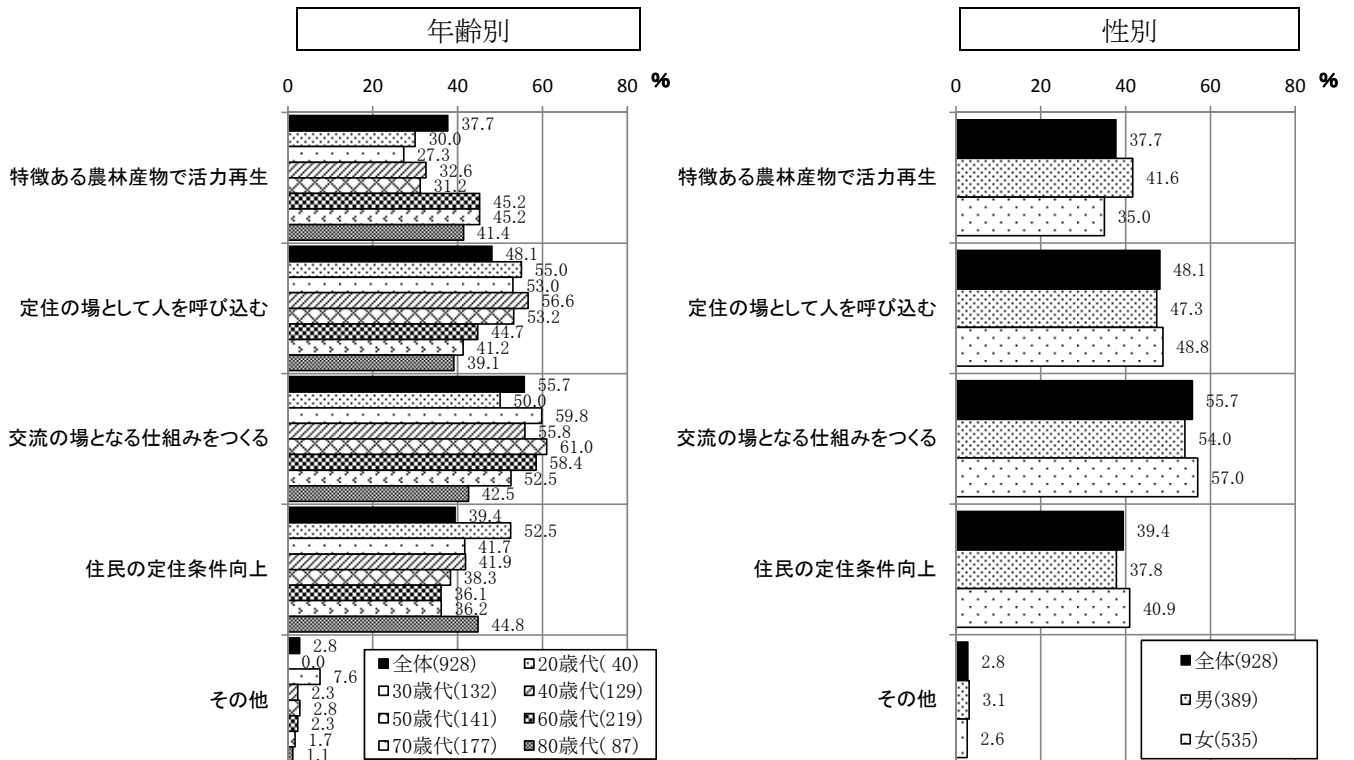
(選択肢)

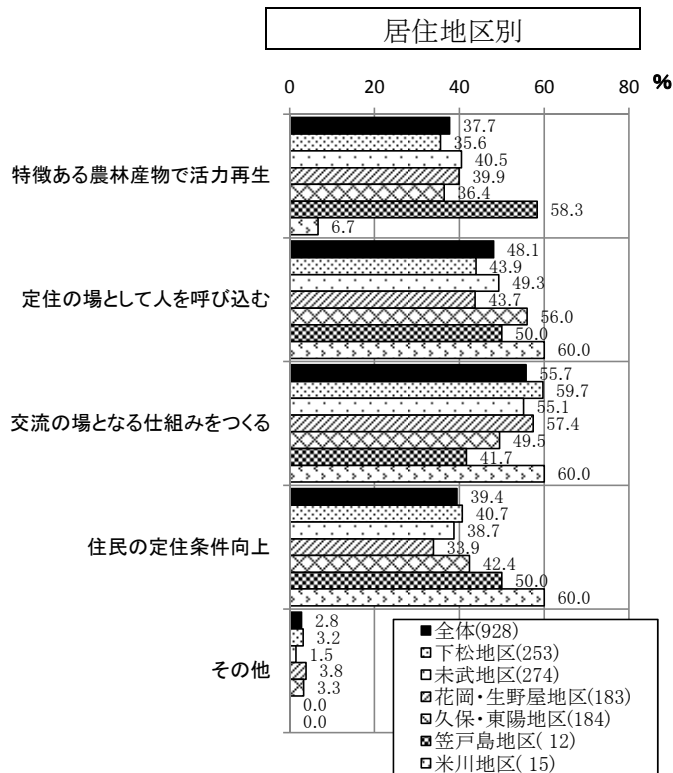
1. 農業や林業の基盤づくりや組織づくりなどを通じ、特徴ある農林産物を産み出し、経済的な活力の再生を目指す。
2. 宅地や住宅の提供などにより、市街地に隣接した自然豊かな中でゆとりある生活ができる定住の場として人を呼び込む。
3. 豊かな山林や農地などを活かし、自然体験や農業体験などもできる交流の場となるような仕組みをつくる。
4. 地区内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を進め、現在の住民の定住条件を向上させ、人口流出を抑制する。
5. その他

同じく人口流出で集落機能も低下しつつある米川地区の活性化に必要なことを2つまでの複数回答でたずねるものである。

用意した4つの選択肢の中で最も回答が多いのは「交流の場となる仕組みをつくる」で、これに「定住の場として人を呼び込む」が続いている。

「住民の定住条件向上」、「特徴ある農林産物で活力再生」も4割近い回答を集めている。





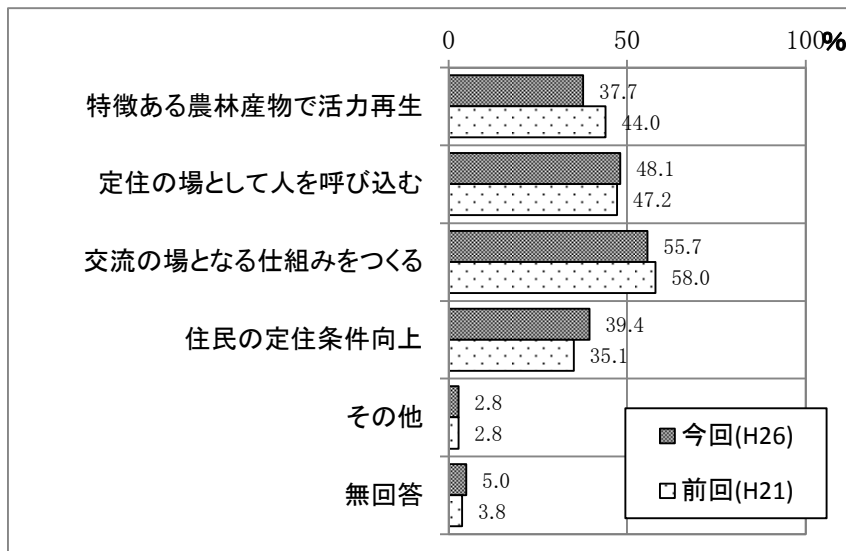
年齢別では、「特徴ある農林産物で活力再生」の割合が高齢者層で比較的高いものに対して、他の選択肢ではいずれも若年層の方が比較的高い回答率となっている。中山間地域での「定住」、「交流」は若年層世代に支持されていると言える。

性別による相違は少ないが、「特徴ある農林産物で活力再生」で男性の支持率がやや高い。

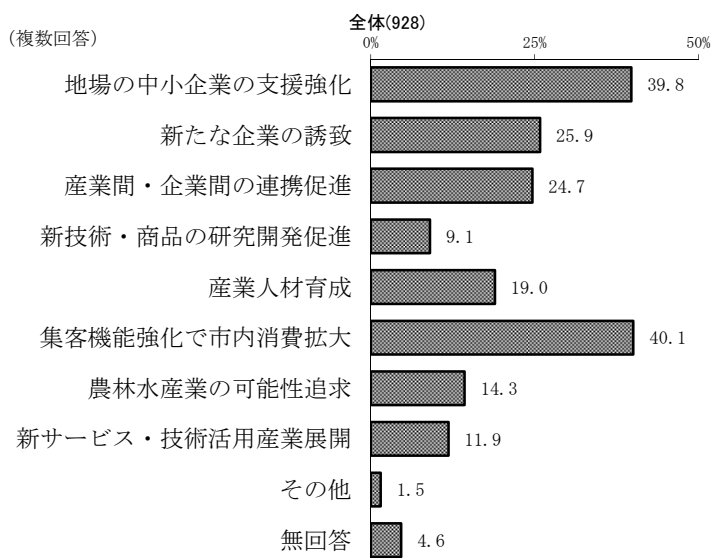
居住地区別では、地元の米川地区では、サンプル数が少ないものの、「住民の定住条件向上」が最も多く求められ、「特徴ある農林産物で活力再生」の割合はわずかである点が興味深い。

前回（平成 21 年）調査でも同じ設問をしており、今回の結果は前回とほぼ同様の結果となっているが、「住民の定住条件向上」の割合がやや増えたように見える。

前回比較



(3) 産業育成の方向 (問 12)



(選択肢)

1. 地域の中小企業の経営支援などにより地場産業の力を強化する。
2. 新たな企業などの誘致を積極的に行う。
3. 農業・商業・工業など産業間、企業間の連携を促進し、新しい製品や価値を産み出す。
4. 県内外の高等教育機関などとの連携も含め、新技術・新商品の研究開発を促進する。
5. 産業に関わる人材育成を積極的に行う。
6. 商業施設や観光拠点などが集まる機能の強化を重視し、市内消費を拡大させる。
7. 農林業、水産業に光をあて、新しい可能性を追求する。
8. 情報や新エネルギーなど新しいサービス・技術を活用した産業展開を促進する。
9. その他

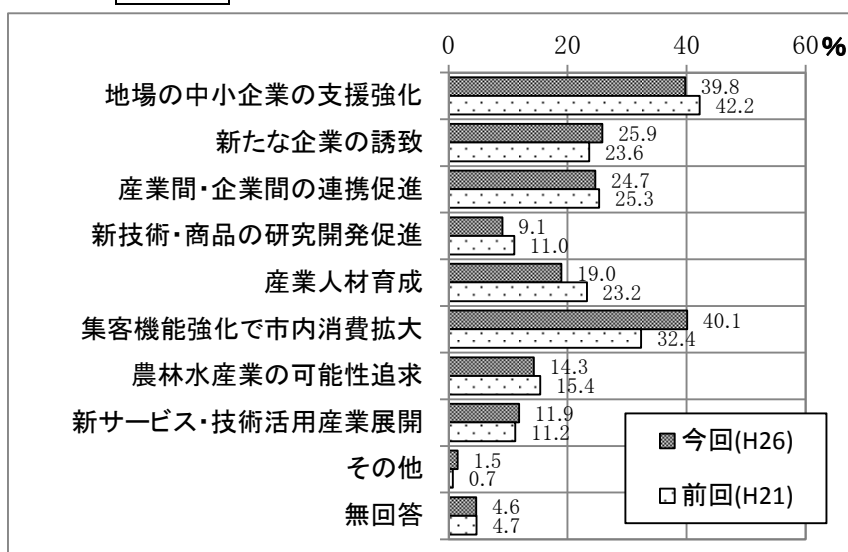
市内の産業育成策を2つまでの複数回答でたずねるものである。

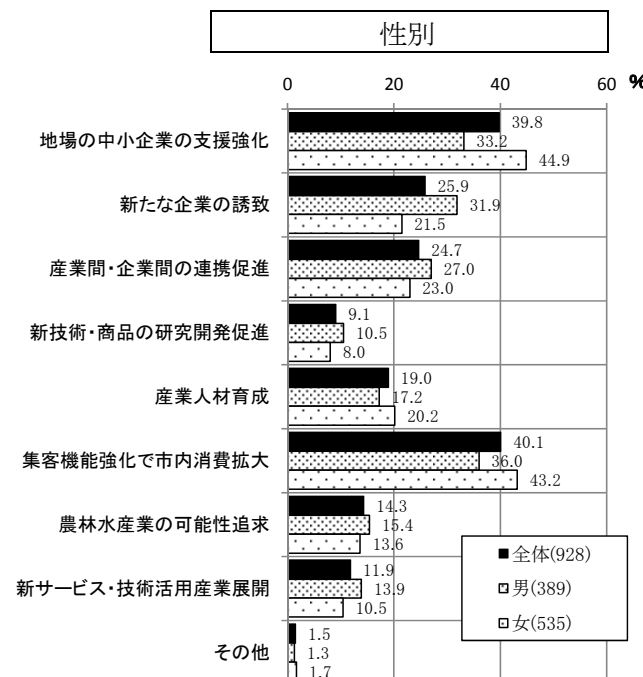
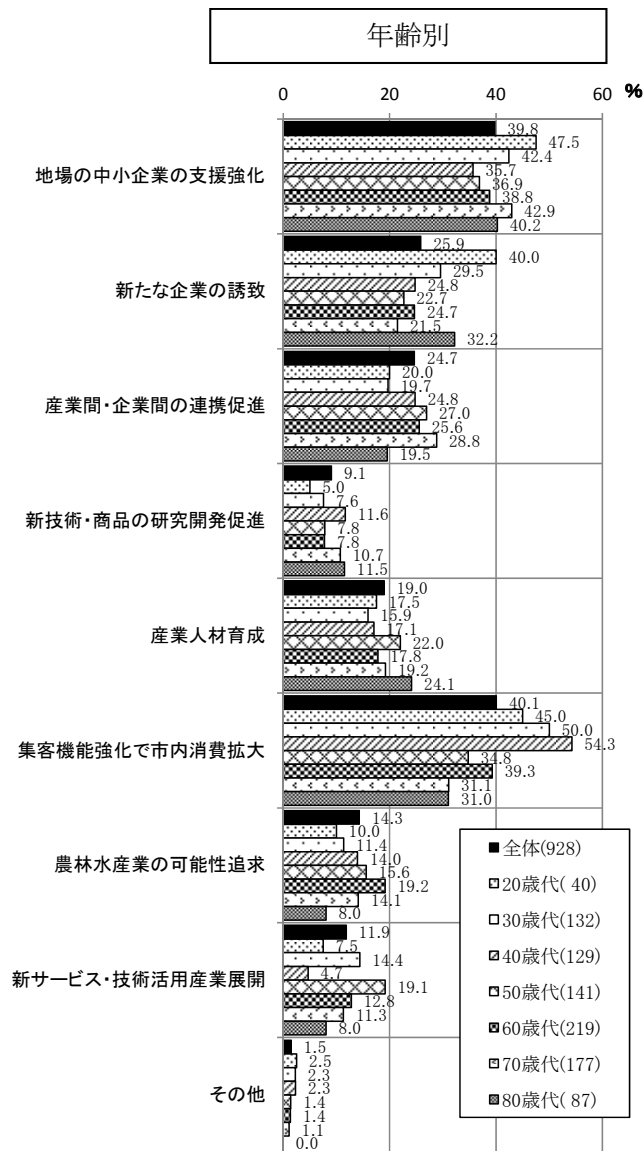
用意した選択肢で上位を占めたのが、「集客機能強化で市内消費拡大」及び「地場の中小企業の支援強化」で、それぞれ4割が指摘している。集客機能は、商業や観光施設等を意味し、商業都市としての近年の成長の流れが是認されているともいえる。

また、「新たな企業の誘致」も「産業間・企業間の連携促進」と並んで約1/4が指摘しており、地場中小企業育成と合わせて、民間企業の力の増大による生産力の向上が求められているといえる。

この傾向は前回(平成21年)調査の結果と類似しているが、前回と比較して、「集客機能強化で市内消費拡大」の指摘割合が増加(前回2位、今回1位)した点が特徴的である。

前回比較

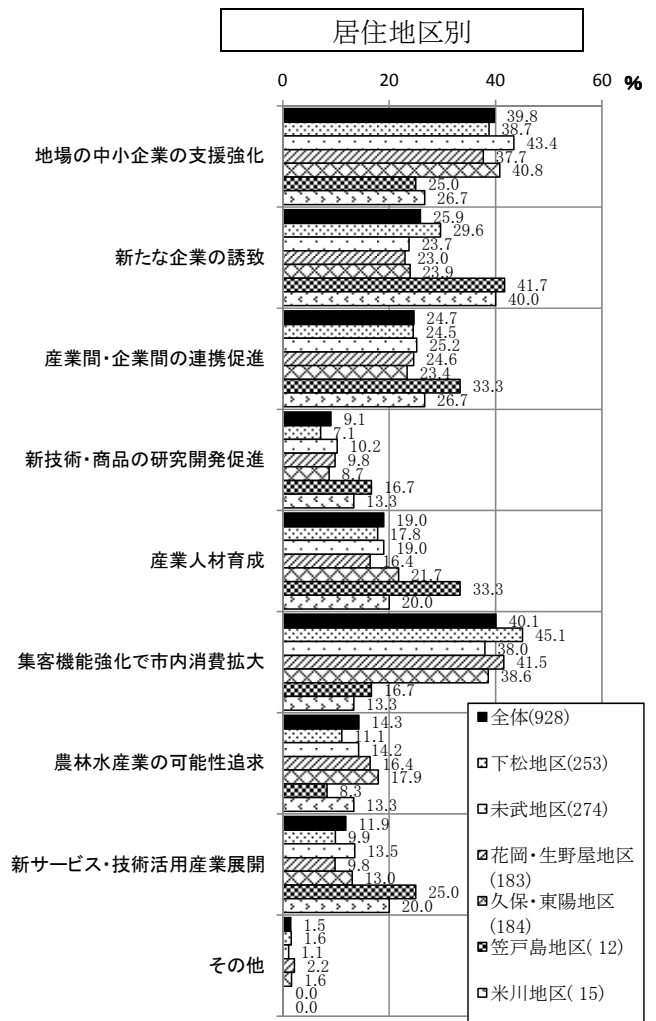




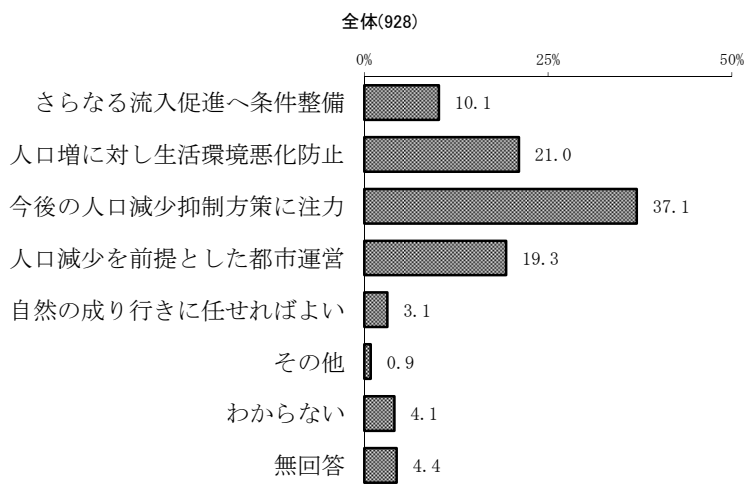
年齢別にみると、「地場中小企業の支援強化」や「新たな企業の誘致」が特に 20～30 歳代で高い割合で求められていること、「集客機能強化で市内消費拡大」は 40 歳代を筆頭にやはり若年世代で多く求められていること等の特徴がみられる。

性別では、「新たな企業の誘致」は男性で求める割合が高いのに対し、「地場中小企業の支援強化」や「集客機能強化で市内消費拡大」は女性の指摘率が比較的高いという相違がみられる。

地区別では、サンプル数が少ないが笠戸島、米川地区で「地場中小企業の支援強化」の割合が相対的に少なく、その分、他の選択肢が高い割合となっているのが目立つ。



(4) 人口動向への対応方向 (問 13)



(選択肢)

1. さらに多くの人口の流入を促進することが望ましく、そのために、住宅・宅地の確保など受け皿となる条件を積極的に充実させていくべきだ。
2. 今後も人口の増加が続くと思われ、生活環境の悪化などを招かないように、適切な土地利用や都市基盤の整備、コミュニティ機能の強化などに努めるべきだ。
3. 今後は、全国的動向と同様に人口は減少すると思われ、減少を抑制するための就業機会の確保、生活環境の向上などに力を入れるべきだ。
4. 今後は、全国的傾向と同じく人口減少は避けられず、減少を前提とした効率的な都市形成、行政運営などに努めるべきだ。
5. 人口の増減は自然の成り行きに任せればよく、特に対応策を考える必要はない。
6. その他
7. わからない

この結果を、年齢、性別にみると興味深い傾向の差が見られる。

年齢別では、人口の増加を前提とする対応または増加を促進する施策を支持する2つの選択肢で、年齢が若いほど支持率が高くなっているのに対して、今後の人口減少を前提として、減少抑制のための施策対応を求める選択肢では高齢層ほどその指摘割合が高いという特徴がある。若年層は、都市の活力が維持され高まることへの期待感、人口減少により活力が低下するのを避けたいという希望をこの回答に寄せたとも考えられる。

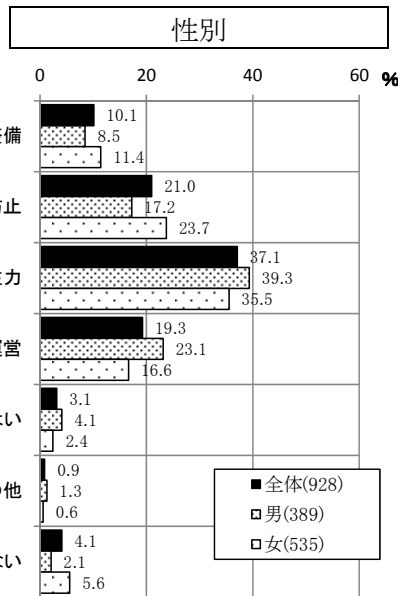
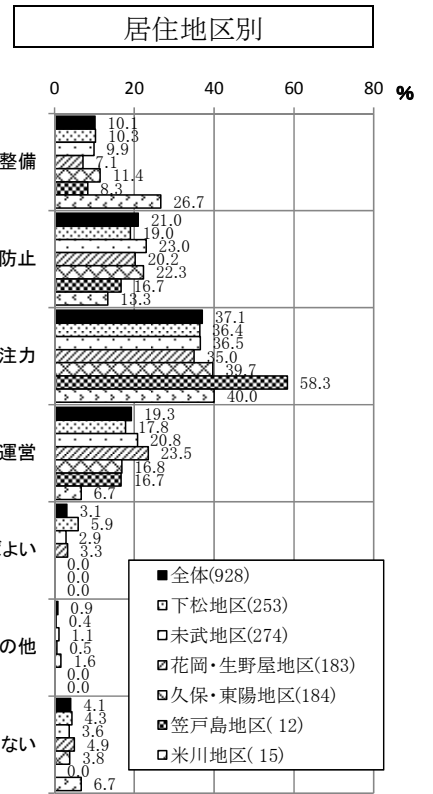
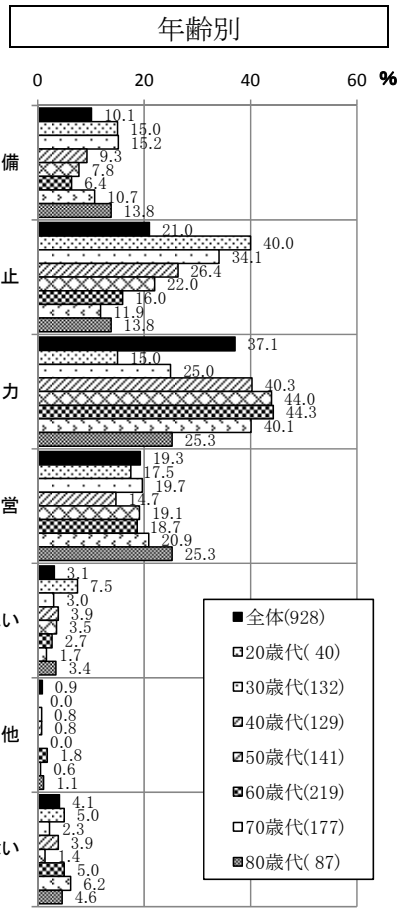
性別にみると、今後も人口増加という想定での2つの選択肢では女性の方が選択率が高く、逆に、今後の人口減少を前提とした2つの選択肢では男性の方が選択率が高くなっている点が興味深い。上述の人口増への期待感、人口減への危機感が女性の方が強いとみることできる。

また、既に深刻な人口減少問題に直面している笠戸島地区では、サンプル数は少ないながら「人口減少の抑制方針に注力」への支持率が突出しているのに対し、同じく人口減少に悩む米川地区では「さらなる流入促進への条件整備」を求める割合が高いという相違もある。

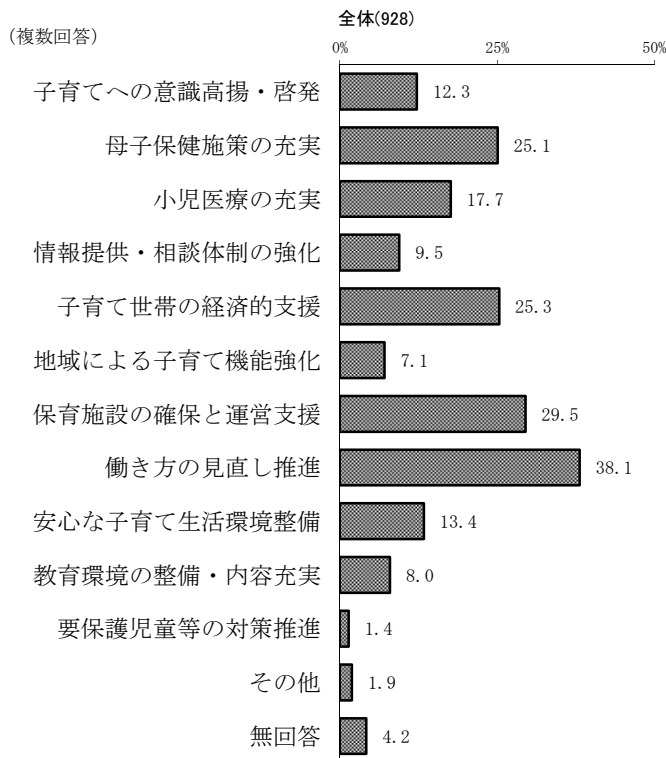
下松市は近年人口増加を続けてきたが、全国的、全県的に人口減少が顕著となってきており、この流れをどう受け止め、どう対応していくかの考え方をたずねたものである。

最も回答が多いのは「今後は人口が減少すると思われ、減少抑制のための就業機会確保や生活環境向上等に力を入れるべき」というものであり、「今後の人口減少は避けられず、減少を前提とした効率的都市形成、行政運営に努めるべき」と合わせて、今後の人口減少を認めた上での回答が半数以上を占めている。

一方、今後も人口増が続く想定での対応を求める回答は、さらなる流入促進への条件整備をすべきとの回答と合わせて約3割強となっている。



(5) 今後の子育て支援方策（問 14）



(選択肢)

1. 社会や家庭での子育てに関する意識の高揚・啓発
2. 安全安心な妊娠や出産の環境づくりなど母子保健施策の充実
3. 小児医療の充実
4. 子育てに関する情報提供や相談体制の強化
5. 子育て世帯に対する経済的支援の充実
6. 子育てサークルの活動支援など地域による子育て機能の強化
7. 保育園や放課後児童クラブなどの適切な確保と運営支援
8. 仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進
9. 安全な道路や良好な公園など安心して子育てができる生活環境の整備
10. 学校等の教育環境の整備・内容充実
11. 要保護児童などへの対策推進
12. その他

年齢別にみると、子育ての当事者世代である 20～30 歳代では、「子育て世帯への経済的支援」や「小児医療の充実」、「学校等の教育環境の整備・内容充実」を求める割合が他世代よりも高いのが目立ち、逆に、「保育園等の施設の確保と運営支援」や「子育ての意識高揚・啓発」などは中高年層で相対的に指摘率が高いという、世代による意識の差が見られる。

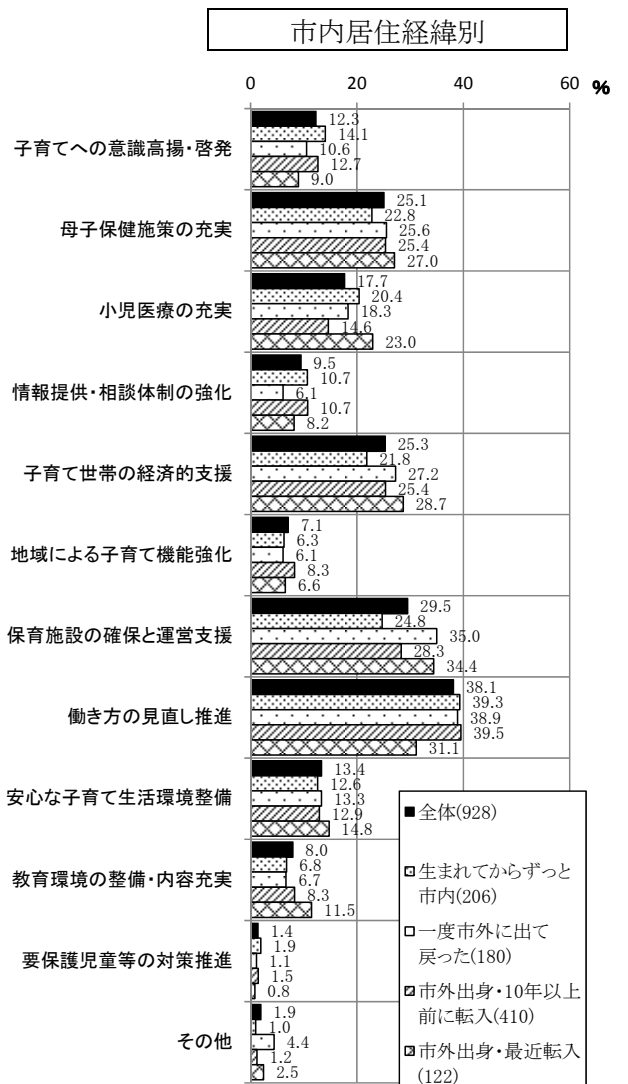
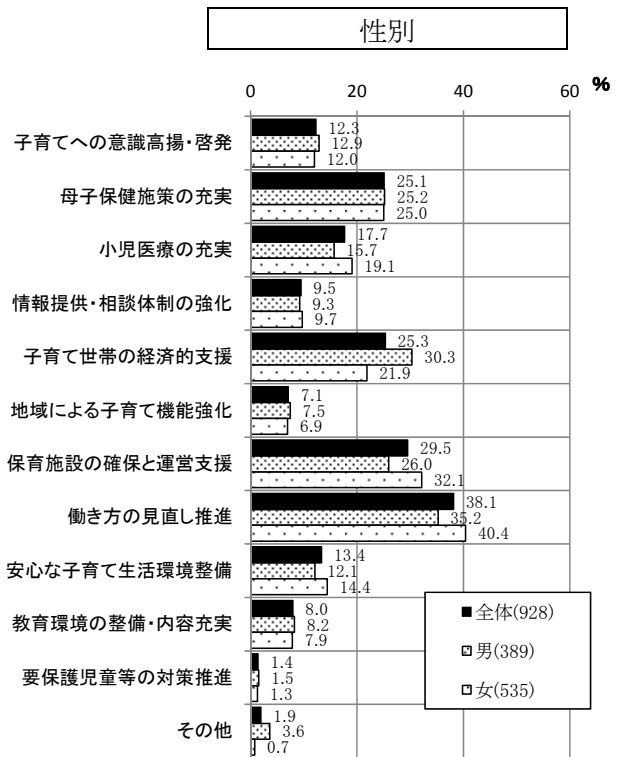
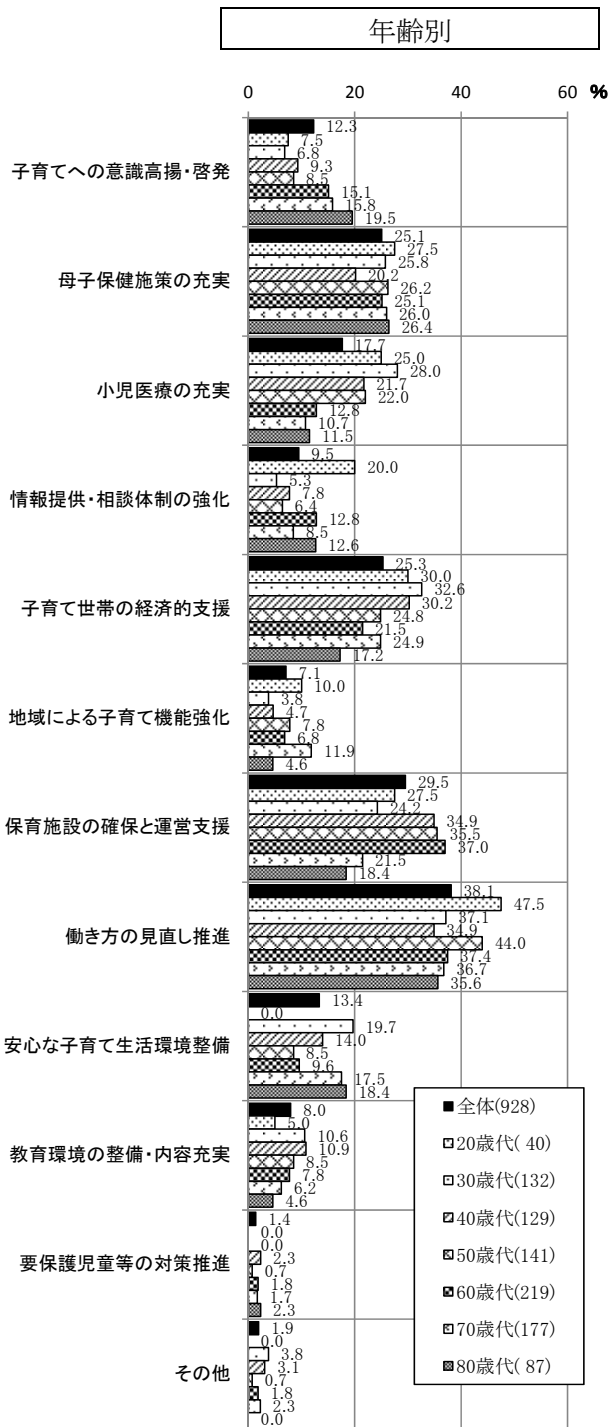
性別では、「子育て世帯への経済的支援」は男性の方が求める割合が高いのに対し、「仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進」、「保育園等の施設の確保と運営支援」、「小児医療の充実」は女性の方が相対的に高い指摘率となっている。子育ての経済的負担が男性に、身体的、精神的負担が女性に多くかかっている現実をうかがわせる。

また、最近 10 年以内の転入者層では、「働き方の見直し」の割合がやや少なく、逆に、「経済的支援」や「小児医療」、「教育環境」などの割合がやや高いという特徴もある。

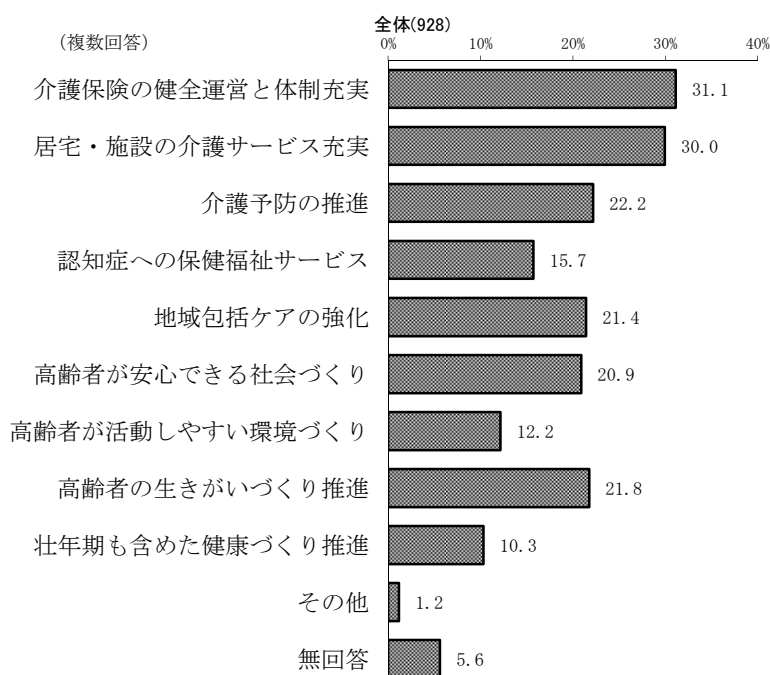
少子化社会における子育て支援方策として重要なことを 2 つまでの選択回答でたずねるものである。

最も回答を多く集めたのは、「仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進」で、いわゆる「ワークライフバランス」の観点からの方策が強く求められていることがわかる。男性の子育てへの参加促進の考え方もこれに含まれていると考えられる。

これに続くのが「保育園や放課後児童クラブなどの適切な確保と運営支援」、「子育て世帯への経済的支援の充実」、「妊娠や出産にかかる母子保健施策の充実」であり、安心して子育てしつつ生活ができる環境整備に関する施策が求められているといえよう。



(6) 高齢化社会のまちづくりの重点 (問 15)



(選択肢)

1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制の充実
2. 居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実
3. 要介護状態になることを防ぐ介護予防の推進
4. 認知症高齢者に対する保健福祉サービスの提供
5. 高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケア」の強化
6. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
7. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり
7. 高齢者の社会参加などによる生きがいがづくりの推進
8. 壮年期からも含めた健康づくりの推進
9. その他

本格的高齢化社会におけるまちづくりで重要となることについて、2つまでの選択回答でたずねたものである。

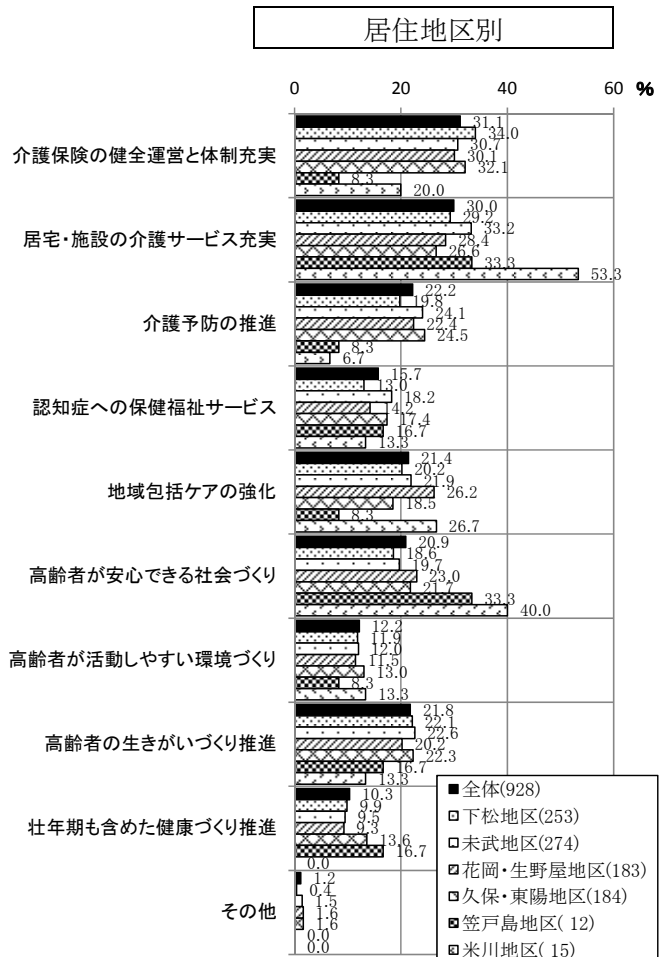
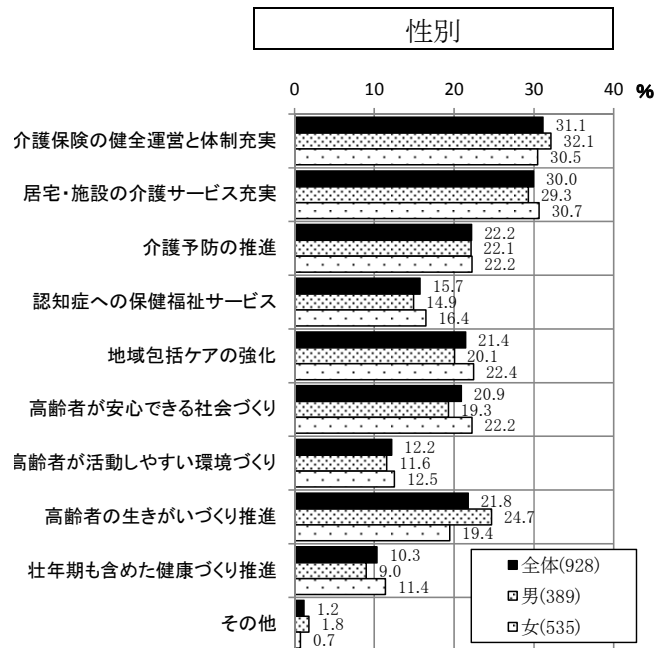
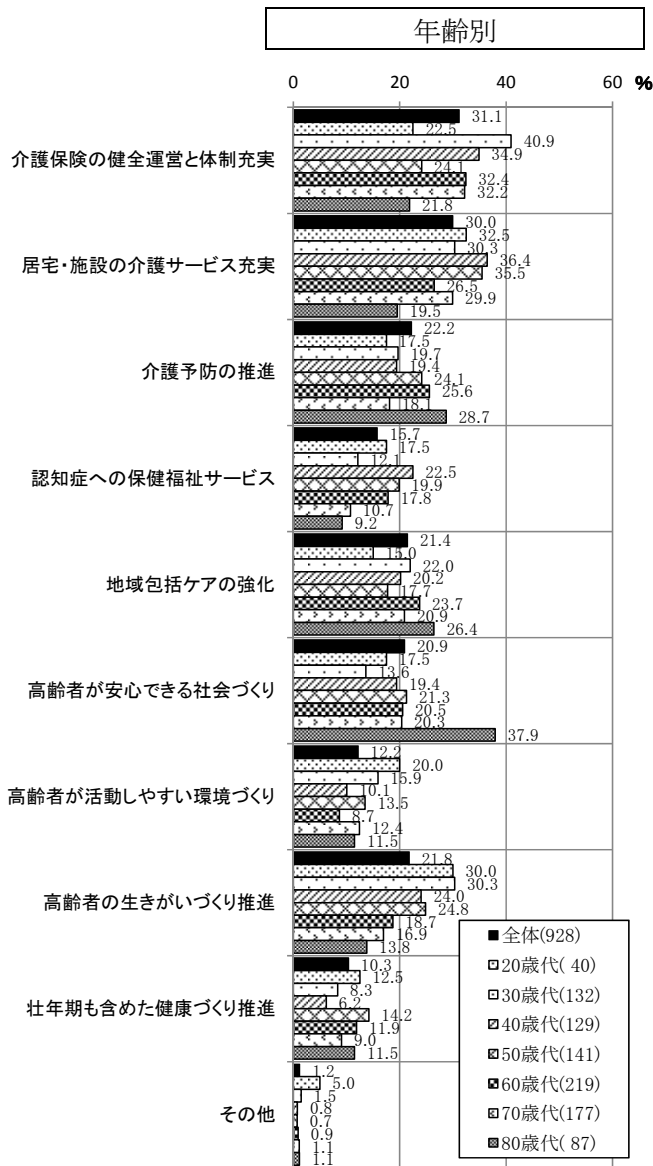
最も多い回答は「介護保険制度の健全で円滑な運営と体制充実」で、これに「居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実」が僅差で続いている。本アンケート調査の回答者は高齢者が多いこともあって、介護が身近な問題として意識されていることを示している。

そのほかの選択肢も回答が分散しており、いわば「どれも重要」であるといえるが、特に、要介護状態とならないような「介護予防の推進」や「高齢者の社会参加など生きがいがづくりの推進」がそれぞれ2割強の回答を集めているのは、いつまでも元気でいられる環境づくりが求められていることの現れと見られ、また、「地域包括ケアの強化」や「見守りや防犯など高齢者が安心できる社会づくり」も同じく2割強であることは、いざという時の安心の確保が求められていることにつながることもみられる。

年齢別にみると、「介護保険の健全運営と体制充実」は30歳代で最も高い回答率であること、「介護サービスの充実」は40～50歳代で特に高い割合であること、「高齢者の生きがいがづくり推進」は若い層ほど指摘率が高いこと、などの特徴を読み取ることができる。

性別では、「高齢者の生きがいがづくり推進」で男性の方が指摘割合が高いことが注目される。

居住地区別では、サンプル数が少ないが笠戸島、米川の両地区で他地区と異なる傾向を見せており、特に「見守りや防犯など高齢者が安心できる社会づくり」は両地区とも高い指摘率となっている。



(7) 災害への日頃の備え (問16)

東日本大震災や相次ぐ豪雨災害など、大規模な災害への関心、意識が高まる中で、市民の日頃からの災害への備えの状況を、いくつかの項目をあげてたずねた。設問対象とした項目は次のとおりである。このそれぞれについて「十分に『はい』」、「不十分だが『はい』」、「『いいえ』」の中からひとつを選択する形の設問とした。

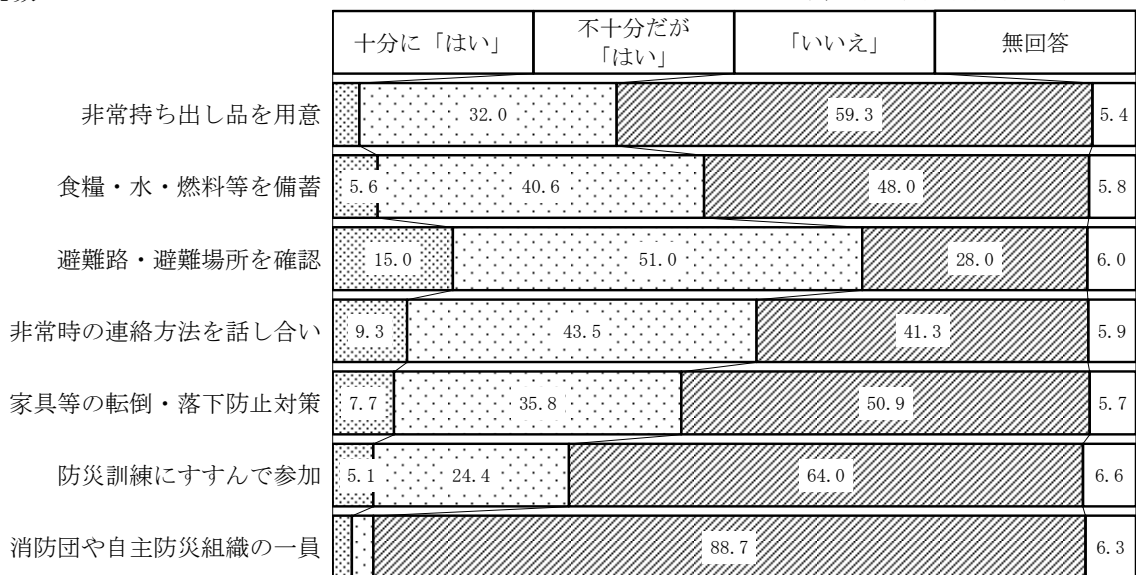
- a. 非常時の持ち出し品をまとめて用意している
- b. 食糧や水、燃料など数日分の備蓄がある
- c. 安全な避難路、避難場所を確認している
- d. 家族や身近な人と非常時の連絡方法話し合っている
- e. 家具などの転倒防止、落下防止の対策をとっている
- f. 地域や職場の防災訓練などにすすんで参加している
- g. 消防団や自主防災組織の一員である

いずれの項目も、「十分に『はい』」との回答は少なく、最も高い割合でも「避難路・避難場所を確認している」の15.0%である。「不十分だが『はい』」を加えると、その割合は高まるが、それでも合計割合が5割を超えるのは「避難路・避難場所を確認している」と「非常時の連絡方法を話し合い」のみで、他の項目は2～4割台にとどまっている（「消防団や自主防災組織の一員である」(計5.1%)を除く）。

このように「『いいえ』」が多い現状から、下松市民の災害への備え、防災意識はまだ十分とはいえないと考えられる。特に、「地域や職場の防災訓練にすすんで参加」は「はい」の合計割合が29.5%にとどまり、意識啓発機会への参加も十分ではない現状がみとれる。

総数=928

単位:% (5%未満非表示)



属性別の状況を見るために、「無回答」を除いた中での「十分に『はい』」と「不十分だが『はい』」の合計割合を算出して比較した。何らかの回答をした中で、何らかの備えをしている割合である。

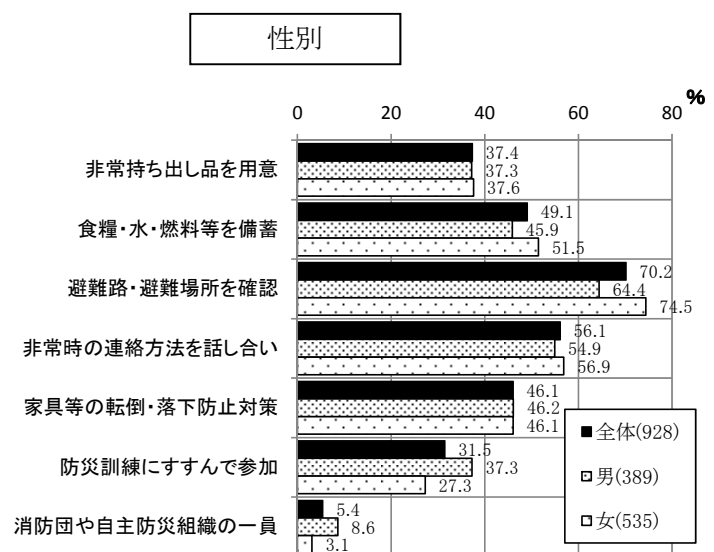
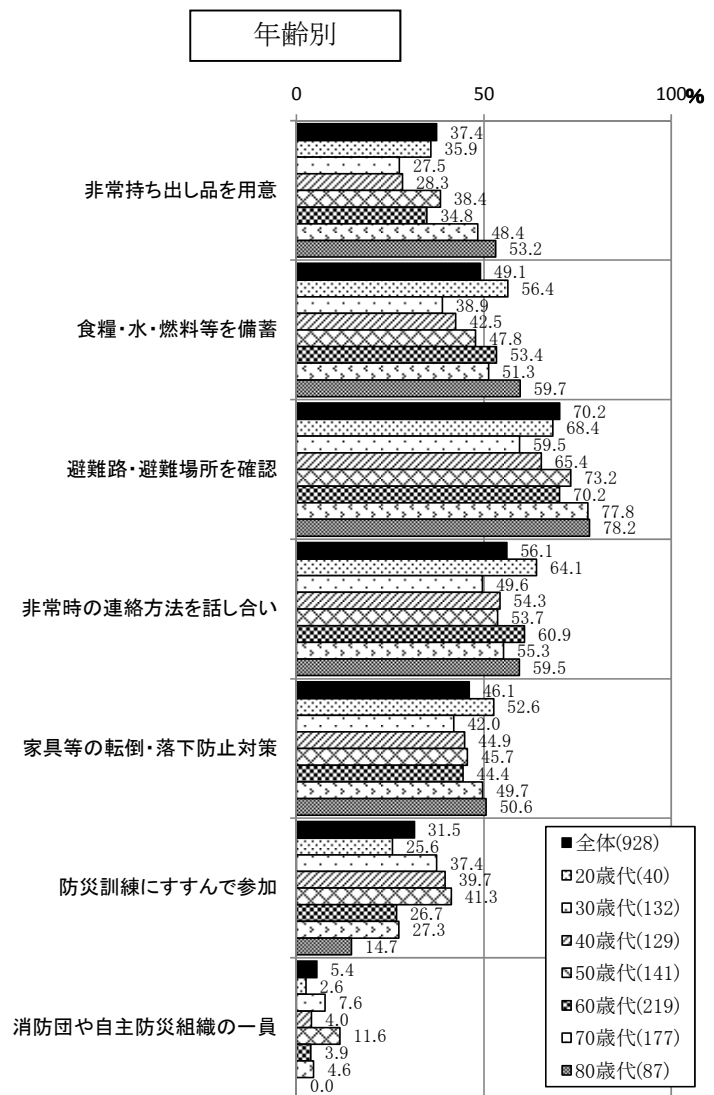
年齢別では、30歳代前後の若年層で備えのある割合が低い項目が多く、「非常持ち出し品を用意」や「食糧・水・燃料等を備蓄」、「避難路・避難場所を確認」などは顕著に高齢者の方が備えのある割合が高くなっている。

一方、「防災訓練にすすんで参加」は30～50歳代で「はい」の割合が相対的に高く、20歳代と高齢者の割合は低いのが特徴である。

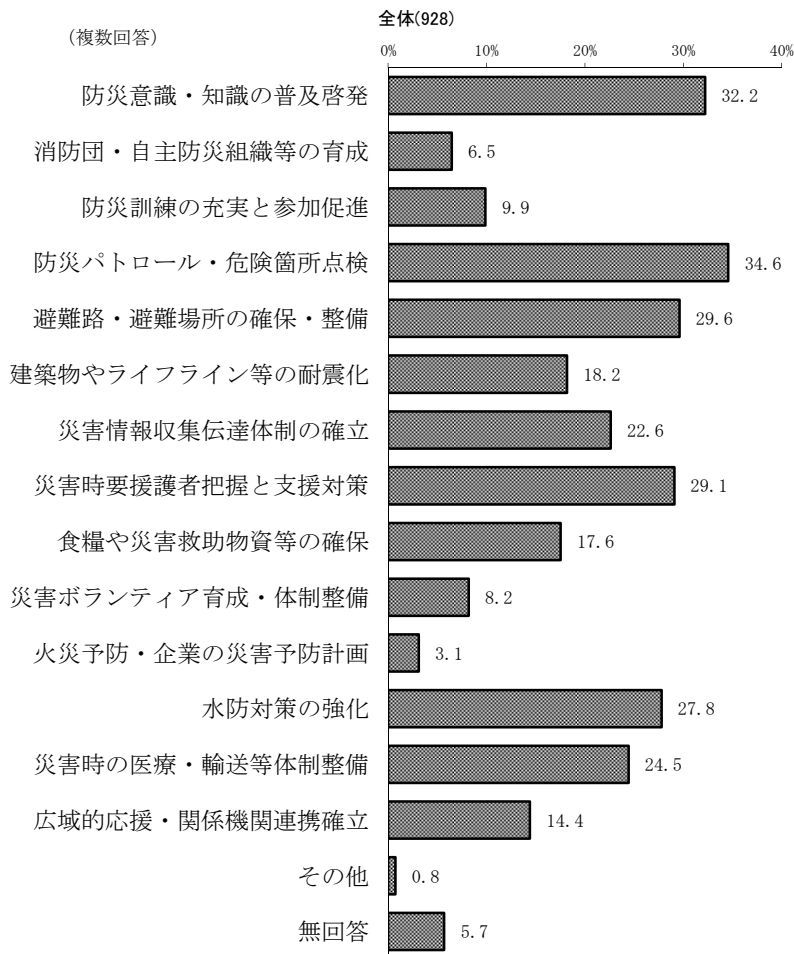
「消防団や自主防災組織の一員」は全体に少ないが、50歳代で11.6%と最も多く、この世代が地域の防災活動の中心的存在であることを示している。

そのほかの属性別では顕著な差異はみられないが、性別において、「避難路・避難場所を確認」は女性の方が「はい」の割合がやや高く、「防災訓練にすすんで参加」は男性の方が高いのが目立つ。

「十分に『はい』」と「不十分だが『はい』」の合計割合（「無回答」を除いた中での割合）



(8) 急ぐべき防災対策 (問17)



(選択肢)

1. 市民の防災意識・防災知識の普及啓発
2. 消防団や自主防災組織などの育成強化
3. 防災訓練の充実と参加の促進
4. 防災パトロールや災害危険箇所の点検、対策
5. 避難路、避難場所の確保と整備
6. 建築物や公共土木施設、ライフライン施設等の耐震化
7. 災害情報の収集・伝達体制の確立
8. 高齢者や障害者など災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策の確立
9. 食糧や燃料、災害救助物資等の確保対策
10. 災害時に活動できるボランティアの育成と体制整備
11. 火災予防対策や企業等における災害予防計画
12. 河川の改修や津波対策などの水防対策の強化
13. 災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制の整備
14. 災害時の広域的な相互応援協力、関係機関との連携体制の確立
15. その他

年齢別にみると、「防災パトロールや危険箇所の点検・対策」、「災害時に配慮が必要な方の把握度支援対策確立」等では中高年層で特に高い回答割合となっているのに対して、「避難路・避難場所の確保と整備」、「建築物や公共土木施設、ライフライン施設等の耐震化」、「食糧や燃料、災害救助物資等の確保対策」等では若年層で比較的高い割合であるなど、世代によって関心項目が異なる現状がみられる。

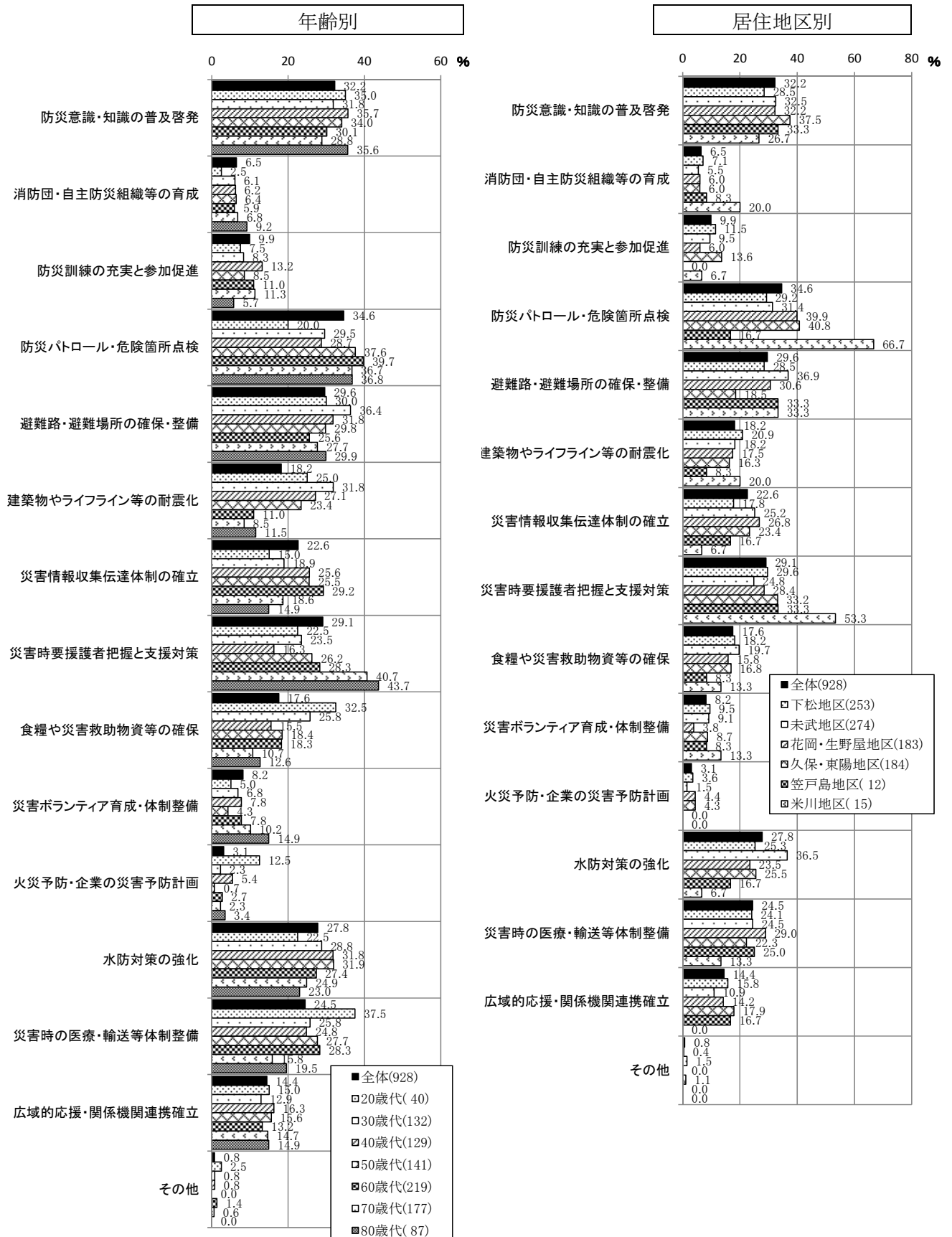
居住地区別にみると、サンプル数が少ない笠戸島、米川地区ではやや特異な傾向を示している

災害を予防し、被害を最小限にとどめるための防災対策について、3つまで選択する形でたずねたものである。

掲げた選択肢の中で、回答が多かったのは、(多い順に)「防災パトロールや危険箇所の点検・対策」、「市民の防災意識・知識の普及啓発」、「避難路・避難場所の確保と整備」、「災害時に配慮が必要な方の把握度支援対策確立」、「河川改修や津波対策など水防対策の強化」などである。このほかにも、「災害時の医療・衛生・緊急輸送等の体制整備」や「災害情報の収集・伝達体制の確立」なども比較的高い回答率となっている。

掲げた選択肢は、地域防災計画にも記載されている事項で、すべて必要なことからであるが、近年の災害報道等を通じて、防災対策として特に必要な事項が市民にも理解されてきているといえよう。

が、その他では大きな傾向の差異はみられない。ただし、「防犯パトロールや危険箇所の点検・対策」では花岡、久保地区での回答割合が比較的高いこと、「水防対策」では末武地区での回答割合が特に高いこと、等が指摘できる。それぞれ地区の特性を反映した結果とみられる。



(9) 効率的な都市づくりの方向 (問 18)

下松市では平成 23 年に都市計画マスタープランを改定し、人口増加が見込みにくい時代潮流の中で、効率的に都市づくりを進めるため、シンボルラインの位置づけやその周辺への都市的機能の集積など、コンパクトな都市づくりの方向を示している。

これに関連して、以下の 3 つの内容について、市民の賛同の状況を把握するため、4 段階で評価する形での設問としたものである。

- | |
|--|
| a. 市街地の拡大はできるだけ抑制し、住宅や産業施設などは土地の有効利用などにより集約的な立地を進める。 |
| b. 下松駅周辺～市道中央線～末武大通線～花岡駅周辺を都市の「シンボルライン」として、商業施設など人が集まる施設等の立地はこのライン周辺への集約的な立地を促す。 |
| c. 高齢社会での公共の足を確保する意味でも、住宅や商業施設等の立地は駅やバス停など公共交通機関が利用しやすい範囲に集約するように努める。 |

総数=928

単位:% (5%未満非表示)

	賛成できる	まあ賛成できる	賛成できない	わからない	無回答
市街地拡大抑制・集約的土地利用	25.1	47.8	6.0	14.7	6.4
シンボルラインへの施設立地誘導	26.0	49.7	7.9	10.2	6.3
公共交通機関重視の都市形成	41.1	39.7	6.1	7.0	6.1

3 項目とも、「賛成できる」、「まあ賛成できる」の合計が 7 割以上となり、効率的でコンパクトな都市づくりの方向は概ね賛同を得ているとみられる。前回 (平成 21 年) 調査でも、設問形態は異なるが、概ね同様の結果を得ており、市街地拡大の時代から集約の時代への転換は、市民意識の中でも理解され、意識として定着してきていると期待される。

特に、「公共交通機関重視の都市形成」に関しては、アンケート回答者に高齢者が多いことを反映していることもあろうが、高い賛同割合を示しており、公共交通の充実は今後の施策の中で重要性を増してくると考えられる。

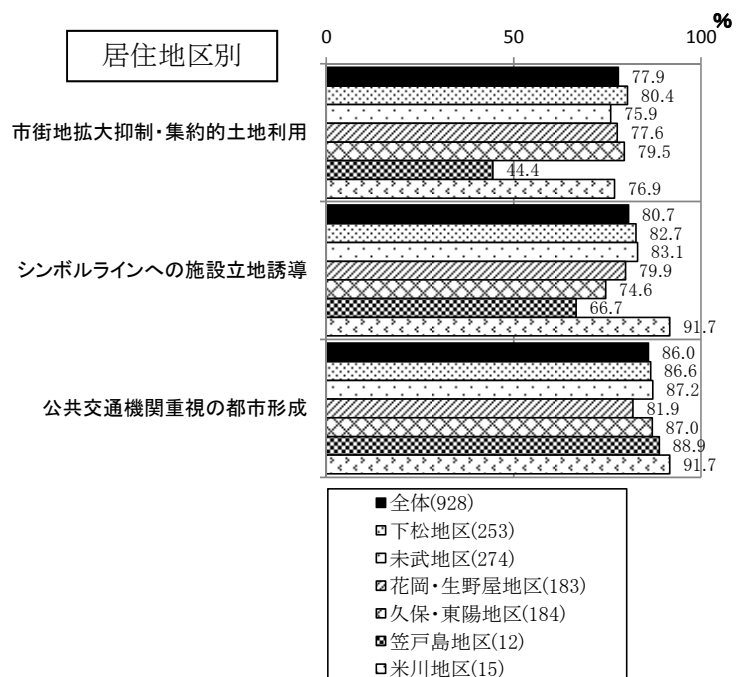
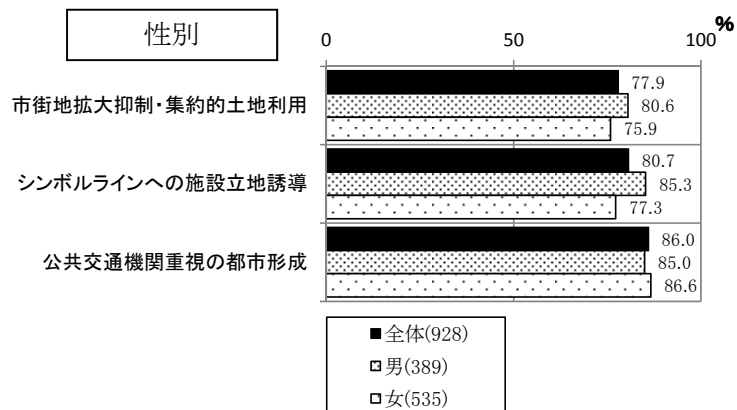
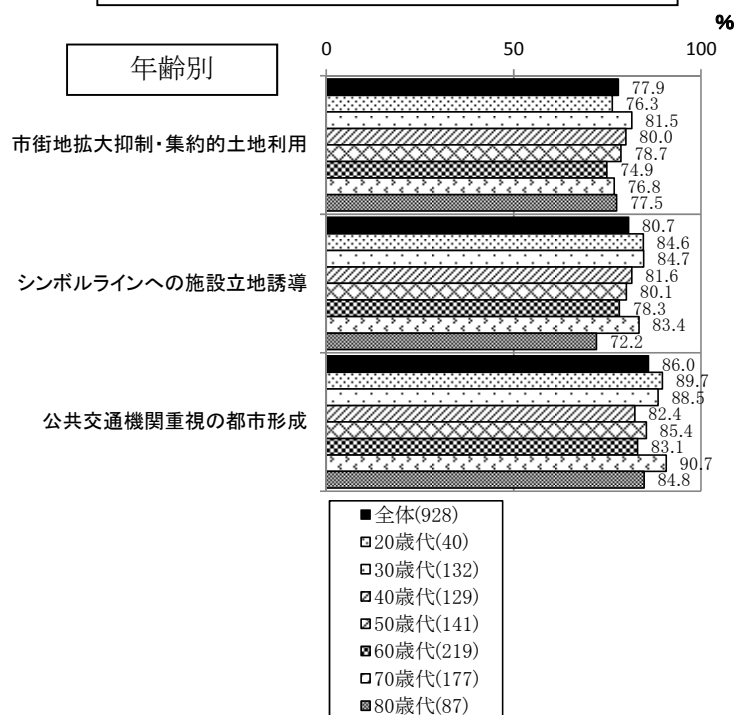
属性別の状況を見るために、「無回答」を除いた中での「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合を算出して比較した。何らかの回答をした中での賛成方向の考えを持つ割合である。

年齢別には大きな差異は見られず、「シンボルライン周辺への施設等の集約立地誘導」は、20～30 歳代でも高い支持率となっているのが注目される。

性別では、「集約的土地利用」、「シンボルライン周辺への集約立地誘導」で男性の賛成割合がやや高いが、大きな相違ではない。

居住地区別では、サンプル数が少ない笠戸島でやや特異な値が見られるが、全体にはほぼ共通の傾向を示している。

「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合
 (「無回答」を除いた中の割合)



6. 自由意見

このアンケート調査では、次の2問で自由な記述の回答を求めている。

- ・問 19 (下松市のまちづくり全般 (行政の運営や税金の使い方など) の評価で「あまり良くない」、
「悪い」と答えた場合のその主な理由)
- ・問 20 (下松市の今後のまちづくりや行政運営について、自由な意見や提案)

(1) 市の行政全般への評価が良くない主な理由 (問 19)

No.	意見	年齢	性	地区
1	○住宅に対するインフラ(下水道等)整備の遅れ(おそい) ○高齢者市民の足の確保(店が遠い、バス等の足がない、停留所遠い)	60歳代	男	花岡・生野屋
2	○商業施設中心に発展し、看板が林立し素敵な街、住みたい街になっていないのではないのでしょうか ○ドイツを旅しましたが、風力、太陽光発電、緑の多さ、生活に密着した農業、酪農など、堅実な生活ぶりが伝わってきました。華やかさでなく日々の幸せな生活を重視し、どんな災害があっても市全体で対処できる街づくりを考えてはと思います	50歳代	女	花岡・生野屋
3	安心、安全まちづくりが進められているとは思えない	70歳代	男	末武
4	一部地域に限定されている	60歳代	男	花岡・生野屋
5	お金の使い方のメリハリに欠けている。星の塔は少し掛けても今の倍の高さくらいにしていれば、かなりの人が利用したと思うが、周りの木が邪魔で景色も見渡せず、公園も荒れ放題でもったいない。また農業公園は今の下松であれば、光市の里の厨と同等のものはつくれたと思う。そのくらいのことをやってほしかった。	40歳代	男	久保・東陽
6	企業誘致に全力で取り組むこと	80歳代	男	末武
7	現在の下松市は全体が良くなるのではなく、裏の部分(光の当たらないところ)に力を全く入れていない	70歳代	男	下松
8	子どもたちが雨の日でものびのびと遊べる場所づくりの提供	20歳代	男	久保・東陽
9	市街地開発が進む中、道路状況の悪化と交通量の増大になっている。市はそこの状況を把握しているのか疑問である。交通事故、災害等が発生する前に早く手を打つべきである	60歳代	男	花岡・生野屋
10	市民の優先事項とのズレを感じる	40歳代	男	花岡・生野屋
11	市民へ対しての健康診断などの補助が少なく、健康診断を受けられる年齢も下げてほしい。高齢者だけでなく子供の医療補助の年齢を拡大させてほしい	30歳代	女	末武
12	市役所の市職員に全てではないが活気が感じられない。何を机に向かって仕事をしているのかと思うことがある。税金の無駄づかいなのか不安です	60歳代	女	下松
13	周南市と比べると、文化施設、スポーツ施設があまりにも少ない。(若者が集まるような場所、公園)などが少ない。パチンコ屋ばかり!もっと課税せよ!	40歳代	男	末武
14	周南市に比べ自治会単位レベルの小規模公園がない。少ない	50歳代	男	末武
15	小学校給食センターを新設しようとしていること。保育園を民営化しようとしていること	40歳代	女	下松
16	商業施設が下松市内のあちこちに点在、増加しすぎることによって本来の生活環境(住宅、準工業地域)が悪化している。土地や人口に対して、商業施設が多すぎる。集約するなど、対策をとるべき	30歳代	女	末武
17	小中学校校舎等の整備が遅れている	70歳代	女	末武
18	職員の危機感が薄い。もっと若い人が指導者になり、新鮮味のある内容でないとこれからの下松市はないと思う。市民のために働くということは年齢には関係ない。やる気の問題だ	60歳代	男	久保・東陽
19	人生の出口付近の方(高齢者)と入口(子ども)に関する費用(予算)のバランスを改善すべき(入口重視)	30歳代	男	久保・東陽
20	末武大橋～花岡駅まで県道なのに道幅が狭く車と車が出会ったときはバックして広いところまで移動します。末武川でどうしようもないと思いますが、どうにかありませんでしょうか。大変困っております	80歳代	女	下松
21	税金の使い道	70歳代	女	下松

22	それぞれ高齢者が培ってきた技能、趣味、経験等を仲間と共に自由に活動でき、貸出用具を備えた施設(老人ライフ活性化ホーム)、ボランティアを行おうと思った時施設に行けば目的の用具を借りて活動が思うようにでき、また憩いの場としても利用等。	80歳代	男	下松
23	中途半端、モールがあり、人が集まってきているだけで中身なし。高齢者だけでなく、現役世代がしっかり稼ぎ納税して社会を支える社会にしなければ先がない	40歳代	男	下松
24	道路づくりにお金をかけすぎている。必要以上につくりすぎている	70歳代	男	末武
25	道路舗装の老朽化やマンホール周りの陥没を早急に対応すること。市の土地(公園やのり面など)管理をきちんとする。雑草対策など放置すると多額のお金がかかる。なんでも小さいうちに手を打つと良いと思う。大城はやめるべき。お金がもったいない。行かない。もっとやることがあると思う。合併は考えないのか。将来的に下松は必ず困る	40歳代	男	久保・東陽
26	土地区画整理事業で住民の意見を聞いてくれなかった	80歳代	男	末武
27	豊井地区は子どもがほとんどいません。10人以下のクラスばかりになると思います。子どもを増やすよう道路整備、居住地を増やしてほしい。無理なら下松小との統合をお願いします	30歳代	女	下松
28	年配の人達の口がうるさい。他人の生活を見てきた様うそを言う	80歳代	女	久保・東陽
29	野焼きが多い、何とかしてほしい	70歳代	女	花岡・生野屋
30	保育園に入れず、市街の園に行っていたりするので、子育て支援をしっかりとしてほしい。公園等も人がいなくて行きづらいので、親と子どもと一緒に遊んだり、相談したりできる場所がほしい。夏日差しが強いので室内での施設が望ましい	30歳代	女	花岡・生野屋
31	本当に必要な道路工事なのか、あやしい。危ない場所はたくさんある	30歳代	女	下松
32	まともな公園がない。道路が悪い。若い市長にすれば良いのでは？	50歳代	女	下松
33	無理なところ(駅南商店、北口)に税金の投入？今、人の動いている所に税金を投入してみたら	70歳代	男	花岡・生野屋
34	目に見える効果測定ができない	60歳代	男	花岡・生野屋
35	もう少し噛み砕いた形で公開してほしい。皆が試算表などの見方がわかるわけではない。項目でも、子供にも分かりやすいようにしてほしい。理解しにくいから「4」(問19)にしました	30歳代	男	下松
36	高齢に関わらず所得の多い人には税金が多くても良いと思います。生活の困難な人にはそれなりの税金を支払う方が良くと思う	60歳代	女	花岡・生野屋

(2) 今後のまちづくりや行政運営について自由な意見(問20)

何らかの記述をした回答者は297名であった。意見内容は様々だが、それぞれの主な記述内容を、総合計画の6分野を基本に分類した結果は以下のとおりで、都市建設部門に関連する記述が多くなっている。

(区分)		件数
①	健康福祉 (保健・医療、多様な福祉、子育て環境など)	38
②	生活環境 (環境保全、環境衛生、安全安心など)	43
③	都市建設 (土地利用、都市基盤整備、居住環境など)	81
④	産業経済 (農林水産業、商工業、観光振興など)	34
⑤	教育文化 (学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど)	7
⑥	地域経営 (協働社会、人権尊重、行財政運営など)	23
⑦	職員、市の対応について	25
⑧	下松市・市政全般への意見・要望	29
⑨	その他	11
⑩	アンケートについて	6
計		297

※複数の分野にまたがって意見を記載している場合も、主な記載分野でカウントしている。

①健康福祉（保健・医療、多様な福祉、子育て環境など）に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
1	○若い人も増えてきているので、出産できる病院を下松市に作ってほしい ○ゴミの分別が光市に比べ悪いと聞いている。市も積極的に自治会の集まり等利用して講習してほしい ○高齢者の方の通院や買い物のためにくりんバスがあると助かると思う	50 歳代	女	末武
2	○住みやすい市に選ばれている中、下水道が整備されていないところが多いのが気になります。道路には整備されていてもそこから家まで整備するとなればお金がかかるのでなかなかされませんよね。市で援助されて1件でも多くの方が汲み取りをなくされるのが望ましいと思います ○生活保護の方や母子家庭の方が多い中わたしたちは一生懸命頑張っているのですが、生活保護や母子家庭の方々の方がいい生活をしているよう思えます。お金を渡すのではなく、現物支給をしたり、市の仕事をあっせんしたりしてみたいかでしょうか	50 歳代	女	下松
3	○医療の充実:大きな施設の病院があっても、難しい手術などを行える医者が山口県内にはいない。他県で手術を受けなければならなかった。産婦人科、婦人科の充実 ○大きなショッピングセンターがほしい。ダイヤモンドシティなど ○休日遊べる施設の充実化	30 歳代	女	末武
4	妊婦健診の補助や乳幼児の医療費免除はとても素晴らしい制度だと思います。周南市の近鉄松下百貨店が閉店し、近隣に百貨店がないので下松市に誘致してほしいです。下松市に転入して来てから洋服等は広島か福岡まで遠出して買いに行っています。このあたりの方は皆そうされているようです	40 歳代	女	花岡・生野屋
5	多方面の障害者への理解に努め、もっと障害者に優しい町づくりであってほしい。福祉に精通したスタッフを育ててほしい。各部署で専門性が必要な部位は適材適所で市民にやさしい専門スタッフがほしい。お役所仕事で流され悲しい思いをさせてほしくない	50 歳代	女	下松
6	市民団体のお祭りだけでなく、テキ屋さんと呼んだ夜店のお祭りがあったらいいと思う。母子家庭の無利子での貸付など面接や多数の書類提出・・・本当は貸す気がないのでは？と思ってしまいます。もっと弱者にやさしい対応を！！	-	-	-
7	○急速な高齢化、基盤は病院に行くことが主。市内なら 1500 程度で乗れるタクシーを作ったら？(車に乗れなくなるので)券発行、2-3 枚(月) ○80 歳超えた人にこんなアンケートを寄越すのはどうか ○認知症見回りが他市にできたと聞く。特別の人を作らなくても市民全員で胸に何か名札のような色のついたものを付けさせて、不振と気づけば言葉を掛けてあげる・・・まだまだたくさんありますが、考えつくままに・・・	80 歳代	男	末武
8	○安心して子育てができるまちにしてほしい(通学路の危険個所の整備、パトロール) ○休日を家族で楽しめるような施設が増えればよいと思う(複合遊具を備えた公園や、雨の日でも楽しめるような屋内施設)	40 歳代	女	末武
9	○病院代、保険代、年金、住民税高すぎる ○スポーツする所はあるが、遊ぶところがない ○がん検診等定期的にしてほしい(無料)	20 歳代	女	下松
10	意見を言わせてもらいます。老い先短い身ですので今後のまちづくりにはあまり乗り気ではありません。ただ年金で生活しているのでびっくりしたことがあります。先月分から7万円も少なくなりました。1ヶ月にすると3万5千円分少なくなったわけです。介護保険もその中から差し引かれて手取りのお金です。これは死活問題でとてもびっくりしました。介護保険を受けるかどうかもわからないのに引き落とすことに腹が立ちます。国で定められているとは言えどうしたものかと思案しております。病院へ行くことは増え、3割支払です。1割ならまだしも、まだ5年間3割支払いと思うとため息が出ます。まあ愚痴を聞いてくださりありがとうございます	60 歳代	女	下松
11	がん検診は1年に1回か、3年に2回程度実施に変更してほしい	20 歳代	女	花岡・生野屋
12	休日診療所の医師のレベルが低い。高飛車な医師がおり時代にマッチしていない。利用したくないし、市民の救急に対応できるのか？	40 歳代	女	末武
13	下松市で長く生活していこうと思っているので子供や高齢者にやさしい町であり、住みやすく安全な下松市であり続けてほしい。	30 歳代	女	末武
14	下松市には産科のある医療施設がないので小児医療とともに充実させてほしい。全国的にも被害が多くなってきているので防災面でどうすればいいのか。たくさん情報を開示してほしい	20 歳代	女	花岡・生野屋
15	県内でも住みよい町として、下松市は人気だと思います。子育て世代にとっても高齢者にとっても住みよい町となるように、引き続き政策をすすめていただきたいと思います。よろしくお願いします	20 歳代	女	末武
16	高齢化が進んでいるが、ある程度年月が経過すると一転して人口減少となる。将来的に少しでも人口減少を防ぐために若年者への福祉政策を今から充実させておくべき	60 歳代	男	末武
17	高齢化社会に向かい寿命を延ばすのではなく、健康年齢に力を入れていただきたいです。例えば、施設などに入所された方々を見ていると怪我など恐れすぐに車椅子生活をされているように見受けられます(従業員の手が足りないからかもしれませんが)	70 歳代	女	久保・東陽
18	高齢者対策を普段生活している中で、もっとわかるように知らせてほしい。条件付きだが小3	40 歳代	女	末武

	まで医療費無料もやっとならなくなったという感じがする。子供会入会者は減少している。市子連は以前からと変わらない方向性のような気がして疑問に思う			
19	高齢者の医療や介護保険など負担を軽減してほしい	30歳代	女	末武
20	高齢者の活用できる街づくり	60歳代	男	久保・東陽
21	高齢者の福祉対策をもっと考えてほしい(施設)	80歳代	女	久保・東陽
22	子育て支援のうち、乳幼児の医療の3歳以上所得制限をなくしてほしい。他県や他市ではなくしているところもある。市としても子育て支援、少子化対策をしっかり行ってほしい。大城の建設よりも、こういった対策の方が市民に理解が得やすいのでは・・・	30歳代	女	花岡・生野屋
23	子育てしやすい市を目指し、施策も充実していけば未来が明るいのでは・・・	70歳代	男	末武
24	子育てするうえで、出産しても母親が働きやすいように保育園、学童保育の受け入れをもっと充実してほしいです	50歳代	女	末武
25	子育て世代です。保育園は19:00前後まで預かってもらえますが小学校の学童は18:00までとギャップが大きく、時間延長も考慮してほしいです。またある学童では18:00ギリギリだと文句を言われたり、高学年の子が低学年の子をいじめても指導やとめてもらえない状況にあります。働く親が安心して預けられる(時間的にも精神的にも)学童の体制と支援員さん(学童の先生)の質の向上、面接等の強化や定期的な巡回指導等をしてほしいと思います。中には支援員さんの暴力や放任もかなりひどい学校もあるのをお知りください。それでも預けてみてもらわないとやっていけない家庭もあります	40歳代	女	久保・東陽
26	子育てをするうえで子供を遊ばせる場所が下松市には少ないと感じます。子育てサークルも参加しにくい感じがします。児童センターもお母さんたちのグループが出来ていて途中からだとも入れる雰囲気ではなく足が遠のいてしまいました。そこにいる先生方ももう少し何か考えてくれたら行きやすくなるのではと思います	40歳代	女	久保・東陽
27	ご提案:現在弊社が取り組みを考えているシステムがあります。○徘徊老人を探し出すサービス ○独居老人の安否確認をするサービス ○災害時におけるあんび確認サービス ○中小企業の災害サービス ○自治体と個人、企業を結ぶサービス(災害時) 災害時必要となる情報の扱いの難しい部分への問題点をクリアできる技術(PKI)を持っているため、今よりの確で、よりきめ細かい市民サービスの提供ができます。また市職員の皆様の初動対応に効力を発揮するものです。耳を傾けていただければ幸いです。市民の安全を一番に。	50歳代	男	花岡・生野屋
28	子どもを育てやすいまちづくりをしてほしい。医療にしても、所得制限をしたりして不公平だと思う。皆同じように子育てしているのだから平等にしてほしい。同じように税金をきちんと納めているのだから考えてほしい	30歳代	女	末武
29	産婦人科の設置希望。子どもが安全に遊べる公園を増やしてほしい。歩道(通学路)の整備をしてほしい	30歳代	女	末武
30	市県民税は支払いをきちんとしているがアパートの為自治会もなく下松市の情報は全くわからない。ゴミも市の収集ではないのでとても大変。老後今の家賃は払えそうにない。県営や市営に入居できる条件は厳しいものだろう。少ない年金で生きていくのは大変。せめて住まいが確保できるとうれしい	60歳代	男	末武
31	小学校3年生まで医療費無料にいただいたのはとても助かりました。学校へ行きだすと歯科や眼科など意外と多くかかります。毎年冬のインフルエンザ時期には結構家計を圧迫していたので助かります。ありがとうございます。(個人的意見ですみません)	30歳代	女	末武
32	小学校児童の家を利用しています。あずかっていただけなのは6時までとなっていますが7時までの延長をお願いします。追加料金は払います。保育園から小学生になる際、仕事を辞めざるを得なかった人、正社員からアルバイトなどに切り替えられた人はとても多いです。公務員でしたら配慮があるようですが、一般の市民は難しいです。よろしくをお願いします	40歳代	女	末武
33	少子高齢化を防ぐべく対策をもっと積極的に進めてもらいたい	70歳代	男	久保・東陽
34	福祉医療について。我が家は所得が高い為、今年の3月で「福」が使用できません。しかし娘は喘息で毎日薬を飲んで吸入しないといけません。気圧の変化で体調も崩しやすく入院して酸素も必要になることもあります。毎月出費もかなりあるのでできれば小学校まで「福」を使えるよう考えていただきたいです。ご検討よろしくをお願いします	30歳代	女	下松
35	保育園の受け入れ人増の増加、児童の家の定員増加、小児科の増加、私立も含め高校をもう少し市内に、駅近くに設立してほしい	30歳代	男	末武
36	保育園や放課後児童クラブを充実させ、仕事と子育てが両立できる下松市を作してほしい	60歳代	男	末武
37	老人が集い合い、会話が出来る場所を。たくさん集まると生きがいもあるのではないかと思います。一日中ひとり家で閉じこもっていてもさびしいだけではないでしょうか。隣同士が声を掛け合うと言っているのは、あまりできていないように思います。民生委員さんで何をやるのかな	60歳代	女	下松

	と時々思います。話づらい民生委員さんではあまり役に立たないのではと思います			
38	わたしが30数年前下松で出産した時は市内で出産できる産婦人科がたくさんありましたが、現在妊婦さんのほとんどが光市で出産していると聞きました。人口が少しづつ増えて住みやすさでは上位の下松市ですが、やはり下松で出産できる病院があればと思います。数年ぶりに東京から下松へ転居して来ましたが、緑も多く自然豊かな上に道路整備も進んでおり、さすがわが下松とうれしくなりました。今後増々住みやすくなるよう役所の方々に期待しております	50歳代	女	下松

②生活環境（環境保全、環境衛生、安全安心など）に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
39	○災害時の要支援者の把握と支援体制の確立が必須である ○高齢者、障害者の為の外出(通院、買い物、イベント)支援、交通手段の拡充を要す	70歳代	男	下松
40	○美しい街づくりのためには大きな看板は避ける。看板の大きさを厳しく定める(ごく小さいものにする)。災害の防止にもなる(邪魔な視線を避ける) 電柱をなくす。地下に埋める。地震、災害の多くなった現在、災害を防ぐ	70歳代	女	下松
41	○土砂災害が起きそうな場所がたくさんある。優先順位を決めて補強してほしい ○道路整備——久保～先へ抜ける道。下松市内→光のゴルフ場へ抜ける道づくり	50歳代	男	久保・東陽
42	切戸川流域に住んでいますが大雨が降ると河川の氾濫が心配です。川底を掘るとか護岸工事の推進を希望します	50歳代	男	下松
43	下松市も空き家が多くなっています。このことは、地区の問題になります。安全面とか考えて家を崩した場合は土地だけでも市が市有地にするべきです。池も市が物納(親の遺言)でとっているのです	60歳代	男	末武
44	高齢社会に向けて火葬場の整備が必要。町の中がお年寄りに安全であるように配慮してほしい。道路の段差、溝は危険。車椅子、押し車では危ない。転倒する	50歳代	女	末武
45	人口増により環境が変わりすぎ、田んぼも少なくなって自然味がなくなった。若い人が増えてモラルの低下が不安、ゴミだしなど自治会によっては大変らしい。心の豊かさに欠ける。公共交通の充実、バスをもっと活用できるようなシステムにして車を使わなくてもいいくらいの移動手段を考えてほしい	40歳代	女	花岡・生野屋
46	ダム(温見)の耐震確認必要(老朽化が進んでいる)人工、自然利用の両面を点検する必要あり(詳しく)※苦情の声が上がっていると聞く!	40歳代	男	花岡・生野屋
47	わたしの現在の住まいの周りにも、高齢者の方がたくさんいて、新しい家が建設され、若い方も増えているが、高齢の方が亡くなり、古い家が空き家となりそのままという状態のところもあり危ないのではないかな(災害時)と思うことがあります。花岡の道は細い所も多いですし、ガタガタしています。昔ながらの街並みも残して、より安全に住みやすいようにならないものかな・・・とったりします	30歳代	女	花岡・生野屋
48	山口県下では下松市は住みやすいと評価されている。また、最近災害等発生しているのでこれに対する具体的取組、インフラ、避難場所の掲示、また、産業では大きな目玉となるもの、場所等問題があるが、また、青年育成と治安強化、夏の暴走族対策、騒音等の対策、商業的には発達しているが他市より導入される為交通渋滞等の緩和など	50歳代	男	末武
49	下松には3市合同で設立された斎場があるが、建物が老朽化し不便な部分も多い。県内他市にはもっときれいで使いやすい斎場はたくさんある。もっと気持ちよく利用できる施設してほしい。また人口増加や、市街地の拡大に伴い治安の乱れが目につきました。もっと学校教育等に力を入れて子供たちにとって住みよいまちになると良いと思う	30歳代	男	末武
50	人口増加は良いことではあるが、市外、県外から転入する人が多くなる事で、治安、マナー等が悪くなってきているように思う。学校教育や、治安にも力をいれていくべきだと思う	30歳代	女	末武
51	下松市も長寿社会の仲間入りすると思われしますので、高齢化対策や災害時の避難場所への高齢者の誘導など日ごろからの教育等、各自自治会単位で行うよう指導するよう行政機関の実働をお願いしたい	70歳代	男	花岡・生野屋
52	花岡、東陽周辺で農地を埋めて産廃に近いゴミ(型枠のベニヤ)の焼却が見受けられる地域がある。調整区域などに入り、作業小屋を作ることに問題はないのか? 苦情などの場合、市は適切な処置を行っているのか?	50歳代	男	久保・東陽
53	○家庭ごみの収集や、自治会清掃時のごみなどはちゃんとしていただいています ○下水道の普及が遅れており、浄化槽にしています。田んぼが新しい家に代わっており、下水道整備は急がれます	60歳代	女	花岡・生野屋
54	○下松市は夜間の電灯が他地域に比べ暗くて夜道を歩くのが怖いのでもう少し電灯を増やすなど明るくしてほしい ○自治会の勢いが強いので、アパートの下にゴミステーションがあるにも拘らず自治会が決めたゴミステーションに捨てなければならないのが不便 ○JRがすぐ	30歳代	女	末武

	そばを走っているのに本数が少ないのと新幹線の乗り継ぎが不便			
55	○広島のと砂災害のようになる場所はいくつもあると思う。危険だとわかっているが対策はどうなっているのか。お金がないから何も対策ができないのでは？ ○避難場所は本当に適正な場所にあるのか？例：川が氾濫したとき、浸かる場所に避難所があるのでは意味がない	30 歳代	女	米川
56	空き家対策	50 歳代	女	末武
57	空家の防災対策を考えることが必要と思われる	70 歳代	男	下松
58	大型ごみについて：家具等、分解に困るものは一定の料金で回収してほしい	60 歳代	女	花岡・生野屋
59	街灯のない道があり、自転車や徒歩での通行が不安です。通学路でもあるので街灯を設置し、安全に通行できるようにしてほしいです	40 歳代	女	末武
60	近隣では独居や空き家が多く、高齢になり自治会活動参加も次第にできなくなる住人が多く、将来のことがとても不安です	50 歳代	女	下松
61	下松市は概ね計画的な都市づくりをされていると思います。(道路整備など) 今後は高齢化社会になることは考えられますので、市民の住みやすい、安心、安全な町づくりを目指していただきたいと思います。全国で災害が相次いで起こっています。下松市も例外ではないと思われます。災害時の緊急な連絡方法は今どうなっているのか？市民のひとりとして知りたいと改めてもうこの頃です	40 歳代	男	花岡・生野屋
62	現在末武地区に住んでいます。災害時の避難場所が末武公民館になっていますが、川が近いので水害の際は不安です。他の場所はないでしょうか？	30 歳代	女	末武
63	豪雨対策：切戸川、平田川、末武川の早急な河川改修(災害対策)、本格的な護岸工事が必要	60 歳代	男	下松
64	この度の広島県の災害は近いということもあり、身近に感じました。自分の住んでいるところが災害の危険地域であればそのことがみんな理解できて居住していれば、防災意識も高まると思います。危険区域であればその地域を対象とした防災教室等、自治会を通して開いていただくとうれしいです	70 歳代	男	花岡・生野屋
65	ゴミ収集日が祝日に当たる場合、できるだけ収集してほしい	50 歳代	女	久保・東陽
66	ゴミの収集分別が厳しすぎる。ある程度間違えても、残さず収集してほしい。市のほうで持ち帰り分別してほしい	50 歳代	男	末武
67	災害時に対する災害防止対策も重要であるが、防ぎようのない事例もあると思います。そうした災害が発生した場合の対応、体制を見直し、迅速な対応ができる教育や施設を考えていくことも前述より重要になることもあると思います	30 歳代	男	末武
68	昨今の豪雨等、自然災害に対する対策の急務	40 歳代	男	花岡・生野屋
69	市が管理している住宅の法面の整備を定期的にしてほしい。草が生えてムカデなどが大量に発生する	60 歳代	男	久保・東陽
70	自然災害が多発している最近、災害防止の町づくりから始めてほしいものです	70 歳代	男	末武
71	小中学校、保育園、児童館など、子供たちが日常的に生活する場所の耐震化、風水害対策など安全に過ごせる街づくりを	30 歳代	男	花岡・生野屋
72	住み良い町上位の内訳として駐車場が他市に比べ良いことがあると思うが、反面、最近交通マナー、ゴミ捨て等の美化レベルが低下している感じがします。取締強化もですが、市の行政運動としても重点施策に取り入れ、誇れる町下松にしたいものです	70 歳代	男	花岡・生野屋
73	先日、知人と津波が来た時には、旗岡に逃げるが集会所には入りきらないよねと話していたところです。確率的には他地域より低いと思いますが、万一の時はどうなんだろうと考えてしまいました	40 歳代	女	下松
74	潮音町に住んでいます。海拔ゼロメートルといっても良いかと思えます。津波の時どこに避難すればいいのでしょうか。末武公民館等低すぎるのではありませんか。モールなどは全員収容可能でしょうか。高齢者がいます。車での移動は実際可能ですか。交通マヒにどう対処する計画ですか	60 歳代	女	末武
75	突然の災害でライフラインが寸断された時の避難先の充実度が足りないように感じます。たぶん人があふれかえって收拾がつかなくなる、そんな気がします。指定学校以外の施設を確保し地域住民に事前に告知してくださることを希望します	20 歳代	女	花岡・生野屋
76	猫の被害が酷い。えさを与えて増え過ぎで、田、畑、住宅に糞尿の被害で困っている。捕獲して処分してほしい。広報にも何度も出してほしい。猫に餌を与えない。(糞尿の被害で困っている人が多数いる)	50 歳代	男	末武
77	野焼きも多く煙がすごい。何とかしてほしい	70 歳代	女	花岡・生野屋
78	野良犬の徘徊を何とかしてほしい	30 歳代	女	末武

79	花岡公民館区に住んでいます。災害が発生した場合の避難先は花岡公民館となっており、住民の数と公民館の広さ(許容人数)のギャップがあり過ぎだと思います。何人受け入れられるのか、いつも不安に思っています。周南記念病院のそば、地域交流センターや花陵高校、その他もっと人数に合わせて避難先を考えてみてほしいと思います	70 歳代	男	花岡・生野屋
80	花岡の町中の電柱撤去を願う。車の通行に邪魔で危険である。10 年前にも提言したが、今日に至る	60 歳代	男	花岡・生野屋
81	平田川の堤防(R188 へ向かう方)が低いのが気になります	40 歳代	女	末武

③都市建設（土地利用、都市基盤整備、居住環境など）に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
82	○公園が市街地に少なすぎる。美里町に住んでいるが車を使わないと子供を遊ばせるようなところに行けないし、遠い ○ハザードマップ等は手元に保管しているが、どういう災害の時、どういう経路でどこに避難すべきか地区ごとにまとめてほしい(いくつか候補があることが望ましい)	-	-	-
83	下松は住みやすい町だと思う。が、町の中心部だけでなく笠戸、米川、久保地区など高齢者が安心して暮らせ、かつ若い人たちが定住できるように交通整備の充実をお願いしたい。国道までではなく団地の中までマイクロバスが入って高齢者の為の買い物、通院、役所等への足を充実してもらいたい。下水道の早期整備をしてほしい。災害時、近くに(歩いていける場所)避難場所がないため不安。安心、安全な建物の確保をお願いしたい	50 歳代	女	久保・東陽
84	車がないと何もできない現状を変えてほしい。確かに市民はほとんど車を持っているが、バスや電車(特にバス)が不便すぎる。高齢者の運転は危険。それと同時に自転車の交通ルールの向上も求める。高校生など、右側走行や並行運転を平気でしている。交通事故増加にもつながるので、交通ルールを広める活動をすすめてほしい	20 歳代	女	花岡・生野屋
85	住宅が増え子供のかかわりが増えるのはうれしいが、道路が狭く車が通ることが多いので、安全面において不安。子どもが安心して安全に遊べる場所がもっとあれば良いと思う	30 歳代	女	花岡・生野屋
86	田んぼをつぶしては次から次へと家が建てるのが、入り組んだ道やら細い道が多い。今後は子ども、老人にとって安全な町を目指してもらいたい。(隣の久米地区の街並みと比べるとよくわかると思う)また下松は河川が小さいのが何本もあり、現在のゲリラ豪雨が非常に増えている状況を考えてと早急に整備をお願いしたい	70 歳代	男	末武
87	○コンパクトな町づくり ○「しごと」のある町 ○教育になる「人材」の育成	30 歳代	男	花岡・生野屋
88	結婚しても下松市に住み続けたかったが家賃が高い為光市にアパートを借りることになった。所得が低い為、家賃補助などがあればありがたい。また市、県営アパートを増やしてほしい。下松市の観光地(笠戸島等)へ行く時、看板・標識が少ないと思う。山陽道徳山東インター一本線には下松と書いてあるが、出口(2号線)の標識には下松の文字(方向)が書かれていない。最近では新幹線製造のまちとしてテレビで紹介されていたので、鉄道資料館を建設して集客したいと思う	30 歳代	男	下松
89	私は今回このアンケートに答えている間、改めて下松市について考えてみました。総合的に住みやすい街だと感じています。現在、下松市は人口微増傾向にあり、宅地造成もいろんな所でやっていますが、住宅が建ち並んだ時、無味乾燥とした風景になる事が予想されます。そうならない為にも、緑の植樹は大事だと思います。あと、中小企業を支援し、地場産業を強化し、“Made in 下松”と言えるものを作ってほしいと思います。下松市に住む人が他所に自慢でき、誇りが持てる街にしてほしい。ただ他所から企業を誘致し消費を促すまちづくりではなく、下松市からつくっていくようにしてほしいと思います。あと、コンビニが多くなったので、もういらないと思います。どうせなら、子供たちが遊べる公園でもつくってやってください	30 歳代	男	末武
90	市街地の開発に伴い、人の流れが変化している。旧赤線と呼ばれる道も今では住民が通る道でなくてはならない。赤線だから市は知らないではなく、実態に沿った対応をすべきではないか	70 歳代	男	下松
91	「コミュニティバスの運営」:下松市は商業施設や公共施設、医療機関が充実しているため、市内だけを周る公共交通機関があるべきだと思う。既存のバス停や駅まで距離があるため市民の交通手段は車がほとんどだと思われる。高齢化が進むことや過疎が進む笠戸や米川の住みやすさにつながると思う。○大型バスでなく住宅地が周れる中型自動車であること ○安いこと(間1e地区内 100 円) ○バス停がたくさんあり路線がわかりやすいこと ○利用者は高齢者、子供連れ、子供など車の運転ができない状況の人たち ○利益を目的とせずコミュニケーションを増やす目的として考えること	20 歳代	女	末武
92	○JR岩徳線の生野屋駅の踏切の幅を広げ、車の国道 2 号線へのはみ出しを少なくする ○岩徳線生野屋駅から西側の市道の歩道部分を早急に拡張してほしい。歩行者の安全の為	70 歳代	男	花岡・生野屋

93	○下松市は緑のいっぱいある市ですので新しい道路が出来たからと言ってすぐに木を植える必要はないと思います。管理が大変だと思います ○公園の整備	70 歳代	女	下松
94	○今後高齢者の増加に伴い、足腰が痛く買い物に行くのもつらい、病院に行くのもつらい、光市のようにぐるりんバスをお願いできたらありがたいなと思います ○駅周辺にコインパーキングがあると車が置けるので助かると思います	70 歳代	女	下松
95	○商業都市としての下松は成功しているのですが、これを活かした中規模の住宅団地の開発を望む。その為には幼稚園、保育園の増加、公園等の開発充実、道路の整備等、住みやすい下松をつくる ○他市に比べ下水道、上水(圧が低い)等インフラ未整備が多い。無駄な箱物に金をかけるよりインフラ整備を望む	60 歳代	男	花岡・生野屋
96	○駐車場を多くつくってほしい ○バス停にベンチを置いてほしい	20 歳代	男	下松
97	○登山道の整備が行き届いておらず、道が悪く木や草が茂り、危険な場所が多いので早急に整備してほしい ○自転車ブームに伴い、自転車道の整備を進めてみては？ ○笠戸島の観光を充実するには、島を外周できるような道路が必要と思う	30 歳代	女	下松
98	○豊井地区の下水道、道路整備 ○豊井区画整理の着工	60 歳代	女	下松
99	新しい宅地造成でなく空家等の積極的利用で人口増加、住宅確保、自然保護、無理な宅地造成をしないよう、自然豊かな町づくりしてほしい	70 歳代	男	末武
100	あらゆる箇所の雑草が気になる。空地や道路周辺などきれいな町作り、ゴミのない下松市になってほしい	80 歳代	女	末武
101	いま工事中の切山線の道路の件ですが、幅が広がるようですが、広くなったら車もスピードを出すでしょうし、大丈夫かなあと心配しています	60 歳代	女	久保・東陽
102	今の日本は各分野で世界から見ても上位にあると思うので、下松市も今まで通り借金を多くしないで少しづつ各分野の充実をして行けばよいと考える。例として、下水道の充実、道路の整備等	60 歳代	男	末武
103	外国の人が日本の野菜や畜産物を求め出しているの、雑種地の活用法を具体的にするための組織の立ち上げをしたらいいのではないのでしょうか	60 歳代	女	末武
104	各市の集会場の駐車場、短時間車を止めさせてもらいたい	70 歳代	男	久保・東陽
105	数少ない公園の整備に力を入れてほしいです。大きな公園だけに力を注ぐのではなく小さな公園もちゃんと整備してほしいです。わたしの家の近くの公園はフェンスがボロボロで、市に連絡しても予算が出せない公園だと言われたことがありました。近所の方々がボランティアで修理して来ましたが限界です。小さな公園なので、小さい子供がよく親子で来られますがフェンスだけがをされることも見かけております。10年以上前にわたしの子供もフェンスで大きなけがをしました。市役所へ連絡しましたがその時も対応は最悪なものでした。再び大きなけがにつながる前にどうにかしてほしいです。電話しても他人ごとのような対応をされ、嫌な思いをするのが嫌でその後連絡はしていません。ここに意見したとしても対応してくれるとも期待はしていません。現状を知ってもらいたいです	50 歳代	男	末武
106	岩徳線の沿線地域での活性化を図る	60 歳代	男	花岡・生野屋
107	下松駅から東側、恋ヶ浜に向けての開発、光方面に向けての開発も必要と思う。周南市方面、県中央部にばかり目を向けず東部に目を向ける必要があるのではないかと。開発のバランスが必要だと思う。高齢化、過疎化の進む地域の定住化政策が必要と思う。高齢化、過疎化地域の交通網など利便性を向上させ、人口増を図ってほしい	50 歳代	男	下松
108	下松駅周辺、末武大通り線においては「シンボルライン」としてまだ寂しい感じがするので今後の開発計画に期待します。朝夕の通勤時における渋滞場所が顕著なところもあるようなので緩和対策等、検討願います	30 歳代	男	笠戸島
109	下松駅周辺に駐車場がなく、とても不便。駅周辺の活性化を望む	70 歳代	女	末武
110	下松市の大プロジェクトとして、周南市とタイアップしJR下松駅を起点に笠戸島→古島→東風石(大島)→JR榑ヶ浜駅→下松駅の環状道路および大橋等を新設し、笠戸島の過疎化を防止し新規にまちづくりの基盤とする	80 歳代	男	下松
111	下松市の道路整備、店舗の増加など活気はある反面、週末は平日と比べ交通量が増え渋滞と事故が心配である。実際近所を歩いても信号無視、法定速度をかなり超えている車が増えた。高齢者、子供は危険が増えたと思う。安全対策してほしい	40 歳代	女	末武
112	下松市は県下No.1の健全財政と言われてますが、インフラの施策とかは周南市、光市等と比べ良いと判断、劣ると思いますか？	70 歳代	男	花岡・生野屋
113	下松市は大小の農業の用水路が非常に多いので、これにふたをしていただくと、高齢者にとってはありがたいのですが	70 歳代	男	末武
114	下松市は山口県内でも魅力の多い場所であると感じています。他市町住民からそう言われることも良くあります。買い物にも便利です、不満を感じることは特にありません。これ以上を	40 歳代	女	下松

	望むとしたら今流行の道の駅を笠戸島に(道路の拡張等考慮するとしたら、あまり中に入り込まない場所)につくるとかどうでしょうか。しかし、自然は残して子供たちが楽しい暮らしを送れるよう守ってほしいと考えます。公園にはあまり見栄えのいい遊具は置かず明るい雰囲気求めます			
115	下松市役所の駐車場をひろげてほしい。中央線側の駐車場が満車だった場合、一旦出て消防署側の駐車場に移動しなければならない。時報のサイレンは鳴らすとところと鳴らさないところがあるようだ	50 歳代	女	花岡・生野屋
116	下松は歩道のバリアフリーの整備が遅れていると聞くが、車にとって流れも良い道路が多く助かる。近隣市町に比べても住みやすい	60 歳代	男	花岡・生野屋
117	車を運転していると自転車歩道から車道へ急に出てきて危ないと感じることがよくあります。自転車の運転マナー向上や、自転車用のレーンをつくるなどしていただけるとありがたいです	40 歳代	女	末武
118	車を運転できると便利で住み良いが、運転できないと不便この上ない町だと思っている。バスはなかなか来ないし、駅は遠い。店と店が離れていて歩くのは大変。免許証返納は死ぬまで考えられない	70 歳代	男	末武
119	下水道を米川の赤谷地区にも整備してほしいです	50 歳代	男	米川
120	高齢者のために公共交通機関の利便性を向上してほしい	30 歳代	女	下松
121	護岸工事が盛んに行われているが美観を損ねる工事が多い。もっと自然を残したままにできる工事が最近はあるはず。道路が暗すぎる	40 歳代	男	末武
122	国立公園になっているにも関わらず道路の草や木が大きくなり環境がすごく悪くなっている	70 歳代	女	-
123	子どもたちの遊ぶ公園が少なく、他市と比べ設備も良くないと思えます。恋路の公園でも小さいように思えます。米川とか笠戸に温泉施設の近くに大きな子供の公園があればうれしいです	50 歳代	女	末武
124	子供の頃、家の周りは雨が降っても水があふれることはなかったが、田んぼを潰して家(マンション)が建つようになり少しの水でも家の周りが海になりやすくなったと感じる。稲作を行う人がいないため土地の有効活用のために家等を建てるのは仕方がないが、人口が増加すればコミュニティ、環境等で必ず問題が生じてくる。個人的に人口が増え続けることは好ましく思っていない。田舎は田舎のままであってほしいという願いはある。既存の土地や建物の有効活用、農林業、水産業の活性化が持続的な下松市のまちづくりにつながると思う	30 歳代	男	末武
125	子どもを育てる環境を整えながらまちづくりをしてほしい。子どもを遊ばせる場所を整えてほしいです	20 歳代	女	花岡・生野屋
126	今後高齢化が高まるので、閉じこもり老人を増やさない為にも公共交通機関網の整備が必要となる。現在の防長バスの大型バスでなく、普通免許のマイクロバス網を検討してもらいたい	70 歳代	女	下松
127	今後のインフラ整備に期待します。また少子化対策に力を入れてほしいです	40 歳代	女	花岡・生野屋
128	坂本川沿いの道の拡張。さざん亭交差点の歩道橋の設置、もしくは横断歩道の設置。街灯の増設。溝にふたの設置などの安全対策	30 歳代	男	末武
129	山陽道の下松サービスエリア内にETCの出入口をつくってほしい。道路をつくることによって山田地区の活性化をしていく	60 歳代	男	久保・東陽
130	サンリブ北側の道路が土日は混みます	30 歳代	女	花岡・生野屋
131	市営住宅をたくさん作って安く住ませてほしい	30 歳代	男	末武
132	市街地は景観と防災の観点より電線類の地下埋設が必要である	50 歳代	男	末武
133	市街地に全ての行政機能、人口集約を図ることは行政運営上は大きなメリットがある。反面防災上はデメリットが多く問題がある。市全体で分散して発展させることでそれぞれの地区が活性化すると思う	60 歳代	女	久保・東陽
134	市周辺部(花岡、山田、久保、来巻など)にも町づくりの施設を配置する。災害時の避難施設など	70 歳代	女	久保・東陽
135	自然豊かな下松が大好きです。これからも、この自然を守りながら商業産業も営んでもらいたいです。下松駅を利用したいのですが、無料駐車場などあればもっと利用する人たちが増えるのではと思います	50 歳代	女	久保・東陽
136	市中心部の整備と山間部の整備のバランスを考慮してほしい。特に米川線の県道で道谷の二車線化は急務と考えます。県に働きかけて早急に整備されるよう要望します	70 歳代	女	米川
137	市の計画緑化係ではどう考えておられるのか知りませんが、下松中学校から下松中央病院の通りの街路樹は伐採しないでください。落葉の掃除も大変かと思いますが夏場の木陰は日差しを遮り散歩時にホッといたします。よろしくお願いたします	70 歳代	女	下松
138	市はJAと協力して現在の休耕田を宅地、道路以外の使用方法を教えてください	70 歳代	男	末武
139	充実した公園があればいいなと思います	30 歳代	女	末武

140	主道路のまわりの樹木に蔓がおおいかぶさり、本来の木々がかわいそう。周りの会社などで整備した方が良くと思います	70 歳代	女	花岡・生野屋
141	主要な道路は二車線だったり広かったりと整備されているが、1 本入ると車 1 台がギリギリ通れるくらい狭い道が多すぎる。さらに落ちると危ないような用水路も多く車のタイヤが落ちて困っている人をよく見るし、子供が落ちると大変危険。ふたをするなどの対策が必要だと感じる場所が非常に多い	30 歳代	女	末武
142	商業施設ばかりできて子供たちが思い切り外で遊ぶところがない。自由にボール遊びができる場所(誰でも)がない。学校のグラウンド等は自由に使えない	50 歳代	男	末武
143	植物を植えても、それが交通の妨げ、防犯の妨げになっているところがあります(サンリブの交差点、地下道に入るところ)整備できなければ、植えない方が良くと思います。危険です	50 歳代	女	花岡・生野屋
144	市立図書館(ほしらんど)の駐車スペースを立体化する等、拡張していただきたい	50 歳代	男	末武
145	シンボリックな街並みづくり	70 歳代	男	末武
146	水路に子どもが落ちそうで危ない場所がたくさんある。住宅街をつくる際(田んぼの埋め立て地等)は安全に歩行、運転できる道路の整備してほしい。公園が少なく遊ぶ場所がない。整備してほしい	30 歳代	女	末武
147	西友の西側の道路、西市の踏切まで新しい道路ができました。結果は道路があまりにも低すぎます。大雨が降った時は雨水がザアザア流れています。方法はなかったのでしょうか。道路新設の時は一考が必要です。ニトリの玄関口にも雨が降った時道路に水があふれています。水路に所々ふたがない所があり車が落ちています。柵を設けるなどしてください	60 歳代	女	末武
148	全国で災害情報があります。我々の住んでいる下松も河川を見ますと、陸のように草が生えています。河川の改修が必要かと思えます	70 歳代	女	花岡・生野屋
149	大規模開発を 100 年単位で計画推進する。建築物は 200 年は使用できるものにする。下松高校裏の河内断層に住む人々には移転をすすめる。新規の定住建築物は認めない。海拔の低い所に住む人々にも移転をすすめる。社会に必要な基本建築物は地の利を考え、何事によっても破壊されることなく機能できる頑丈なものとする。人々の流れは常に変遷しますが社会基盤は次世代にも受け継がれます。目先の計画ばかりを企画するのもしつありませんが、100 年単位で考える企画も必要と思えます	60 歳代	男	久保・東陽
150	中央線から半上通り周辺はバスが通らないので駅まで行くのに大変でマイクロバスのような小さなもので、1 日に何便でも通るとうれしいのですが、無理でしょうか。出来れば年寄りが多い地域なので助かるのですが、考えていただければ幸いです	70 歳代	女	下松
151	道路沿いの草を刈ってほしい。これからは空き家が増えるので、その活用法を考えてほしい	40 歳代	女	下松
152	徳山駅の改築のように、駅はその街の「顔」だと思います。小さくてもきれいでおしゃれだと印象に残ったり、また来たい、住みたいと思ったりします。下松駅を最近利用することが多いので、下松駅も改築したらいいのになあと日々感じます	40 歳代	女	花岡・生野屋
153	とても住みやすい町だと満足しています。子どもが遊ぶ公園(恋路)、プール、体育館。笠戸には海や温泉。米川地区には野外ステージなど。商業施設やマンションも増えて活気のある町だと思います。高齢者から聞いた話です。歩道に木が植えてあります。(下松工業、公集小の通り)とてもいいと思いますが、実際に自転車などで通ると、すれ違う時など危険が多いこと。木の間から人が出てくるとか、枝葉で信号が見えない(天露、果子乃季の通り)など、街並みより安全重視で。また 30 代、40 代の若い意見も大切ですが、10 代、50~80 代の意見が必要な場合も多くあります	50 歳代	女	末武
154	バス等の公共交通機関の充実(コミュニティバス等)を行ってほしいです。現在の防長バスの本数では少なすぎて使えるレベルのものではありません。市営バスや市がタクシー会社等に委託する等してコミュニティバスや乗り合いタクシー等の充実をお願いします	40 歳代	男	花岡・生野屋
155	旗岡の街路樹伐採は良。道に面した歩道の街路樹はすべて無くした方が良く。車でコンビニなどから県道に合流する際、見えないところがあちこち有、危険。昭和通から 188 号光側に合流する所にも木が植えてあるが、徳山側から来る車が見えにくく、何のために植えてあるのか利用価値不明である。景観を重視という意味合いがあるのであれば、その木の周りに山のようにある雑草を排除することからやってほしい。星らんどの前バス停の屋根がなくなったが、不満をよく耳にする。お年寄りが、バスを待つ際、困っているようである。再検討してほしい	40 歳代	男	久保・東陽
156	花岡地区は特に西側は公園が少ない。JR の高架下を利用できないか	60 歳代	男	花岡・生野屋
157	平田東地区周辺は公園がなく、あっても小さな広場でボール遊び禁止で子供が元気に遊んでいない	30 歳代	女	末武
158	広い緑地があれば良いと思うが。かつ交通の便が良いことが条件であるが	80 歳代	女	下松
159	歩道のとても狭いところ(花岡、藤光線)を何とかしてほしい	70 歳代	女	花岡・生野屋

160	モールに集客が集中しすぎている気がするので、そこ以外の場所でも消費を活性化させる仕組みを作った方が良く思う	20 歳代	男	末武
161	用水路が多く、交差できないほど道幅が狭い道路が多く危ない。災害時危険を回避できるように迂回路を作るなり道路の整備をしてほしい。悪路の周辺には住宅を建てない方がいいと思います。建て替え時には最大限市民の声を聞き、希望通りにすべき(公共物)	50 歳代	女	花岡・生野屋
162	老人のための交通手段がもっと便利になると良いと思います	70 歳代	女	末武

④産業経済（農林水産業、商工業、観光振興など）に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
163	下松駅から東の豊井地区での医療、商業施設が少なすぎるので対応してほしい。早急な区画整理事業で道路等の整備が望ましいと思う。特に豊井地区での朝夕の交通量が異常に多く道路幅等の拡張にも早く目を付けていただきたい。下松市は「シンボルライン」だけではない。隅から隅まで下松市です	50 歳代	女	下松
164	○商業施設の誘致に関してはよそにあるようなありきたりな物ではなく、大都市にしかないような企業を誘致してほしい ○「大城」の建て替えは致し方ないが、最近の「大城」の宴会料理はほんとうにひどい。同料金を出せば市内の居酒屋等ではもっと良い物が食べられる。建て替え後はそういう部分の改善を強く望む ○様々な人がいるのは仕方がないが、小さな都会なのでせめて良識ある人がたくさんいる町だと良いと思う。行政としてモラルを取り返す教育などをしてもらいたい。そして本当の意味での住みよい町づくりをして行ってほしいと願う	30 歳代	男	末武
165	○笠戸島海上ライブミュージックコンサート ○猪肉を商品化して小中高校の部活支援にする制度をつくる ○市内の通学路の街路樹を果物の木に植え替える ○笠戸島にミニ動物園をつくる ○笠戸島の林道を整備して自分の足で山越えし、魚釣りに行けるよう整備してほしい ○笠戸島魚つき保安林以外の地にミカン、ユズ、レモン等植樹する ○米泉湖屋外ステージを照明設備を設置して欲しい ○第2公共ふ頭の中央分離帯の整備 ○川の生き物観察会。海辺の生き物観察会。頻繁にしてほしい ○大谷川、切戸川、竹屋川、平田川にニホンウナギの生息場所、いわゆる川魚の魚礁をつくる	60 歳代	男	末武
166	○商業施設を集めているようですが、安売りの店が競争し合い、良い面も多いですが、どこにもあるような風景が目立っている。店のつぶし合いにならないような店づくりを希望する。人とのふれあいのある店が減った ○下松らしさを出すための落ち着いた色合いの看板(景色などを描いた絵)を各名所近くに配置し、市としての統一感を出してほしい ○川沿いの遊歩道や自転車専用道路など考えてはどうか ○市役所の職員や公務員が一番恵まれているような？納税している一般労働者や若者が希望を持つことができるような働き場所を期待する ○市内に緑が少ないので夏は大変である。何か工夫できないものでしょうか ○車を持たない人への配慮。ゴミ出しボランティアの育成など	50 歳代	女	花岡・生野屋
167	○超高齢化社会が目前に来るための対応 ○若者が地元に着定するための魅力ある要素の充実 ○地元中小企業の活性化	60 歳代	女	久保・東陽
168	○何か全国でもやったことのないことに挑戦して成功してほしい ○大きいイベントが開催できれば知名度が上がる ○これからの下松の発展に期待しています。がんばってください	30 歳代	男	下松
169	①市内企業に就職、定年し在住 50 年になります。最近は大店、道路整備で住みやすさを実感し市政の皆様のご努力に敬意を表したいと思います。②下松市民として連帯を深め郷土愛を育む為、次のような施策も考えられますが・・・(1)小さな「氏名銘板」を笠戸島名など適当な公園に整列掲示する(2)「銘板」掲示者の資格・下松生まれ・5年以上市民税を納めたものとその家族・「ふるさと納税」を5年以上続けたもの(2)市民が公園を訪れて半永久的に残る銘板を見ることにより市民を自覚し「郷土下松」を自覚する。下松出身者、過去在住者の積極的な帰省を促して全国に下松をPRしてもらう。(将来、市出身の偉人、賢人の故郷としての証となる)(3)更に下松市HPにて自分の「銘板写真」を個別に閲覧できるようにする。ふるさと納税が実感できる。HPは世界中からアクセスでき出身者がアイデンティティを自覚できる。下松市HPのアクセス数が増加する効果あり？	70 歳代	男	花岡・生野屋
170	65 歳以上でも働いていけるといいと思います	60 歳代	男	下松
171	意見や提案があるわけではありません。思いつきのようなものです。わたしは下松では町中に住んでいますが、昔は店が多くありましたが今ではほとんどない状態です。歳をとると買い物は難しくなります。近くに行くところがあれば幸せです。スーパーも離れたところにあり、足の悪いものは自分の買い物ができなくなる。個人店が経営できるようになればよいと思います。市政についてはやはり若いものを育てて市政ができたらいよいと思います。人についても工場が以前のようにあれば、ここで働けるが、働くところがなければ下松を離れざるを得ません。そのような現象が起こらないように生産面も考えなくてはいいけないと思います。また実力ある若者を育てることが大切だと思います	80 歳代	女	下松
172	一般的に言われる少子高齢化等の課題には随時取り組んでおられることと思います。その上	40 歳代	男	末武

	で今後に望むことは単に産業を誘致する、商業を活発にするという表面的なまちづくりではなく、他のまちに比べ下松市に住んでいるとこれが安定しているという特色づくりです。最近では気候の影響で野菜が入手しにくいですが、例えば、行政、地域ぐるみで農業に対する安定供給の仕組み(システム、技術)を構築し、とにかくどんな時でも下松は野菜が安く食べられるとか、世の中で広く取り組まれている課題以外に、安定して暮らせるための特徴を長期的に育成することが発展につながるのではないかと考えます			
173	海や山といった環境には恵まれているが、それを活かさきれていない。特に笠戸地区が徐々にすたれていくのが残念。海で遊ぶにも、はなぐり海水浴場しかない。白浜地区を観光資源として再開発し場所限定で磯浜など開放、自然ともしっかりと親しめる観光開発をお願いしたい。それが笠戸地区人口の流出の歯止めになるかもしれない	60 歳代	男	末武
174	駅周辺に市のスーパーをお願いしたいと思います。回転の速い店を、高齢者には徒歩で買い物が出来るように。駅周辺は寂れて人影もなくなただマンションばかりで西に偏っています。高齢者皆さんのお願いです	80 歳代	女	下松
175	多くの人々が一度は下松に行ってみたいと思う市にしたいです。(わたしの住んでいる市にはこれがあるよ、来て見て・・・)例:市長さんが提案され進めている「しだれ桜」を日本一にするか、鉄道の町下松として日本一の鉄道博物館の建設など。市民の声を聞くことはとても良いと思います	70 歳代	男	久保・東陽
176	笠戸島が観光地としても、とてもきれいなので大島を見習って特産物販売やおしゃれなカフェ等をつくれれば人も集まると思う。カフェも素人よりもプロに任せの方が良いと思う。小さな市なので下松市を上品な感じでまとめていければいいと思う	40 歳代	女	下松
177	笠戸島を下松の観光地にしてください。30年前は子どもを連れて良くいきました。久しぶりに行ってみると立ち入り禁止のところが多く残念でした。海のゴミだらけ、魚は食べたくなくなります。せっかくヒラメの養殖で良いと思っていましたが、今は食べたくないという気持ちになります。子どもたちが楽しく遊べて安全な場所にしてほしいです(野良猫、犬も沢山いました。噛まれたら大変ですよ)いろいろと書きましたが、孫が来て下松の観光地で遊ばせたいから・・・。宜しくお願い致します	60 歳代	女	末武
178	観光事業の確立、特に笠戸島の古城、家族村を利用して年間連続的に人の集まる行事を考えるべき。光市の冠山総合公園、室積の魚釣り場等お手本にしては？	70 歳代	男	下松
179	企業及び商業だけでなく、自然環境や林業に少し目を配り、昔のことを少し振りかえって見て生活づくりを少し考えてみたらどうですか	60 歳代	女	花岡・生野屋
180	下松市の観光のシンボルとして笠戸島のリゾート開発を進めるべきではないでしょうか。(イメージとしては下関市の角島)まずは古くなった橋の架け替えを行い、話題性を高めると面白いと思う。成功すれば雇用を大量に生むことになること共に観光客の増加、税収の増加が見込めるのではないのでしょうか	30 歳代	男	末武
181	県外に出ている人が帰って来て、仕事があるようにしてほしいです。老人からの言い分です	80 歳代	男	花岡・生野屋
182	高齢者だけでなく、若者も安心して働き、住み良いまちづくりにしてください	60 歳代	女	末武
183	自然が豊かですが竹林が手入れされていないところが県内でも多くみられ、下松でも竹林を整備して市民が楽しく活用できるような機会が増えると思います。筍の料理や竹炭を作ったり、使う講習会、竹を使った遊具など。未就学児(と、その兄、姉)が屋内で遊べる施設やイベントがあれば助かります。農業公園内に子どもが遊べる場(遊具など)があればうれしいです。トイレももっとちゃんとしたものにしてほしいです	40 歳代	女	下松
184	市内で働く女性が仕事を続けながら子育てができるよう企業等を指導していくことが重要であり、少子化の対策と考える。女性の働き方を考え、安心して子育てができると思えるようにすることが重要	40 歳代	男	花岡・生野屋
185	市の周辺部は高齢化や転居が進み空家も数を増している。その上少子化も追随し人口減に歯止めがきかない状況である。世代間で交流する機会も少なくなり、地域に活力を取り戻す策を講じることが喫緊の課題である。住民の努力で解決できる範囲を超えており、人づくり、まちづくりのプロフェッショナルの力を注ぎこむことが急務であろう。試案として従来の出張所を出先機関の業務に加え地域創生する人づくり、まちづくりを担う専門職員の配置を考えてみてはいかがだろうか	70 歳代	男	久保・東陽
186	商業、農業地区等集約し運営管理	70 歳代	男	花岡・生野屋
187	商業施設が集積している印象があるが、実際には車でちょっとずつ移動しなくてはならず、どこかに大きなショッピングモールができれば、あっという間にすたれてしまうのではないかと思います。全国展開の店舗は苦しくなればすぐ撤退する。土地があるからといって大型店舗をあちこちに入れていくと後で痛い目に合うのではないかと心配になる。徳山にゆめタウンやイオンができれば下松に買い物に来なくなる可能性は大きい。車をどこかにとめたら数ヶ所の商業施設に行けるよう時間を消費できるような仕組みを今から考えておくべきだと思う	40 歳代	女	花岡・生野屋

188	商業都市化して活性化していると思いますが、商業の中核を支える専門職、技術職層が空洞化しているのではないかと危惧します。風紀面も少し前よりは良くなったと思いますが、心の教育面も気になります。若者の地方定着を促進するために保育、介護、看護環境整備等の現場従事者の公的雇用の拡大と待遇の改善(公務員化による地位的、経済的向上と安定化)を図ってほしいと思います	60 歳代	女	久保・東陽
189	商業に頼らないまちづくり。本来の農、林、工	60 歳代	男	下松
190	近い将来、全国的に中小都市は荒廃が進んで行くと思われま。この流れは日本人の思想が変わらない限り止まらな。下松市においては職員と市民が一丸となって魅力あるまちづくりをへこたれずに行い続けるしかないと思います。失敗を恐れず頑張っていきましょう。魅力ある就業先を下松市やその周辺都市に誘致し続けることが重要だと思います	40 歳代	男	久保・東陽
191	不二家やサブウェイなど全国どこにでもある有名店があればいいです	50 歳代	女	下松
192	目玉となる観光スポットがほしい。(例:笠戸島)下松市のPR広告の作成	60 歳代	男	下松
193	若い人たちが集まる場所がないと思います。フードコートがあるショッピングセンター等があると家族連れも集まり、過疎化が減ると思います。イオングループの建物ができて既にある店舗ばかりで、新しいお店を入れたほうがいいと思います。いつも買い物(洋服等)は県外へ行きます。きっと我が子が成長したら県外へ嫁ぐのだろうと思います。一つでも魅力あるショッピングセンターがほしいです。いつも休みの日行くところがなくて困っています	30 歳代	女	花岡・生野屋
194	若い人たちが働ける場所が多くあると良いと思います	70 歳代	女	米川
195	若い人の就労の場を増やしてほしい。また子育ての終わった人も働くところが増えればうれしい。他市に住んでいたことがあるので、下松市はとても住みやすい所だと確信しています。働くところが増えれば、個人の生活に張り合いが出ると思います。子育ては終了したけれど孫守りをしながら働けたら最高！だと思います	50 歳代	女	花岡・生野屋
196	わたしは高齢者の為生きる望みがありません。少しでもできる仕事がほしいです	60 歳代	男	下松

⑤教育文化(学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど)に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
197	○教育に関しては山口弁ではなく標準語で授業をしてほしい。山口弁を標準語と思っている人が多く後々困る。県外にも居ましたが、方言を使つての授業は山口だけです ○通学路の道路整備が遅れており、雨の日など溢れそうな用水路もあり安全確保ができていない。大雨の日に見回りをして確認してください ○学校近くや住宅地内で家のゴミ、草、木を燃やすのをやめるよう決まりをつくってほしい。その煙で喘息をおこしたり呼吸器系の異常があらわれる。大気汚染の原因にもなり、環境問題を考える意味でも配慮すべきではないでしょうか ○細い道の街灯を増やしてほしい。防災対策にもなる	30 歳代	女	末武
198	豊井地区の活性化を切に願います。今のままでは、子供がかわいそうです。下松小に通えるよう自由にしてほしいです。もっと市の方が豊井地区の整備に乗り出してほしいです。よろしくお願ひします	30 歳代	女	下松
199	給食センターの建設は大反対です。調理員さん、栄養士さんたちの活動は子どもたちの食育に直結しています。アレルギー対応もひとりひとり丁寧です。今の対応が給食センターでできるのでしょうか。作った人の顔が見える、頑張つて食べた子供に対してすぐにほめてくれる人のいる心温まる給食は、何にも代えられません。教育にお金をつかってください。その子たちは大きくなって社会をつくりま	50 歳代	女	下松
200	下松で生まれて約 40 年。とても住みやすい町だと思っています。特に生活する上で店や病院が近くにあり安心して暮らせます。子どもが近いうちに中学校へ進学します。末武中学校が今後ますます生徒数増と言うことで何かと心配です。校区の(小学校含め)境界線の変更などはしないのでしょうか。または市内の中学校を選択できるか。久保地区は過疎化しておりできるだけ中学校は規模が同じくらいになると良いですね	40 歳代	女	末武
201	最近マナーの悪い人が目立つ(車の運転やごみのポイ捨て)人口を増加させ、市が発展することは良いことですが、犯罪やマナーの悪い人が多い下松市では恥ずかしい	50 歳代	男	末武
202	市内所々に他の街のように土地の高さ(海拔)の看板を立ててほしい。市内各所に町内マップの看板を増やしてほしい(特に歴史あるもの等をPRしてほしい)	60 歳代	男	花岡・生野屋
203	中学校で不登校児が増えていて聞いています。小学校→中学校へ行くときあまりに厳しくギャップについていけないのだと思います。不登校児はラウンジへ通うことができるが場所が遠く、交通費がかかる。先日、就学援助を訪ねに行つたが、何人も職員が居ても、ちゃんとわかる担当者が不在なのでわからないと言われた。対応悪すぎ。末中も問題多すぎ。対策はどうなんだろう。親が学校へ見回りに行くのもどうかと思う。野犬が増えた。保健所はとらないのだろうか	30 歳代	女	下松

⑥地域経営（協働社会、人権尊重、行財政運営など）に関する意見

	意見内容	年齢	性	地区
204	○固定資産税等の税率が高いため生活が豊かにならない ○納税方法は月単位の方が望ましい。市民の生活力にも目を向けてほしい ○自然エネルギーの開発に今後力を注いでほしい	60 歳代	男	末武
205	「星ふるまち」を標榜するのであれば、それに見合った何らかの施策展開(施設整備等も含め)が必要では！	50 歳代	男	末武
206	○市長の公約で高齢者に 5000 円の支給がありますが、すぐに廃止して子育て支援などに回すようお願いいたします ○市民温水プールの開始時間のお願い。特に夏休みは 9 時開始に要望します ○下松市への転入者は自治会に入会するよう行政の指導をお願いいたします。わたしが関西方面で居住する時、不動産業者が自治会への入会を契約条件に入れていました。ゴミの出し方、1 年に 1 度の皆で大掃除、街灯代、その他諸々。下松はみんなで綺麗に住みよい街にすることを条件に入居してほしいものです。よろしくをお願いいたします	60 歳代	女	下松
207	○年度末には道路の掘り起しが毎年繰り返されている。計画性に疑問と考え方にプラス思考はないのかと思う。無駄遣いの表れだと思う。他で成果をあげても工事を見れば”役所仕事はこんなもの”とあきらめ感が強く、期待しないのが現実。目の前の少子高齢化社会が来たとき、市民への負担増にならないようお願いしたい	60 歳代	女	末武
208	今、県議員の税金の使い道が取りざたされてのをテレビでみると、下松市議員の人達は大丈夫なのかと思う。税金の使途チェックしてほしい。9 万円の年金から、市民税、県民税通知書が届いた(8 万円余)底辺から税金を、まだ請求するのかと悲しくなる	60 歳代	女	下松
209	お年寄りや障害者の方もより住みやすいまちづくりなることを願っています。そのためにはコミュニケーションが取れる公の場を広げてほしいです	30 歳代	女	-
210	過疎地が置き去りにならないよう、むしろ遅れている地域に諸施策が届くことを配慮してほしい。無関心者が多い。何か一つでも市の活動や地域のことについて、せめて意見を出すよう働きかけてほしい	70 歳代	男	久保・東陽
211	行政運営について:定年退職した職員を現職の部長として再雇用するのはいかがか?若い人がやる気がなくなってくる。再雇用はあくまで職員の援助としてサポートしていくべきである。(例)○○部長退職→●●部長に、H26 年 4 月からは△△△長に信任している。どうもおかしい。変だ。市職員の間ではだだだした行動や言動が何えて危機感がない。もっと節度よく、効率よく対応してくれ。若い市長が誕生することを期待する。	60 歳代	男	久保・東陽
212	下松市での行政での天下りの実態を公表してほしい。民間でできることは民間への移行する考え方は良いと思う	70 歳代	男	末武
213	下松市独自の施策を中心に考え、それを基に周南市や光市との連携を強めて行ってください。合併はせずに、周南地区としてのバランスを考えた地域計画を立案、進めていってほしいと思います	40 歳代	男	久保・東陽
214	下松市は全国でも「住みやすい市」として上位にあります。これからもずっと下松に住み続けたいと思っています。住民への様々な情報発信をお願いします。高齢者でも安心して暮らせる町づくりを目指してください	60 歳代	女	下松
215	詳しくわかりませんが、現在の行政運営で良いと思います	70 歳代	男	久保・東陽
216	高齢化社会を迎えるのは間違いのないこと、今の 5 万人程度の人口で成り立つのか。行政設備の建物等の無駄はないのか。私利私欲にならず”百年の計”に立って計画実行していただきたいと希望します	70 歳代	男	下松
217	自治会自身高齢化が進み、現状でやっとな維持している状態。限界だと思われる。自治会を見直すことも必要だと思うが?市のすることではない?大雨で側溝がすぐに溢れるのだが...	50 歳代	女	下松
218	市民ひとりひとり、不公平のない行政の運営をお願いします	50 歳代	女	笠戸島
219	自由時間のある高齢者が増えています。取りまとめてくださる指導者がいればボランティアで街づくりに参加したいと思う人も多いと思います。単発でも面白い企画があれば実験して下さると良いかもしれないと思います。例:どこかの清掃+お茶と簡素な弁当	60 歳代	女	下松
220	人材を広く多く求めるためにも広域合併を進める必要がある。いつまでも島国根性ではだめだと思う。広く大きな街づくりを進めましょう	70 歳代	男	久保・東陽
221	スモールガバメント、スピードコミュニケーション、定義定数を半分	60 歳代	男	花岡・生野屋
222	問 9 のg、「笑い、花、童謡のまちづくり」に以前から期待をしていますが、子育てから離れると、あまりそれ関連の行事などに関わりがなくなっていたので、すべての年齢層にアピールして下松市を笑い声の響く、明るい街にしていけたら...と思います(今、少し暗いイメージです)。やはり、個人、地域、学校、会社や商業施設、すべての連携なくては成り立たないと思うので、市のHPなどで呼びかけ、市民ひとりひとりが意見を述べやすく、それを取り入れて	50 歳代	女	下松

	反映できる環境づくりをお願いします。わたしもわたしのできることから始めようと思います			
223	とても住みやすいけれど、高齢化して隣近所の付き合いがあまりなく、一人で住んでいる所はどういう風になっているのか把握できない現状みたいです	50 歳代	女	花岡・生野屋
224	ひとり世帯、高齢者世帯、弱者世帯を把握するよう努め、地域の住民にもわかってもらって協力体制を充実すること。個人情報云々ばかりではいけないと思う	70 歳代	女	米川
225	まちづくりは行政機関だけが担うべきものではなく、市民と行政が共に知恵と力を出し合い、将来に向行けて持続可能な魅力あるまちにできるよ	70 歳代	男	久保・東陽
226	わたしは毎日健康の為、ウォーキングをしております。市長さんが(あいさつ)をしようと言われてますが、こちらが挨拶しても知らぬ顔。特に若いママ、女生徒はノータッチです。近所との人情が薄れて寂しい社会になったなと最近特に思います	80 歳代	女	下松

⑦職員・市の対応についての意見

	意見内容	年齢	性	地区
227	①市役所職員の行政サービス行動の徹底:以前に比べると、あいさつや対応など格段に向上していますが、職員によって差があります。それを無くしていただきたい ②山林の地籍調査の早期実施:他市に比べあまりにも遅いのでは。これを実施し、市民の権利を守ることで市民の市への信頼も増します。また、市民の目を改めて山林に向け、「ヒノキのまち、下松」の実現にもつながるのでは ③なぜ「童謡のまち」なのか。しっかりした説明を。素晴らしい市になりつつありますから、市民の期待も大きいです。職員一丸となって頑張ってください	50 歳代	男	久保・東陽
228	以前、市役所を訪れた際、職員の方(若い女性)が居眠りをされていました。残念です	40 歳代	女	末武
229	移動市長室や市議の市政報告会など断片的に開催されてきたが、継続性がない。市政広報活動が潮騒の発行で良いとは思えない。定期的な広報、市民参加を前提とした各分野の合同会合体制をつくりあげる必要がある。地域公民館活動とともっと新しい風を期待している	70 歳代	男	末武
230	表の見える所だけをきれいにしても一歩横道へ入れば汚れている。行政は立派を言ってもいざと言うときは型にはまったことしかできない。福祉、子育て等。童謡のまちづくり、一部の人が年何回か集まって発表?花岡地区は12時にサイレンが鳴っている。何事も看板だけ立派でもダメだと思う	60 歳代	女	花岡・生野屋
231	過去においては年末、年度末に道路の改修、整備工事を結構やられてきたと思いますが”突貫工事”的に行われた為か、騒音や粉じん等の発生には対策がなされておらず地区民には少なからず迷惑をかけた状態になっていると思うことがありました。そのような状況になっているとき、市の職員の方の姿を見たことがないのは”わたし”だけかもしれませんが市(行政)としては業者に「丸投げ」していると市民に思われたいよう、午前中に2回、午後から2回以上現場のパトロールを実施するようになったらいいかでしょう。安全対策面、環境面のチェック及び施工状況(技術的なチェック)の確認を洩らさず実行していただくようお願いいたします	70 歳代	男	末武
232	机上のプランに終わらないよう願っています	80 歳代	女	下松
233	行政運営の中で市役所等の対応をもう少し丁寧にするべきでは。利用後、不快に感じたことがあった	50 歳代	男	下松
234	行政窓口の対応を良くしてほしい	50 歳代	男	末武
235	現井川市長さんは、大変高齢にもかかわらずよく勤めておられますが、後1、2期と続けてほしいと思っています。願わくば市議会議員の定数も少し考えてほしい。定数を少なくしてよいと思いますがどうでしょうか	80 歳代	男	花岡・生野屋
236	市会議員さんの声など全くわからず、連絡等もない。市広報だけではわかりにくい。特に市に反対票を出している人の考えなど知りたい	80 歳代	男	久保・東陽
237	市会議員の人数が多いと思います。減らして子育て支援した方がよい	60 歳代	女	久保・東陽
238	市会議員を二割くらい減らしてください	60 歳代	男	笠戸島
239	市議会議員が多すぎる	30 歳代	男	末武
240	市議会ですべて決められていくが、本当にそれは市民の意思なのか。知らないことが多すぎてわからない	30 歳代	女	下松
241	市議会をテレビで観ていますが、議員の政策提案がない。もう少し議員は自覚してほしい	70 歳代	男	花岡・生野屋
242	市長の言う「自主、自立」のまちづくりに賛同します。今後も単独市制を選択して正解だったと言われるよう地道にまちづくりを推進してほしい	40 歳代	男	下松
243	市民のニーズや価値観の多様化などで行政だけでは地域の課題にきめ細かく向き合うことが困難になってきていると思います。わたしたちひとりひとりも汗を流し、サービスの受け手だけでなく自治の活動やボランティア活動等どんなことでも自分にできるものに参加し、行政に頼るだけでなく意識を変えていく必要があると思います。また、行政についても机上だけでな	60 歳代	女	末武

	く地域に積極的に出ていき、市民と同じ目線またそれ以上の考えで下松市を見てほしいと思います。情報の発信も必要です。市民と行政でそれぞれができることを考え、それぞれの役割分担のもとに行動すればもっと住みよい下松市が実現すると思います			
244	住民票など休日もとれるようにしてほしい	50 歳代	女	花岡・生野屋
245	〇〇の運営体制について提言したい:最近組織体制が崩壊されつつあります。特に問題視されているのは●●の横暴が目につきます。徹底した内部調査を切望します	70 歳代	男	末武
246	数年前に久保公民館で県土木の方を招いて災害等有事の際の説明会がありましたが、あまりにも内容が貧弱で市担当者の勉強不足、準備不足を痛感しました。説明もしどろもどろでよくわからず、ただ「説明会を開催した」と言う実績を残したかったのではないかと疑いたくなるくらいでした	60 歳代	男	久保・東陽
247	生活保護の支援認定は誰がどのようにして判断するのか。市会議員の市民への考え方。誰のための議員なのか?選挙の時だけの議員の顔では困る。議員ひとりひとりの意見を持ってほしい	70 歳代	男	下松
248	全国的に見ても、若い有能な人材が市長になっている。元気な現市長ですが、若返りは絶対必要です。次回は降りるものと思っておりますが・・・若い人に譲ってください	70 歳代	男	末武
249	特に期待はしていない。赤字運営はしないでほしい	40 歳代	男	下松
250	役所の人の対応が悪い、対応する人で対応の仕方に差がある。職安の人に最高にクソな対応があった。もう二度と下松の職安には行かない。あいつらのせいで役人や公務員への不信感二度となくなることはないだろう	20 歳代	男	花岡・生野屋
251	わかりやすい行政窓口と対応を心掛けてほしい	60 歳代	男	米川

⑧下松市・市政全般への意見・要望

	意見内容	年齢	性	地区
252	”まちづくり”が見えてこない。住みやすさランキングの過去の栄光を引きずって何もしていないのでは?「下松に住んで良かった」と年をとって言える”まち”にしてほしい	30 歳代	男	下松
253	今独身不男女が増えている。お見合いの機会を下松市で作ったらどうですか	60 歳代	男	久保・東陽
254	今の時代は変わろうと思えば変わる時代であると考えています。変わるに当たりその根拠がしっかりと説明でき、周囲の理解が得られれば変わる、変えることはそれほど難しいとは思いません。しかし変わらず守ることは大変難しい時代であると思うこの頃です。わたしは山口県の出身ではありませんが、女性の方の山口言葉はとてもおやかで大好きです。どんな方でも美しく見えてしまいます。畑をしているおばあさんが「今日はいいい天気です。農作物を作る我々にとって天気が良いとは幸いです」ととても丁寧です。人、教育、家庭、歴史、言葉、考え方、変わらないでほしいです。山口県の大切な資源です。子どもと老人にやさしく、教育に手を抜かず、お金を惜しまず、決してこの部分は変わらないでほしいです。花と緑と歌、あいさつの市のスローガンに子ども、老人(高齢者)を大切にを加えてください。これが「下松の教え」長く変わらず大切にしていきたいです。下松を出て行った人が「帰りたくなる町、誇れる町」は子ども、高齢者、人を育てる教育者、文化人、お手本となれる人に社会が手厚く大切にすること。そのためには役所も市民も無駄な部分は切っていくかねばなりません。無駄とは何か、広く公共のためにならないこと。個人の利益、その辺りをしっかり見直しが必要かと思えます。目先の利益に惑わされないようにしたいと思えます。形あるものは作りやすいが形のないものは難しいです	60 歳代	女	久保・東陽
255	今も住みやすいところだと思うが、歳をとっても住みやすいところであってほしいと思う	50 歳代	男	花岡・生野屋
256	活気あふれる美しい街がこれまで以上に住みやすく、また、長く続きますように下松市民としてひとりひとり意識向上に努めたいと思えます。もっと市民の力を活用し、一緒に”下松市”を盛り上げていきたいものです	50 歳代	女	久保・東陽
257	基本的なこととして貴重な「潮騒」が配布されているのにわたし自身、十分な理解をしていない点は反省させられます。下松市へ転入する前は周南市に住んでいました。下松市はすごく生活しやすい町です。(現在でも)恋路のスポーツセンターや図書館の移転、充実は典型的ですし、何より車さえあれば様々なお店も多く便利で助かります。コンパクトシティの良さが更に発展されることを望んでいます。周南市へUターンする前に30年間東京に住んでいたため、わたしの場合特に下松市の暮らしやすさを強く感じます	50 歳代	男	下松
258	居住年数が短くよくわかりませんがあまり住みやすい市とは思えません。(健康診断の充実や仕事など)	60 歳代	女	末武

259	下松市において全国ニュースになるような犯罪、事件、事故、災害等が発生していないことが大変良いことだと思います。特に特徴的な施設はありませんが、そのようなものは必要なく、市民が安全、安心、平和に暮らせるまちづくりが必要です。住み良さランキングが常に上位であることが継続されることを願います	30 歳代	男	久保・東陽
260	下松市はとても住みやすい町でわたしはとても好きです。市長さんががんばってください	70 歳代	男	下松
261	下松市はもっと若い人をいろいろなところで使ってください。トップももっと若い人が出てくることを、と思っています	70 歳代	女	末武
262	高齢者の多い町と言われるようになって、若い方がもっと住みやすく、明るい町になってほしいと感じます。今後楽しみにしています(良い案がないのが残念！)	60 歳代	女	末武
263	高齢になるにつれ乗り物に苦労します。週一回は移動店舗などができると良いと思います	60 歳代	女	末武
264	今後高齢化社会が進むが、わたしとしては若い人に魅力ある町であってほしい。若い人が下松に住みたいという方向の政策を望みたい。その意味では老人福祉についてはある程度割り切らざるを得ないと思います	70 歳代	男	久保・東陽
265	今後とも住みよいまちづくりを継続して市民が「住むなら、下松ね！」と思えるようお願い申し上げます	60 歳代	女	下松
266	昨年末に福岡より越してきました。水道代が安く、ゴミ袋も安く購入できるので助かっております。普段生活する上では良いのですが、買い物(服など)をする所が少ないのが悩みです。福岡や広島でばかり買い物をしているので、下松市も少しでも楽しい街になってくれるとうれしいです。特にイオンモールなどあれば良いのにといつも思います	30 歳代	女	末武
267	市長さんの温かい心が下松市に行き届いている。とてもいいまちです	70 歳代	女	末武
268	周南市と下松市の合同で徳山競艇場で花火をやってほしい。場外馬券売り場を作してほしい	40 歳代	男	末武
269	商業と文化がうまくマッチしていない	60 歳代	男	下松
270	昭和 30 年に 20 歳で光市より嫁に来て栄町で自営業(借家)区画整理で恋ヶ浜に引越、家を新築、自営業昭和 41 年～51 年(51 年より会社勤め、52 年に集団移転で中央町に新築)52 年～27 年間勤める。主人が平成 12 年に亡くなり 13 年に長男一家と同居、家を建て替え現在に至る。会社を退職後パート 10 年になり、元気ならまだ働きたいと思います。住み良さは周南市、光市よりきれいな街づくり、花と緑に恵まれた水資源、大型の店や駐車場の広さ、他市より恵まれていると思います。行政の皆様や市民の努力協力が作り出していると思います。欲を言えば豊井地区や恋ヶ浜の道幅が狭い所や空き家が多いのが気になります。少し田舎に入っても空き家になっているところが多く見えます。若者が住みやすく、働ける職場を増やし、人口が増えることを願います。下松市に住んで幸せだとしみじみ思います。ありがとうございました	70 歳代	女	末武
271	住みやすい下松市にこれからもよろしく願います	60 歳代	女	花岡・生野屋
272	住みやすいまち、住んでみたいまちのランク上位に位置している下松、一市民として益々の充実を応援しています	80 歳代	女	花岡・生野屋
273	住みよい町づくりをお願いします。元気のある町、安心して生活できる町	70 歳代	女	下松
274	沢山の市民が参加できるようにいろんなイベントを開催してほしいです	40 歳代	女	久保・東陽
275	店舗、病院が多いが全く魅力がなく面白くない。住みやすいとは思いますが都会へ出て行った若者は帰ってこないと思う。働く以外何を、どこで遊ぶのか。気持ちがさみしくとても退屈ではないのか。刺激のないまち、若者にとってはかわいそうな町と思う。落ち着きを求める人や都会で疲れた人が住む町。これ以上発展しないと思う。店舗が多くてもそれ以上の魅力はない。便利なだけです。一体何をして休日を過ごせばいいのか。服にしる中途半端で残念。何にもない町と思う	50 歳代	女	末武
276	特にありませんが下松市が発展するよう、よろしく願います	70 歳代	女	下松
277	とても良い方向に進んでいると思います。日本一の下松市へ向かって頑張ってください	80 歳代	男	末武
278	夫婦共に下松市出身ではないので、あまり下松市に愛着はありません。わたしは福岡出身なので、公共交通機関の少なさ、買い物場所の少なさに残念です。服やバッグなどはわざわざ福岡に戻って買うように心がけています。後、田舎である分地域の結束力は強いみたいですが、狭いコミュニティ内での噂話、余所者を排除しようとする力は他県よりも強いのではないのでしょうか。田舎の人はうわさが三度の飯より好きで脚色までして狭いコミュニティで流してどこが面白いのだろうかと思います。住みよい町中四国No.1らしいですが、正直いつでも実家ぐらの繁栄と淡白なコミュニティを望みます	30 歳代	女	下松
279	ゆるキャラの「ほしこちゃん」は市外発信時には使用を控えた方が良いと思います。手作り感の味が喜ばれる場合と、そうでない場面、TPO に合わせてほしいです。そして、市自体のゆるキャラを作ることがあれば、もっと質を向上してほしいのと、身体の形が星(テーマやモチ	20 歳代	女	花岡・生野屋

	ーフが、ではなく)と言う点もできれば改善してほしいです			
280	良い意味でコンパクトにまとまった町だと思います。子育てもしやすく、様々なイベントや公園、笠戸パーベキュウ等利用させてもらっています	30 歳代	女	下松

⑨その他の意見

	意見内容	年齢	性	地区
281	16年ぶりに下松市に帰ってきました	20 歳代	男	下松
282	ありがとうございます	40 歳代	男	久保・東陽
283	今まで家庭と仕事で一生懸命でしたが、これを機会に気持ちを切り替えてみます	60 歳代	女	花岡・生野屋
284	行政運営や税金の使い方など今まで関心がなかったのですが、これからはいろいろな面で関心持つように心がけたいと思います	60 歳代	女	下松
285	この地に店を構えて数十年、幸せに過ごさせてもらっています。皆様に感謝しています。ありがとうございます	80 歳代	女	下松
286	市では〇〇パトロール(老人グループ)実行していますが、信号は黄色で小走りにみんなで渡る、中央線歩道では歩道いっぱい老人がしゃべりながら歩く・・・大人らしく、もっと正してほしいです。(安全パトロールの黄色だったと思う)見苦しいです	60 歳代	男	末武
287	スーパー等の障害者等の駐車スペースについて、ルール無視で停められていることがあり利用者が利用したくてもできないときがあるのでなんとかしてほしい	30 歳代	女	花岡・生野屋
288	住みやすい、安心して生活できる下松市のために、今後ともよろしく願いいたします(大企業やお金持ち中心ではなく、一般の人の意見も大切にしてください)	60 歳代	女	末武
289	転居してあまり時間が経っていない為市政についてわからない部分が多い	30 歳代	男	末武
290	何をしたら良いのかかわからないけれど、できることには挑戦したいとの思いもあります	80 歳代	女	末武
291	年齢と共に足腰悪いところだらけでこの度、自治会の班長を辞めたいと言ったら皆から一斉に突き上げられた。皆は見かけだけでひとの中身は知りもせず坂が上がったり下りたりバランスが悪いのでできないと困ったら、ある人には、這ってでも班長をやれと言われた。自治会の仕事はするべきとは思っても身体の不自由はどうしようもない。自治会のことも年齢で定年があってもいいと思うのだがそれも許されないのだろうか？どの人間にも労り、やさしさがないのには、この度驚いた。今まで一生懸命やってきたのだから、少しはこちらの気持ちもわかってほしい。人の中身は見掛けだけではわからない。もっとやさしさ、労りがほしい	70 歳代	女	下松

⑩本アンケートについての意見

	意見内容	年齢	性	地区
292	(河村れんじ市長が地ならしをされ、県・国とのパイプを活かされてきた上で)この下松市を、天才的なひらめきと説得力を駆使して開花された井川市長ですが、それに縋りすぎることなく上手に後継者づくりをなさる姿勢をこのアンケートに感じ入りました。それにしても天災的被害の多発、人心の乱れ(残酷な事件の多発等・・・)、世界の変革で政治や行政も大変な試行となりそうです。ご健闘を祈る	70 歳代	男	久保・東陽
293	〇アンケートは良い事だと考えますが、内容(多すぎる)を絞って見やすく、答えられるようにしていただきたい 〇何回かに分けてのアンケートを望む	60 歳代	男	花岡・生野屋
294	下松に住んで本当に住みやすく満足しています。ですが、最近不妊に悩む人が周りに多く、専門の病院の前を通るといつも車がとめられないくらい満車です。今でも十分支援はあるのですが助成金の期間が決まられていて、その期間を過ぎると助成が受けられないので経済的に不妊治療ができず子供が欲しくてもあきらめざるを得ない若い人が多いそうです。もっと期間を増やすと少しでも子供の出生率を上げることができるのではないのでしょうか。また下松市は公立の幼稚園がなく近くで通わせようと思ったら月謝の高い私立しか選択肢がないとも聞きます。少子化が進み今の時代に公立幼稚園を新設することは難しいかもしれませんが、近くに安い月謝で通える公立幼稚園があれば、2~3人子供がいても負担が少ないのになあと思います。でも下松市は市民の意見をきちんと聞いてくださり、本当に良い市だなあと思います。アンケートを通じて知らなかった事業もあり、もっと積極的に下松のまちづくりについて考え、もっと興味を持って暮らし、もっともっといいまちになるようにわたしも努力していきたいと思いました。これからはずっと下松市で暮らしていきたいと思っていますのでよろしくお願いたします	30 歳代	女	花岡・生野屋
295	この様なアンケートより地道に市民の意見を聴こうとするようお願いしたい	20 歳代	女	久保・東陽

296	今回のアンケートのようにランダムに選んで市民の小集会を開くことで積極的な意見や考え方を知ることができるのではないかと考えます。日本人は自ら声を上げることはあまりしません が意見を述べてくださいと言われると、みなさんそれぞれ素晴らしい考えを持っていることはよくあります。ひとは誰でも生まれ育った町が寂れてほしいと思っていないです。原風景はいつも活気に満ちている方がいいのです	50 歳代	女	下松
297	質問が難しいので答えにくかった	60 歳代	男	下松

【 参 考 】

まちづくり市民アンケート



下松市

■問1. まず、あなたご自身のことについておたずねします。次の項目ごとに該当する番号をひとつずつ選んで□の中に記入してください。

a. あなたの年齢は？

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代
5. 60 歳代 6. 70 歳代 7. 80 歳代

b. あなたの性別は？

1. 男 2. 女

c. あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか？

- している → { 1. 自営業者・会社経営者・農林漁業者
 2. 会社員・公務員・店員など（常勤で雇用されている）
 3. パート・アルバイト・非常勤など時間限定的・臨時的な仕事
していない → 4. 収入を得る仕事はしていない

※1、2、3にまたがって兼業している場合は、収入の多い方でお答えください。

d. あなたが下松市にお住まいの経緯は次のうちどれですか？

1. 生まれてからずっと下松市に住んでいる
2. 下松市出身だが、一度市外に出て再び下松市に戻ってきた
3. 市外出身で、10年以上前に下松市に転入してきた
4. 市外出身で、最近（10年未満）に下松市に転入してきた

◎【上問（d）で2～4とお答えの方におたずねします。】

下松市に転入する前はどちらにお住まいでしたか？

1. 周南市（合併前の旧市町を含む） 2. 光市（旧大和町を含む）
3. その他山口県内 4. 広島県 5. その他中国・四国地方
6. 九州・沖縄地方 7. 近畿地方 8. 中部地方 9. 関東地方
10. 東北・北海道地方 11. 海外

e. あなたのお住まいの地区は？

1. 下松地区（下松中央・豊井公民館区） 2. 末武地区（末武・中村公民館区）
3. 花岡・生野屋地区（花岡公民館区） 4. 久保・東陽地区（久保公民館区）
5. 笠戸島地区（笠戸・笠戸島・深浦公民館区） 6. 米川地区（米川公民館区）

f. あなたのお宅では「土地」を所有していますか？（マンション等の区分所有を含みます）

1. 所有している 2. 所有していない

↓

◎【上問（f）で1とお答えの方におたずねします。】

所有している「土地」の用途はどのようなものですか？（該当の番号を○で囲んでください。ここでは複数回答できます）

- | | |
|--|---------------|
| 1. 自身や家族の居住用 | 2. それ以外の用途の宅地 |
| 3. 農地 | 4. 山林 |
| 5. その他（ ） | |

■問3. あなたは、次のような活動に現在どの程度参加していますか。また、今後どの程度参加したいと思いますか。次のa～fについて、下のそれぞれの選択肢から1つずつ選んで、番号を口の中に記入してください。(a～fのすべてにお答えください)

	(現在)	(今後)
a. 自治会、隣近所などの活動 -----	<input type="text"/>	<input type="text"/>
b. 子ども会、PTA、婦人会、老人会などの活動 --	<input type="text"/>	<input type="text"/>
c. 教養、趣味、スポーツなどのサークル活動 -----	<input type="text"/>	<input type="text"/>
d. まちづくり団体や地場産業おこしなど地域活動 --	<input type="text"/>	<input type="text"/>
e. 福祉、環境、災害救助、被災地支援などの活動 --	<input type="text"/>	<input type="text"/>
f. 人権、国際交流などの活動 -----	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(現在の参加程度) <u>選択肢</u>	(今後の参加希望) <u>選択肢</u>
1. 自ら機会を作って積極的に参加している 2. 機会があればできるだけ参加している 3. つきあいで、ある程度は参加している 4. あまり参加していない 5. 全く参加していない	1. 自ら機会を作って積極的に参加したい 2. 機会があればできるだけ参加したい 3. つきあいで、ある程度は参加したい 4. あまり参加したくない 5. 参加するつもりはない

■問4. 地域のまちづくりは、行政（市役所など）が一方的に進めるのではなく、市民と行政と一緒に考え協力し、役割を分担しあって進めること（これを「協働」といいます）が重要となっています。あなたは、より参加しやすい「協働」のしくみを地域でつくっていくために、何が重要だと思えますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

1. 市や県など行政が持っている情報を市民に積極的に公開、提供すること
2. 市民や市民活動団体などの意見や意向、アイデアなどを行政がよく聞くこと
3. 自治会やNPO（民間非営利組織）など自主的に活動する組織を育てること
4. 道路や公園の清掃や管理など、市民ができることを自主的にすすんで行なうこと
5. 環境パトロールやリサイクルなどの事業に市民が組織的に関わり取り組むこと
6. 地域の福祉などに関するボランティア活動への参加を増やし盛り上げること
7. 生涯学習や文化・スポーツなどのイベントを市民と行政が一緒に行なうこと
8. 自治会、子ども会などの地域組織活動を見直し、活発化させること
9. 地域でのまちづくりのさまざまな活動のリーダーとなる人を育てること
10. 市民自身がまちづくりを学び、行動する意識や力を高めること
11. 市や県など行政の事業や計画などに市民が参加する機会を増やすこと
12. 行政がまちづくりの施策を企画立案する能力を高め、市民に示すこと
13. その他（ ）

■問7. これまでの下松市のまちづくり施策について、あなたはどの程度満足していますか。次の分野ごとに、それぞれの「現在の満足度」の程度を1～6の中から1つずつ選んで、番号を○で囲んでください。

	現在の満足度 →							
	1 満足	2 まあ満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 わからない		
(1) 道路、交通網の整備 -----	1	2	3	4	5	6	--	1
(2) 鉄道・バスなど公共交通の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	2
(3) 公園・緑地の整備 -----	1	2	3	4	5	6	--	3
(4) 下水道、河川の整備 -----	1	2	3	4	5	6	--	4
(5) 市街地の開発や住宅地環境の整備 -----	1	2	3	4	5	6	--	5
(6) 農林業の振興 -----	1	2	3	4	5	6	--	6
(7) 水産業の振興 -----	1	2	3	4	5	6	--	7
(8) 中小企業の保護と育成 -----	1	2	3	4	5	6	--	8
(9) 雇用の確保や企業誘致 -----	1	2	3	4	5	6	--	9
(10) 地域商業の活性化 -----	1	2	3	4	5	6	--	10
(11) 観光資源の開発や施設の整備 -----	1	2	3	4	5	6	--	11
(12) 自然環境の保全、保護 -----	1	2	3	4	5	6	--	12
(13) 上水道の整備や水質の維持向上 -----	1	2	3	4	5	6	--	13
(14) ゴみの収集・処理とリサイクルの推進 -----	1	2	3	4	5	6	--	14
(15) 学校教育の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	15
(16) 生涯学習機会の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	16
(17) 市民スポーツの振興 -----	1	2	3	4	5	6	--	17
(18) 市民文化活動の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	18
(19) 高齢者や障害者の福祉対策 -----	1	2	3	4	5	6	--	19
(20) 少子化対策（子育て支援など） -----	1	2	3	4	5	6	--	20
(21) 健康づくりや医療の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	21
(22) 地域のコミュニティ活動の充実 -----	1	2	3	4	5	6	--	22
(23) 男女共同参画（性別に関わりなく個性や能力が 発揮できる社会づくり）の推進 -----	1	2	3	4	5	6	--	23
(24) 消防・防災・防犯・交通安全などの安全性の向上 -----	1	2	3	4	5	6	--	24
(25) 他の地域や世界との交流活動 -----	1	2	3	4	5	6	--	25
(26) 情報化の推進（インターネット活用など） -----	1	2	3	4	5	6	--	26

■問8. これからのまちづくりにおいて、あなたは特にどのような分野の施策を進めることが重要だと思いますか。上の26の分野から5つ以内選んで、右側欄の番号を○で囲んでください。

■問 11. 市北部の米川地区は、豊かな自然の中で農林業を中心に生活が営まれてきましたが、やはり人口が流出し、集落の機能が低下しています。今後の米川地区の活性化のためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--

1. 農業や林業の基盤づくりや組織づくりなどを通じ、特徴ある農林産物を産み出し、経済的な活力の再生を目指す。
2. 宅地や住宅の提供などにより、市街地に隣接した自然豊かな中でゆとりある生活ができる定住の場として人を呼び込む。
3. 豊かな山林や農地などを活かし、自然体験や農業体験などもできる交流の場となるような仕組みをつくる。
4. 地区内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を進め、現在の住民の定住条件を向上させ、人口流出を抑制する。
5. その他 ()

■問 12. 下松市をより元気に、活気あるまちとしていくために、どのような方向で市内の産業を育成していくべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--

1. 地域の中小企業の経営支援などにより地場産業の力を強化する。
2. 新たな企業などの誘致を積極的に行う。
3. 農業・商業・工業など産業間、企業間の連携を促進し、新しい製品や価値を産み出す。
4. 県内外の高等教育機関などとの連携も含め、新技術・新商品の研究開発を促進する。
5. 産業に関わる人材育成を積極的に行う。
6. 商業施設や観光拠点など人が集まる機能の強化を重視し、市内消費を拡大させる。
7. 農林業、水産業に光をあて、新しい可能性を追求する。
8. 情報や新エネルギーなど新しいサービス・技術を活用した産業展開を促進する。
9. その他 ()

■問 15. 高齢者が増加し、本格的な高齢社会を迎えています。このような時代におけるまちづくりには、どのようなことが特に重要となると思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

--	--

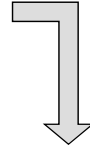
1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制の充実
2. 居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実
3. 要介護状態になることを防ぐ介護予防の推進
4. 認知症高齢者に対する保健福祉サービスの提供
5. 高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケア」の強化
6. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
7. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり
8. 高齢者の社会参加などによる生きがいつくりの推進
9. 壮年期からも含めた健康づくりの推進
10. その他 ()

■問 16. 阪神・淡路大震災や東日本大震災、相次ぐ豪雨災害などの発生により、防災対策への関心が高まっています。あなたは、次のような日頃の災害への備えをしていますか。a～gまでのそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んで番号を○で囲んでください。

	1 十分に 「はい」	2 不十分だが 「はい」	3 「いいえ」
a. 非常時の持ち出し品をまとめて用意している	1	2	3
b. 食糧や水、燃料など数日分の備蓄がある	1	2	3
c. 安全な避難路、避難場所を確認している	1	2	3
d. 家族や身近な人と非常時の連絡方法を話し合っている	1	2	3
e. 家具などの転倒防止、落下防止の対策をとっている	1	2	3
f. 地域や職場の防災訓練などにすすんで参加している	1	2	3
g. 消防団や自主防災組織の一員である	1	2	3

■問 19. あなたは、これまでの下松市のまちづくり全般（行政の運営や税金の使い方など）をどのように評価されますか。当てはまるものを1つだけ選んで番号を口の中に記入してください。

- 1. とても良い
- 2. まあ良い
- 3. ふつう
- 4. あまり良くない
- 5. 悪い
- 6. 判断できない・わからない



◎【上問（問 19）で4 または 5 とお答えの方におたずねします。】
「あまり良くない」、「悪い」とお考えの主な理由は何ですか？

■問 20. そのほか、下松市の今後のまちづくりや行政運営についてご意見やご提案のある方は、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました